
年 報

平成18年度



財団法人 大阪府文化財センター



津田遺跡 05-1 掘立柱建物群と区画溝（鎌倉時代）



私部南遺跡 06- 1 第 1 調査区 大形円形住居（弥生時代前期末～中期初頭）



池島・福万寺 04－2 土器棺（弥生時代前期）



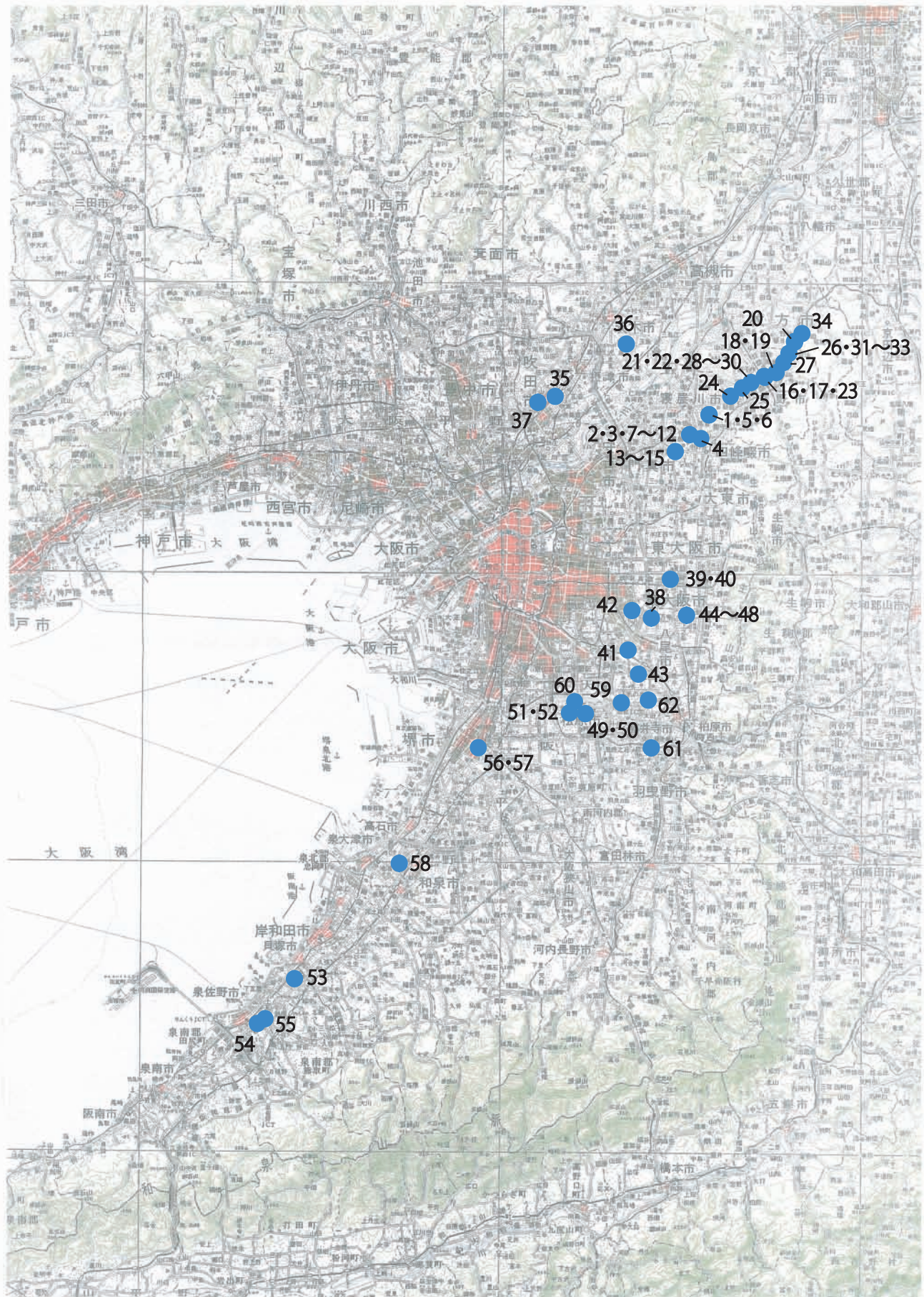
玉櫛遺跡 06－1 木製鞍（古墳時代後期）

堺環濠都市遺跡 06-1 慶長二〇年の火災にあった博列建物



湊遺跡 06-1 未使用の製塩土器（土器群 4）

実施事業位置図



(地図は国土地理院平成 11 年 8 月 1 日発行 1/20 万 京都および大阪、和歌山を縮小した。)

目 次

巻頭カラー	
実施事業位置図（カラー）	
目次	
I 財団法人大阪府文化財センターの沿革と機構	1
1. 設立の趣旨	1
2. 沿革	1
3. 概要	3
(1) 目的	3
(2) 事業	3
(3) 出資者	3
(4) 基本財産	3
(5) 機構	3
(6) 役員・評議員及び職員	4
a 役員	4
b 評議員	4
c 機構	5
d 職員	6
II 平成 18 年度事業概要及び決算	7
1. 理事会及び評議員会	7
2. 決算	8
3. 調査事業の概要	10
(1) 調査事業一覧	10
(2) 調査の概要	18
a 京阪支所	18
b 中部調査事務所	26
c 南部調査事務所	31
(3) 保存処理事業	36
(4) 現地説明会等	37
4. 普及啓発事業	41
A. 文化財講演会事業	41
(1) 府立三博物館館長リレー講演会	41
(2) 重要調査に基づくシンポジウムの開催	41
(3) 職員による文化財調査に関する 講演会の実施	42
(4) ミニ講座、見学ツアー等の実施	42
(5) 文化財講座の実施	44
(6) 郷土の文化財を見学する会の実施	44
B. 文化財展示会事業	46
(1) 展示会の実施	46
C. 文化財体験学習事業	48
(1) 体験学習等の受け入れ	48
(2) 発掘現場等の見学の受け入れ	48
D. 文化財資料収集事業	49
(1) 文献及び文化財情報の収集・整理	49
(2) 文化財情報のデジタル化	49
E. 文化財資料提供事業	49
(1) インターネット及び報道機関を通じての、 当センターの発掘調査やイベント、 出版等に関する情報の提供	49
(2) 資料の出品、写真資料、 ビデオなどの貸出	49
(3) 図書の出版・販売	58
(4) 出版物の寄贈・配布	60
F. 文化財研究事業	60
(1) 大阪府埋蔵文化財研究会 （第 53・54 回）の実施	60
(2) 「近畿ブロック埋文研修会」と 「近畿ブロック埋文情報」	61
(3) 第 17 回考古学国際交流研究会	61
(4) 弥生文化・近つ飛鳥 ・日本民家集落博物館との共同研究	61
G. 文化財記録保存事業	63
(1) 映画の制作	63
(2) その他	63
H. 文化財調査支援事業	63
(1) ニュースレター（OCCH）の発行	63
(2) 年報の編集と発行	63
I. 広報事業	63
III 大阪府立弥生文化博物館事業	64
1. 展示事業について (1) ～ (2)	64
2. 講演会事業等 (1) ～ (6)	66
3. 普及事業 (1) ～ (7)	69
4. 学校との教育連携 (1) ～ (9)	72
5. ボランティア活動	74
6. 広報事業 (1) ～ (10)	74
7. 研究事業	75

8. 資料調査収集事業	75
9. サービス事業 (1) ～ (3)	75
10. 自主事業	76
11. 入館者および入館料一覧表	76
IV 大阪府立近つ飛鳥博物館事業	77
1. 展示事業について (1) ～ (2)	77
2. 講演会事業等 (1) ～ (4)	82
3. 広報普及事業 (1) ～ (13)	83
4. 学校教育連携事業 (1) ～ (6)	85
5. 研究事業 (1) ～ (2)	86
6. 資料調査収集事業 (1) ～ (4)	87
7. サービス事業	87
8. 自主事業 (1)	88
9. 入館者数	88
V 日本民家集落博物館事業	89
1. 50 周年事業について	89
2. 日向椎葉の民家の解体修理について	89
3. 展示事業について (1) ～ (8)	90
4. 普及啓発事業について (1) ～ (10)	96
5. 広報事業について (1)	98
6. 館内施設の整備について (1) ～ (2)	98
7. 「移築民家を守る会」について	99
8. 入館者及び入館料一覧表	99

事務所・博物館所在地

I 財団法人大阪府文化財センター沿革と機構

1. 設立の趣旨

社会資本整備のための公共事業や民間事業者による開発行為によって国土の自然環境や歴史的環境が急速な変貌を遂げている現在、後世に伝えるべき貴重な文化財の保存・活用、歴史的景観の保全等を図ることが行政に求められている。

これに応えるためには、有形・無形・民俗文化財等の保全・活用を図るための調査・研究体制を構築するとともに、調査や資料収集の成果の公開や文化財愛護意識の高揚のための普及啓発、文化財を通じた国際交流も積極的に行っていく必要がある。

一方、埋蔵文化財調査についても、数多くの各種公共事業が府下において計画されていることに伴い増加する傾向にあるため、事業者からは円滑な事業実施ができるように調査の迅速な実施が求められており、体制を整備していかなければならない状況にある。

これらの課題に対応し、大阪府教育委員会と一体となった文化財行政の効率的かつ効果的な推進を図るため、平成7年4月に(財)大阪文化財センターと(財)大阪府埋蔵文化財協会を発展的に統合して、財団法人大阪府文化財調査研究センターが設立された。

平成14年4月に(財)大阪府博物館協会との統合により名称を(財)大阪府文化財センターとし博物館協会がこれまで行っていた「日本民家集落博物館」の民家等を引き継ぎ、これの公開管理運営を行うとともに、大阪府の「弥生文化博物館」並びに「近つ飛鳥博物館」及び「近つ飛鳥風土記の丘」の管理運営を大阪府教育委員会から受託された。平成18年4月から指定管理者として「弥生文化博物館」、「近つ飛鳥博物館」、「近つ飛鳥風土記の丘」の管理運営を受託し、センターの本来事業と合わせて、文化財の発掘調査・研究・保存・公開展示及び普及啓発を総合的かつ効果的・経済的に推進し、もって大阪府の文化財行政に寄与していく。

2. 沿革

昭和 47.11.28	・大阪府教育委員会の認可を受け、財団法人大阪文化財センター設立。
48. 1.10	・第2阪和国道発掘調査に伴う遺物整理事業に着手。
48. 4. 1	・事務局を設置。(職員数12名)
48. 5.25	・第1回理事会において評議員を選出、評議員会を設置。
51. 7.26	・近畿自動車道天理～吹田線内に所在する遺跡の発掘調査に着手。
55. 8.19	・全国埋蔵文化財法人連絡協議会の設立に参画、副会長となる。
57.11.27	・財団法人大阪文化財センター設立10周年記念式典を開催。
58. 9. 1	・近畿自動車道天理～吹田線の発掘調査に伴う出土遺物の整理事業の開始。
59. 6. 1	・都市計画道路と近畿自動車道和歌山線の併設区間の発掘調査に着手。
60. 4. 1	・財団法人大阪府埋蔵文化財協会設立。
61. 2.28	・近畿自動車道天理～吹田線発掘調査終了記念事業(写真パネル展、講演会、映画会)を開催。
3. 4	
平成元. 4. 1	・都市計画道路松原泉大津線と近畿自動車道和歌山線の併設区間の発掘調査に伴う出土遺物の整理事業の開始。
	・大阪府恩智川治水緑地建設予定地内遺跡の発掘調査に着手。

平成 2.4.1	・大阪府新庁舎建設整備事業地内の大坂城跡発掘調査に着手。
2.9.1	・財団法人大阪府博物館協会設立。
3.3.1	・大阪府より委託を受け、安威川総合開発事業に伴う文化財総合調査に着手。
4.11.27	・財団法人大阪文化財センター設立20周年記念式典を開催。
7.3.31	・財団法人大阪府埋蔵文化財協会との統合にかかる寄附行為の変更認可を受ける。
7.4.1	・財団法人大阪文化財センターと財団法人大阪府埋蔵文化財協会と統合し、新組織を財団法人大阪府文化財調査研究センターとして発足。 ・本部事務所を大阪市城東区蒲生2丁目11番3号小森ビル内に設置。新たに北部調査事務所を茨木市横江1丁目17-34に開設。旧財団法人大阪文化財センター長田分室を中部調査事務所とし、旧財団法人大阪府埋蔵文化財協会泉大津調査事務所を南部調査事務所とする。 組織の改正により、総務部、調査部の2部制とし、総務部に総務課、普及資料課を置き、調査部に調整課及び北部、中部、南部の3調査事務所を置く。
7.10.3	・史跡整備事業に初めて着手（池上曾根遺跡）。
7.12.15	・南部調査事務所を堺市熊野町西1丁目2-22に移転。
8.9.30	・北部調査事務所を箕面市今宮3丁目19-2に移転。
9.2.12	・泉佐野収蔵庫竣工。
9.3.31	・泉ヶ丘資料室（堺市竹城台3-21-4）竣工。
10.1.12	・南阪奈道路関連の調査事業に着手するため、南部調査事務所古市分室を羽曳野市 軽里3丁目1-13に開設。
10.3.31	・南部調査事務所泉北分室を閉鎖。
12.8.21	・本部事務所を 堺市竹城台3丁目21番4号に移転する。
13.2.1	・南部調査事務所を 堺市南田出井町1丁目1番10号に移転する。
13.10.31	・泉佐野収蔵庫を泉佐野市に移管する。
14.2.25	・財団法人大阪府博物館協会との統合にかかる寄附行為の変更認可を受ける。
14.4.1	・財団法人大阪府文化財調査研究センターは財団法人大阪府博物館協会と統合し、「財団法人大阪府文化財センター」に名称変更。 組織の改正により、総務部、調査部、普及部の3部及び弥生文化博物館部、近つ飛鳥博物館部、日本民家集落博物館部の3博物館部を置く。 日本民家集落博物館の管理運営、並びに大阪府立弥生文化博物館及び大阪府立近つ飛鳥博物館の管理運営の受託事業を財団法人大阪府博物館協会より引継ぎ、実施。
14.11.1	・泉佐野収蔵庫（市に移管した収蔵庫の北西隣接地に）竣工。
15.3.31	・北部調査事務所を閉鎖。
15.4.16	・第二京阪道路建設の調査事業の増加に伴い、京阪支所を寝屋川市堀溝1丁目1-15に開設、京阪支所交野分室を交野市藤が丘1丁目2に開設。
16.4.1	・京阪支所を京阪調査事務所に、中部調査事務所池島分室を池島支所に名称変更。
18.1.31	・泉佐野第二収蔵庫を泉佐野市高松西2丁目2に竣工。
18.3.28	・京阪調査事務所門真分室を門真市岸和田2丁目5-32に開設。
18.4.1	・大阪府弥生文化博物館及び大阪府立近つ飛鳥博物館並びに近つ飛鳥風土記の丘の管理運営を指定管理者として受託。

3. 概 要

(1) 目 的

大阪府下における文化財の調査、整理、保存、研究、整備及び活用を行い、大阪府の文化財の保護並びに文化財に対する理解と認識を深めることに寄与する。

(2) 事 業

設立趣旨に基づき次の事業を行う

- ①埋蔵文化財の調査、整理、保存、研究及び活用
- ②史跡、名勝及び天然記念物の調査、保存、研究、整備及び活用
- ③有形・無形・民俗文化財の調査、保存、研究、整備及び活用
- ④文化財に関する資料、情報の収集及び管理
- ⑤文化財の普及啓発
- ⑥日本民家集落博物館の管理及び運営
- ⑦大阪府が設置する博物館の管理及び運営の受託
- ⑧大阪府立近つ飛鳥風土記の丘の管理及び運営の受託
- ⑨その他目的を達成するために必要な事業

(3) 出 資 者

財団法人大阪府博物館協会、大阪府、松下電器産業株式会社、住吉大社、四天王寺、
財団法人藤田美術館

(4) 基本財産 116,700 千円

(5) 機 構 《施設所在地》

ア 本部事務所	堺市南区竹城台 3 丁 21 番 4 号
イ 京阪調査事務所	寝屋川市堀溝 1 丁目 1-15
ウ 中部調査事務所	東大阪市長田東 1 丁目 9 番 16 号
エ 南部調査事務所	堺市堺区南田出井町 1 丁 1 番 10 号
オ 京阪調査事務所交野分室	交野市藤が尾 1 丁目 2
カ 京阪調査事務所門真分室	門真市岸和田 2 丁目 5-32
キ 中部調査事務所池島支所	八尾市福万寺町 8 丁目地先
ク 南部調査事務所古市分室	羽曳野市軽里 3 丁目 1 番 13 号
ケ 普及資料課資料情報係	堺市竹城台 3 丁 21 番 4 号
コ 高石収蔵庫	高石市綾園 4 丁目地先
サ 岸和田収蔵庫	岸和田市磯上町 1 丁目地先
シ 泉佐野収蔵庫	泉佐野市上之郷（地内）
ス 泉佐野第二収蔵庫	泉佐野市高松西 2 丁目 2430-1
セ 大阪府立弥生文化博物館	和泉市池上町 443
ソ 大阪府立近つ飛鳥博物館	南河内郡河南町大字東山 299 番地
タ 日本民家集落博物館	豊中市服部緑地 1 番 2 号

(6) 役員・評議員及び職員

a 役員

(平成 19 年 3 月 31 日現在)

理事長	水野 正好	奈良大学 文学部名誉教授
専務理事	横山 敏郎	専任
理事	伊賀 節郎 大橋 太朗 金関 恕 近藤 公夫 佐々木高明 白石太一郎 高野 浩二 竹内 脩 田邊 征夫 福岡 澄男 藤 洋作 町田 章 松園万亀雄 森下 洋一 領木新一郎	(財)大阪府私学総連合会 代表 阪急電鉄(株) 相談役 大阪府立弥生文化博物館 館長 奈良女子大学 名誉教授 国立民族学博物館 名誉教授 大阪府立近つ飛鳥博物館 館長 元沖縄開発庁沖縄総合事務局 次長 大阪府教育委員会 教育長 独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所 所長 (財)大阪府文化財センター 普及部長 関西電力(株) 相談役 元奈良文化財研究所 所長 国立民族学博物館 館長 松下電器産業(株) 相談役 大阪ガス(株) 相談役
顧問	坪井 清足	(財)元興寺文化財研究所 副理事長兼所長
監事	中西 正人 藤田 周子	大阪府教育委員会事務局 理事兼教育次長 (財)藤田美術館 理事兼館長

b 評議員

(平成 19 年 3 月 31 日現在)

有川 春代	アーツ&クラフツ チタチタ 代表
池田 良治	弁護士
木村 博	大阪府町村教育長会 会長(能勢町教育委員会教育長)
蔵口 康裕	あずさ監査法人大阪事務所 公認会計士
佐藤 茂弘	ボーイスカウト大阪連盟泉州地区協議会 相談役
沢田 正昭	国土館大学大学院グローバルアジア研究科 21 世紀アジア学部 教授
杉本 尚次	大阪人間科学大学 人間科学部 教授
丹上 務	大阪府教育委員会事務局 文化財保護課長
辻本 勇	富本憲吉記念館 館長
都出比呂志	大阪大学 名誉教授
永本 定芳	大阪府都市教育長協議会 代表(岸和田市教育委員会教育長)
狭間恵三子	サントリー次世代研究所 主任研究員
林野 全孝	京都府立大学 名誉教授
東 利也	りそな銀行 大阪公務部長
藤本 裕子	報道記者(フリー)
真弓 常忠	住吉大社 宮司
南谷 恵敬	和宗総本山四天王寺 執事 法務部長



d 職員

職 名	氏 名	職 名	氏 名
事務局長	横山 敏郎	調査第二係長	森屋 美佐子
総務部長	浅田 稔	主任技師	岡本 圭司
総務係長	藤川 保	主任技師	本間 元樹
主査	白橋 哲	技師	川瀬 貴子
主事	朝間 理恵	技師	島崎 久恵
総務課長兼経理係長	秋山 芳廣	池島支所長	寺川 史郎
主任主事	白武 さよ子	調査第一係長	広瀬 雅信
主任学芸員	山城 統	主任技師	林 日佐子
主事	田渕 紀江	主任技師	田中 龍男
嘱託	酒井 則和	技師	廣瀬 時習
調査部長	赤木 克視	技師	内田 真雄
調整課長	田中 和弘	調査第二係長	西村 歩
調整第一係長	岡戸 哲紀	主査	陣内 暢子
技師	後川 恵太郎	技師	大庭 重信
調整第二係長	山上 弘	技師	塚本 浩司
主任主事	宮本 哲男	技師	福佐 美智子
設計係長	松元 政美	技師	湯本 整
主査	橋本 眞一	南部調査事務所長	大野 薫
技師	北村 敦彦	事務総括	猪上 悟
京阪調査事務所長	山本 彰	主任技師	立花 正治
事務総括	岩本 重和	調査第一係長	岡本 敏行
主査	上野 貞子	主査	入江 正則
調査第一係長	藤永 正明	主査	亀島 重則
主査	大柴 康宏	主査	積山 洋
技師	内田 好昭	主任技師	三宮 昌弘
技師	高橋 潔	技師	西川 寿勝
技師	森本 徹	技師	平田 洋司
技師	井上 智博	調査第二係長	中村 淳磯
技師	佐伯 博光	主査	村上 富喜子
技師	中尾 智行	主査	三木 弘
調査第二係長	金光 正裕	技師	山田 隆一
主査	辻 裕司	技師	小倉 徹也
技師	横田 明	技師	池田 研
技師	伊藤 武	技師	亀井 聡
技師	奥村 茂輝	技師	河端 智
調査第三係長	小林 義孝	技師	新海 正博
班長	三好 孝一	調査第三係長	岡本 茂史
主査	森井 貞雄	主任技師	竹原 伸次
主任技師	服部 文章	技師	市村 慎太郎
技師	船築 紀子	技師	正岡 大実
調査第四係長	石神 幸子	普及部長	福岡 澄男
技師	鈴木 廣司	普及資料課主幹兼企画普及係長	芝野 圭之助
技師	後藤 信義	資料情報係長	村上 年生
技師	黒須 亜希子	弥生文化博物館館長	金関 恕
調査第五係長	秋山 浩三	副館長兼企画管理課長	田淵 惠三
技師	長戸 満男	主任	峠 美穂
技師	小松 武彦	学芸課長	江浦 洋
技師	網 伸也	総括学芸員	合田 幸美
技師	南 孝雄	主任学芸員	永野 仁
技師	若林 幸子	近つ飛鳥博物館館長	白石 太一郎
中部調査事務所長兼資料室長	小野 久隆	副館長兼企画管理課長	巽 利文
主査	片山 彰一	主任	竹内 秀喜
主査	山口 誠治	副館長兼学芸課長	藤田 憲司
主任主事	鎗山 洋子	総括学芸員	市本 芳三
主任技師	服部 みどり	総括学芸員	小浜 成
調査第一係長	松岡 良憲	主任学芸員	鹿野 塁
班長	宮崎 泰史	日本民家集落博物館館長	井藤 徹
主任技師	駒井 正明	副館長	中村 友三
技師	中岡 勝	主任学芸員	小島 久美
技師	信田 真美世		

II 平成 18 年度の事業概要及び決算

1. 理事会及び評議員会

以下のとおり理事会及び評議員会を開催し、上程議案はいずれも承認又は可決された。

年 月 日	会 議 名 称	場 所	議 案
平成 18 年 6 月 23 日	第 1 回評議員会	ホテルアウィーナ大阪	1. 平成 17 年度事業報告及び収支決算について
	第 1 回理事会	ホテルアウィーナ大阪	1. 平成 17 年度事業報告及び収支決算について 2. 評議員の選出について
平成 19 年 3 月 29 日	第 2 回評議員会	ホテルアウィーナ大阪	1. 平成 18 年度補正予算（案）について 2. 平成 19 年度事業計画（案）及び収支予算（案）について 3. 理事及び監事の選任について
	第 2 回理事会	ホテルアウィーナ大阪	1. 平成 18 年度補正予算（案）について 2. 平成 19 年度事業計画（案）及び収支予算（案）について 3. 役員の選任結果の報告 並びに理事長及び専務理事の互選について 4. 評議員の選出について

2. 決 算

収 支 計 算 書 総 括 表

(平成 18 年 4 月 1 日から平成 19 年 3 月 31 日まで)

科 目		一般会計	弥生文化博物館 特別会計	近つ飛鳥博物館 特別会計
I	事業活動収支の部			
1.	事業活動収入			
	① 基本財産運用収入	1,541,217	0	0
	② 特定資産運用収入	11,233,637	0	0
	③ 会費収入	0	0	0
	④ 事業収入	3,317,646,953	166,154,695	197,989,125
	⑤ 補助金等収入	7,000,000	1,300,000	0
	⑥ 寄附金収入	0	0	0
	⑦ 雑収入	1,166,101	0	0
	⑧ 他会計からの繰入金収入	12,475,232	750,000	750,000
	事業活動収入計	3,351,063,140	168,204,695	198,739,125
2.	事業活動支出			
	① 事業費支出	3,071,147,578	164,050,858	195,242,473
	② 管理費支出	200,691,080	0	0
	③ 他会計への繰入金支出	3,880,233	3,615,208	3,246,373
	事業活動支出計	3,275,718,891	167,666,066	198,488,846
	事業活動収支差額	75,344,249	538,629	250,279
II	投資活動収支の部			
1.	投資活動収入			
	① 特定資産取崩収入	173,730,613	0	0
	投資活動収入計	173,730,613	0	0
2.	投資活動支出			
	① 特定資産取得支出	204,054,551	0	0
	② 固定資産取得支出	72,264,796	0	0
	③ 敷金・保証金支出	1,170,000	0	0
	④ 他会計への繰入金支出	60,000,000	0	0
	投資活動支出計	337,489,347	0	0
	投資活動収支差額	△ 163,758,734	0	0
III	財務活動収支の部			
1.	財務活動収入			
	① 他会計からの繰入金収入	0	30,000,000	30,000,000
	他会計からの繰入金収入計	0	30,000,000	30,000,000
	財務活動収入計	0	30,000,000	30,000,000
2.	財務活動支出			
	財務活動支出計	0	0	0
	財務活動収支差額	0	30,000,000	30,000,000
IV	予備費支出	0	0	0
	当期収支差額	△ 88,414,485	30,538,629	30,250,279
	前期繰越収支差額	88,414,485	0	0
	次期繰越収支差額	0	30,538,629	30,250,279

(単位：円))

日本民家集落博物館 特別会計	財団自主事業 特別会計	府立博物館自主事業 特別会計	内部取引消去	合 計
0	0	0	0	1,541,217
570,960	0	130,000	0	11,934,597
3,950,000	0	0	0	3,950,000
14,303,128	7,336,175	10,391,032	△ 1,718,842	3,712,102,266
48,335,000	0	0	0	56,635,000
1,018,166	0	116,184	0	1,134,350
1,625,294	103,039	625,369	0	3,519,803
1,349,233	2,621,000	0	△ 17,945,465	0
71,151,781	10,060,214	11,262,585	△ 19,664,307	3,790,817,233
72,831,323	7,687,990	7,420,058	△ 1,544,080	3,516,836,200
0	0	0	△ 174,762	200,516,318
0	2,372,224	4,831,427	△ 17,945,465	0
72,831,323	10,060,214	12,251,485	△ 19,664,307	3,717,352,518
△ 1,679,542	0	△ 988,900	0	73,464,715
8,329,250	0	0	0	182,059,863
8,329,250	0	0	0	182,059,863
7,629,586	0	0	0	211,684,137
0	0	0	0	72,264,796
0	0	0	0	1,170,000
0	0	0	△ 60,000,000	0
7,629,586	0	0	△ 60,000,000	285,118,933
699,664	0	0	60,000,000	△ 103,059,070
0	0	0	△ 60,000,000	0
0	0	0	△ 60,000,000	0
0	0	0	△ 60,000,000	0
0	0	0	0	0
0	0	0	△ 60,000,000	0
0	0	0	0	0
△ 979,878	0	△ 988,900	0	△ 29,594,355
1,003,526	0	12,205,137	0	101,623,148
23,648	0	11,216,237	0	72,028,793

3. 調査事業の概要

(1) 調査事業一覧

埋蔵文化財の発掘調査及び出土遺物の整理を事業施行者の委託を受けて、下記とおり実施した。

管轄		遺跡（調査名）	調査地	受託事業名	事業者	事業の種別	受託契約期間
京阪調査事務所	1	太秦（太秦古墳群）遺跡05-3〔整理〕	寝屋川市打上・国守町	太秦遺跡他	国土交通省近畿地方整備局浪速国道事務所	道路建設	H18. 4. 1～ H19. 3. 31
	2	讃良郡条里遺跡03-1〔整理〕	寝屋川市小路・高宮				
	3	讃良郡条里遺跡03-2〔整理〕	寝屋川市小路・高宮				
	4	砂遺跡06-1〔調査・整理〕	四條畷市砂				
	5	太秦（太秦古墳群）06-1〔調査・整理〕	寝屋川市国守町				
	6	太秦（太秦古墳群）06-2〔調査〕	寝屋川市国守町				
	7	讃良郡条里遺跡06-1〔調査〕	寝屋川市高宮・小路				
	8	讃良郡条里遺跡03-4〔整理〕	寝屋川市新家2丁目・四條畷市砂	讃良郡条里遺跡	国土交通省近畿地方整備局浪速国道事務所	道路建設	H18. 4. 1～ H19. 3. 31
	9	讃良郡条里遺跡03-5〔整理〕	寝屋川市新家2丁目				
	10	讃良郡条里遺跡03-6〔整理〕	寝屋川市讃良東町・讃良西町				
	11	讃良郡条里遺跡06-2〔調査〕	寝屋川市新家2丁目				
	12	讃良郡条里遺跡06-3〔調査〕	寝屋川市讃良東町				
	13	巢本遺跡03-1〔調査・整理〕	門真市北巢本町	巢本遺跡（その1の3）	国土交通省近畿地方整備局浪速国道事務所	道路建設	H18. 4. 1～ H19. 3. 31
	14	巢本遺跡03-2〔調査・整理〕	門真市北巢本町				
	15	巢本遺跡06-1〔調査〕	門真市北巢本町				
	16	私部南遺跡06-1〔調査〕	交野市私部南1丁目	私部南遺跡（その2）	国土交通省近畿地方整備局浪速国道事務所・西日本高速道路株式会社関西支社	道路建設	H18. 7. 1～ H19. 3. 31
	17	私部南遺跡06-2〔調査〕	交野市向井田1丁目	私部南遺跡（その1の2）	国土交通省近畿地方整備局浪速国道事務所・西日本高速道路株式会社関西支社	道路建設	H18. 9. 1～ H19. 3. 31

事業費	単年面積	時期・性格	主な遺構・遺物	担当者		備考
112, 418, 250	0	弥生時代～古代 集落・墓	方形周溝墓・堅穴住居・掘立柱建物 弥生土器・土師器・須恵器・石器・石製品	大楽康宏		
	0	縄文時代～中世 集落・生産	堅穴住居・掘立柱建物・井戸・流路 縄文土器・弥生土器・土師器・石器・石製品・銭貨	井上智博 (和田大作)		
	0	縄文時代～中世 生産	掘立柱建物・ピット・井戸・溝・土坑・流路 縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・埴輪・黒色土器・瓦器・瓦質土器・瓦・石器・石製品・金属製品	佐伯博光 (六辻彩香)		
	800	縄文時代～中世 集落	流路・溝・ピット 瓦質土器・青磁・白磁・瓦器・土師器・須恵器・弥生土器・縄文土器	佐伯博光 (六辻彩香)		
	190	縄文時代～中世 集落・生産	水田・掘立柱建物・堅穴住居・井戸・溝・土坑 縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・黒色土器・瓦器・陶器・磁器・石器・木製品	大楽康宏		
	1, 100	弥生時代～古代 集落・墓	溝・土坑・ピット 弥生土器・土師器・須恵器・瓦・石器	大楽康宏 (山根航)		
	810	弥生時代～中世 集落・生産	流路・溝 縄文土器・土師器・須恵器・木製品・石器	井上智博 (和田大作)		
190, 554, 000	0	縄文時代～中世 集落・生産	水田・掘立柱建物・堅穴住居・井戸・溝・土坑 縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・黒色土器・瓦器・陶器・磁器・石器・木製品	中尾智行 (山根航)	内田好昭	
	0	弥生時代～中世 集落・生産	水田・掘立柱建物・井戸・土坑・土器埋納遺構・流路 弥生土器・土師器・須恵器・石器・木製品・動物遺存体	高橋潔	森本徹	
	0	弥生時代～中世 集落・生産	水田・畠・掘立柱建物・井戸・土坑 弥生土器・瓦質土器・瓦器・磁器・瓦・土師器・須恵器・石製品・木製品・獣骨	奥村茂輝 (村田昌也)		
	1, 500	弥生時代～中世 集落・生産	建物・井戸・土坑・土器埋納遺構・流路・水田 瓦器・土師器・須恵器・動物遺存体・木製品・鉄製品・石製品・弥生土器・縄文土器	森本徹	高橋潔	
	370	古墳時代～中世 集落・生産	掘立柱建物・土坑・耕作溝 瓦器碗・白磁・瓦・須恵器・土師器・石製品	奥村茂輝 (村田昌也)		
185, 354, 400	1, 096	中世 集落・生産	堤・掘立柱建物・井戸・土坑流路 土師器・瓦器・焼締陶器・輸入陶器・磁器・瓦・木製品・金属製品	辻裕司 (井上宗嗣)		
	3, 040	中世 集落・生産	掘立柱建物・井戸・ピット・土坑・溝 瓦器碗・羽釜・足釜・土師器皿・須恵質擂鉢・陶器擂鉢・青磁碗・白磁碗・瓦	伊藤武 (木村寛之)		
	2, 230	中世 集落・生産	溝・掘立柱建物・井戸・ピット・土坑 土師器・須恵器・瓦器・瓦質土器・陶器・磁器・瓦・木製品	横田明 (市田英介)		
77, 543, 550	1, 800	縄文時代～中世 集落・生産	大型円形住居・方形堅穴住居・掘立柱建物・溝・土坑・袋状土坑 縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・黒色土器・瓦器・滑石製子持勾玉・白玉	服部文章 (吉田綾子)	船築紀子	
57, 813, 000	2, 400	旧石器時代～中世 集落・生産	堅穴建物・掘立柱建物・溝・土坑・耕作跡 土師器・須恵器・製塩土器・輸入陶磁器・瓦器・黒色土器・灰釉陶器・緑釉陶器・滑石製子持勾玉・剣形石製品・国府型ナイフ形石器・細石刃石核・二又鋤・堅杵・広鋨	三好孝一 (吉田綾子)	森井貞雄	

管轄		遺跡（調査名）	調査地	受託事業名	事業者	事業の種別	受託契約期間
京阪調査事務所 交野分室	18	上私部遺跡03-1〔整理〕	交野市青山2丁目	有池遺跡他	西日本高速道路株式会社関西支社	道路建設	H18.4.1～ H19.3.31
	19	上私部遺跡05-1〔整理〕	交野市青山2丁目				
	20	東倉治遺跡04-1・2〔整理〕	交野市東倉治4丁目				
	21	有池遺跡03-1〔整理〕	交野市青山4丁目				
	22	上の山遺跡03-1・05-3〔整理〕	交野市私部西5丁目・枚方市茄子作南町				
	23	私部南遺跡04-1〔整理〕	交野市向井田1丁目				
	24	平池遺跡04-1〔整理〕	交野市星田北9丁目				
	25	茄子作遺跡04-1〔整理〕	枚方市茄子作南町				
	26	倉治遺跡05-3〔調査・整理〕	交野市倉治1丁目	上の山遺跡他	大阪府枚方土木事務所	道路建設（府道）	H17.7.1～ H18.7.31（調査） H18.4.3～ H19.2.28（整理）
	27	有池遺跡04-1〔整理〕（その4）	交野市青山4丁目	上の山遺跡他			
	28	上の山遺跡05-1〔整理〕（その3）	交野市私部西4丁目	上の山遺跡他			
	29	上の山遺跡05-2〔整理〕（その4）	交野市私部西4丁目	上の山遺跡他			
	30	上の山遺跡06-1〔調査・整理〕	交野市私部西4丁目	上の山遺跡他（整理）			
	31	倉治遺跡05-1〔整理〕	交野市倉治1丁目	上の山遺跡他			
	32	倉治遺跡05-2〔整理〕	交野市倉治1丁目	上の山遺跡他			
	33	倉治遺跡06-1〔調査〕	交野市倉治1丁目	上の山遺跡他（整理）			
	34	津田遺跡05-1〔調査〕	枚方市津田南町1丁目	津田遺跡	国土交通省近畿地方整備局浪速国道事務所・西日本高速道路株式会社関西支社	道路建設	H18.4.1～ H19.3.31

事業費	単年面積	時期・性格	主な遺構・遺物	担当者		備考
190, 101, 450	0	古墳時代～中世 集落	竪穴住居・掘立柱建物・溝・土坑・井戸・流路 土師器・須恵器・瓦器・陶器・磁器・瓦	鈴木廣司		
	0	古墳時代・中世 集落	掘立柱建物・竪穴住居・溝・土坑・流路・水田 土師器・須恵器・瓦器・瓦質土器・陶器・磁器・木製品・石器	綱伸也 (大竹正裕)	小松武彦	
	0	弥生時代～中世 集落	竪穴住居・落ち込み・土坑・ピット・溝・流路 縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・瓦質土器・灰釉陶器・磁器・鉄製品・石器・石製品	—		
	0	縄文時代～中世 集落・生産	竪穴住居・屋敷地・井戸・土坑・ピット・石敷遺構・堀・溝・流路・炭窯・水場 須恵器・土師器・瓦器・瓦質土器・陶器・磁器・木製品・漆器	森井貞雄		
	0	旧石器時代～中世 集落・生産	掘立柱建物・竪穴住居・水田・土坑・井戸・溝・流路 縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・木製品・石器	後藤信義		
	0	縄文時代～中世 集落・生産	竪穴住居・水田・土坑・井戸・溝・流路 縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・木製品・石器	若林幸子 (大竹正裕)	小松武彦	
	0	古墳時代～中世 集落・生産	溝・ピット・水田・井戸 土師器・須恵器・陶器・磁器・石器・石製品・金属製品	黒須亜希子		
	0	縄文時代～中世 集落・生産	溝・竪穴住居・ピット・掘立柱建物・土坑・水田・井戸・流路 縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・陶器・磁器・木製品	石神幸子 (吉田綾子)	黒須亜希子	
17, 556, 000 (調査) 43, 662, 150 (整理)	572	古墳時代 集落・生産	沼状遺構 土師器・須恵器	小林義孝 (吉田綾子)		
	0	中世 集落・生産	柱列・水田・溝 土師器・瓦器・瓦質土器・須恵器・陶器・磁器・土製品・瓦	森井貞雄		
	0	縄文時代～中世 墓	方形周溝墓 弥生土器	小林義孝 (日野祥子)		
	0	縄文時代～中世 集落・墓	埋甕・掘立柱建物・竪穴住居 縄文土器・弥生土器	小林義孝 (日野祥子)		
	165	縄文時代 集落・墓	段丘崖 —	小林義孝 (日野祥子)		
	0	飛鳥時代 集落・生産	溝 土師器・須恵器	小林義孝 (日野祥子)		
	0	古墳時代 集落・生産	沼状遺構 土師器・須恵器	小林義孝 (日野祥子)		
122, 885, 700	200	古墳時代 集落・生産	— 土師器・須恵器	小林義孝 (日野祥子)		
	6, 890	縄文・弥生時代・古代～中世 集落・生産	竪穴住居・掘立柱建物・堀・溝・土坑・堤防・水田 縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・陶器・青磁・白磁・石器・銭貨	南孝雄 (遠藤啓輔)	長戸満男	

管轄		遺跡（調査名）	調査地	受託事業名	事業者	事業の種別	受託契約期間
中部調査事務所	35	吹田操車場遺跡06-1〔調査〕	吹田市芝田町	吹田操車場遺跡	独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構	信号場基盤整備	H18. 4. 1～ H19. 7. 31
	36	玉櫛遺跡06-1〔調査〕	茨木市玉櫛 2 丁目	玉櫛（その 5）	大阪府住宅まちづくり部住宅経営室 住宅整備課	集合住宅建設	H18. 4. 1～ H19. 3. 30
	37	片山荒池遺跡05-1〔整理〕	吹田市片山町 1 丁目	片山荒池遺跡	大阪府住宅供給公社	集合住宅建設	H17. 6. 1～ H18. 6. 30
	38	山賀遺跡03-1・05-1〔整理〕	八尾市新家町 5 丁目	山賀遺跡（その 2）	大阪府八尾土木事務所	調節池築造	H17. 10. 3～ H19. 6. 29
	39	花屋敷遺跡06-1〔調査・整理〕	東大阪市吉田 1 丁目	花屋敷遺跡	河内花園駅前地区市街地再開発組合	河内花園駅前地区第一種市街地再開発事業	H18. 5. 1～ H19. 3. 30
	40	花屋敷遺跡06-2〔調査・整理〕	東大阪市吉田 1 丁目	花屋敷遺跡	近畿日本鉄道（株）	近鉄日本鉄道奈良線連続立体交差化	H18. 5. 1～ H19. 3. 30
	41	久宝寺遺跡04-1〔整理〕	八尾市竜華町 2 丁目	久宝寺遺跡水環境（その 3）	大阪府東部流域下水道事務所	水処理施設建設	H18. 4. 1～ H19. 3. 20
	42	新上小阪遺跡05-1〔調査・整理〕	東大阪市新上小阪	新上小阪遺跡（その 2）	大阪府住宅まちづくり部住宅経営室 住宅整備課	集合住宅建設	H17. 4. 1～ H18. 10. 31（調査） H18. 10. 2～ H19. 3. 23（整理）
	43	植松遺跡05-1〔調査・整理〕	八尾市植松町 8 丁目	植松遺跡	大阪府住宅まちづくり部住宅経営室 住宅整備課	集合住宅建設	H17. 4. 1～ H19. 1. 31（調査） H19. 1. 4～ H19. 3. 30
	44	池島・福万寺遺跡04-2〔調査・整理〕	東大阪市池島町 4 丁目	池島・福万寺遺跡Ⅱ（その 2）	大阪府寝屋川水系改修工営所	治水緑地造成	H16. 10. 1～ H18. 8. 31
	45	池島・福万寺遺跡05-1〔調査〕	八尾市福万寺町 8 丁目	池島・福万寺遺跡Ⅱ（その 3）	大阪府寝屋川水系改修工営所	治水緑地造成	H17. 7. 22～ H19. 9. 28
	46	池島・福万寺遺跡05-2〔調査〕	東大阪市池島町 7 丁目	池島・福万寺遺跡Ⅱ（その 4）	大阪府寝屋川水系改修工営所	治水緑地造成	H17. 7. 22～ H19. 9. 28
	47	池島・福万寺遺跡06-1〔調査〕	八尾市福万寺町 8 丁目	池島・福万寺遺跡Ⅱ（その 5）	大阪府寝屋川水系改修工営所	治水緑地造成	H18. 9. 1～ H20. 8. 29
	48	池島・福万寺遺跡06-2〔調査〕	東大阪市池島町 4 丁目	池島・福万寺遺跡Ⅱ（その 6）	大阪府寝屋川水系改修工営所	治水緑地造成	H18. 9. 1～ H20. 5. 30

事業費	単年面積	時期・性格	主な遺構・遺物	担当者		備考
88,291,350	1,027	古代 集落	群集土坑・土坑・掘立柱建物 軒丸瓦・須恵器・墨書土器（須恵器）	駒井正明 （長嶺睦）	中岡勝	平成18～19年度
121,380,000	929	弥生時代～中世 集落・生産	掘立柱建物・井戸・溝・土器埋納遺構・ 土坑・ピット・畦畔 弥生土器・土師器・須恵器・製塩土器・ 黒色土器・瓦器・瓦質土器・陶器・高麗 象嵌青磁・磁器・瓦・炉壁片・砥石・ 鞍・漆器・まじない札・短刀・銭貨・馬 鉄菌・動物骨	宮崎泰史 （赤松佳奈）	信田真美世	
239,400	0	古墳時代・中世 集落	土坑・柱穴・池 土師器・須恵器・瓦器・陶器・磁器・埴 輪	山元建		
36,446,550	0	縄文時代～中世 集落・生産・墓	溝・木棺・土坑・ピット・水田 縄文土器・弥生土器・石器・木製品・骨	本間元樹 （向井妙）		平成17～19年度
26,368,650	160	中世 集落	溝・土坑・柱穴・杭・導水・貯水施設・ 井戸 土師器・瓦質土器・陶器・磁器・木簡・ 導水管用竹・貯水用樽・各種木製部材・ 漆塗椀	岡本圭司 （影山美智与）		
29,119,650	792	中世 集落	ピット・柱穴・土坑・井戸・溝・自然流 路 土師器・須恵器・瓦器・瓦質土器・瓦・ 陶器・磁器・木製品・ 金属製品・銭貨・獣骨	岡本圭司 （影山美智与）	湯元整	
26,909,400	0	縄文時代～中世 集落・生産・墓	水田・島畠・井戸・水路・溝・土坑・堅 穴住居・畑・土器溜・墳墓・土壇墓・木 棺墓・土器棺墓・流路・しがらみ・掘立 柱建物・溜池・柱穴 縄文土器・弥生土器・土師器（墨書土 器）・須恵器・瓦器・陶器・磁器・土製 品・瓦・石器・石製品・木製品・ガラス 小玉・金属製品・銭貨・スラグ・獣骨・ 人骨	亀井聡 （日野祥子）		
159,987,450 （調査） 15,234,450 （整理）	1,070	集落・生産	堅穴建物・掘立柱建物・水田・島畠・ 溝・井戸・土坑・流路・杭列・ピット 弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・陶 器・磁器・サスカイト製石器・石製品・ 木製品・魚骨・管玉・銅鏃	三好孝一 新海正博	島崎久恵 （池田晋）	平成17～18年度
105,034,650 （調査） 9,036,300 （整理）	910	弥生時代～中世 生産	島畠・溝・地震痕跡・井戸・杭列 弥生土器・土師器・須恵器・墨書土器・ 瓦器・陶器・埴輪・カマド・井戸枠部 材・杭・石器・瓦	川瀬貴子 （降矢哲男）		平成17～18年度
100,831,500	1,915	縄文時代～近・ 現代 生産	木棺墓・土壇墓・土器棺墓・掘立柱建 物・溝・水田・島畠・井戸・流路 縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・ 瓦器・陶器・磁器・土製品・石製品・石 器	田中龍男 （鬼頭彰）	廣瀬時習 林日佐子	平成16～18年度
275,352,000	2,846	縄文時代～近・ 現代 生産	水田・島畠・畠・掘立柱建物・井戸・土 坑・溝 瓦器・土師器・須恵器・弥生土器・鉄 器・銅銭・木製品・石器・牛馬骨・炭化 穀物	大庭重信 （山中信人）	福佐美智子	平成17～19年度
253,115,100	2,655	縄文時代～近・ 現代 生産	水田・島畠・水路・溝・土坑・井戸・杭 列 土師器・須恵器・陶器・磁器・瓦器・弥 生土器・縄文土器・鉄器・木製品・石製 品	広瀬雅信 （松野元宏）	内田真雄	平成17～19年度
57,047,500	2,254	縄文時代～近・ 現代 生産	水田・畑 陶器・磁器・瓦	西村歩 塚本浩司	湯本整	平成18～20年度
59,253,400	2,406	縄文時代～近・ 現代 生産	水田・畑・坪境 陶器・磁器・土師器・瓦	田中龍男 （鬼頭彰）	廣瀬時習 林日佐子	平成18～20年度

管轄		遺跡（調査名）	調査地	受託事業名	事業者	事業の種別	受託契約期間
南部調査事務所	49	三宅西遺跡04-2 〔調査・整理〕	松原市三宅西5丁目	三宅西遺跡	大阪府富田林土木事務所	道路建設	H16.11.1～ H18.9.29 （調査） H18.10.2～ H20.12.26 （整理）
	50	三宅西遺跡04-3 〔調査・整理〕	松原市三宅西6丁目				
	51	池内遺跡05-1 〔調査〕	松原市天美北1丁目	池内遺跡	大阪府富田林土木事務所	道路建設	H17.4.1～ H19.3.30
	52	池内遺跡05-2 〔調査〕	松原市天美北1丁目				
	53	湊遺跡06-1〔調査・整理〕	泉佐野市湊1丁目	湊遺跡他（その3）	大阪府岸和田土木事務所	南海本線（泉佐野市）連続立体化事業	H18.5.1～ H19.3.23
	54	大西遺跡06-1・若宮遺跡06-2 〔調査・整理〕	泉佐野市高松北2丁目	湊遺跡他（その4）	大阪府岸和田土木事務所	南海本線（泉佐野市）連続立体化事業	H18.5.1～ H19.3.23
	55	若宮遺跡06-1〔調査・整理〕	泉佐野市上町3丁目	湊遺跡他（その5）	南海電気鉄道（株）	南海本線（泉佐野市）連続立体化事業	H18.5.1～ H19.3.30
	56	堺環濠都市遺跡06-1〔調査〕	堺市堺区少林寺町東3丁	堺環濠都市遺跡	大阪府住宅供給公社	集合住宅建設	H18.10.2～ H20.3.31
	57	堺環濠都市遺跡06-2〔調査〕	堺市堺区戎之町東4丁	堺環濠都市遺跡	大阪府住宅供給公社	集合住宅建設	H18.10.2～ H20.3.31
	58	史跡池上曾根遺跡06-1〔調査・整理〕	和泉市池上町	史跡池上曾根遺跡	和泉市	史跡整備	H18.8.1～ H19.3.30
	59	八尾南遺跡03-1 〔整理〕	八尾市若林	八尾南遺跡（その2）	国土交通省近畿地方整備局大和川河川事務所	高規格堤防建設	H18.6.1～ H19.3.9
	60	大和川今池遺跡06-1〔調査〕	松原市天美西3丁目	大和川今池遺跡	大阪府富田林土木事務所	道路建設	H18.8.1～ H19.11.30
	61	はさみ山遺跡05-1〔整理〕	藤井寺市藤井寺公団1番	はさみ山遺跡	独立行政法人都市再生機構西日本支社	藤井寺団地建替事業	H18.4.1～ H18.9.30
	62	田井中遺跡05-1 〔整理〕	八尾市空港1丁目	田井中遺跡	大阪防衛施設局	警衛所及び浴場建設	H17.10.1～ H18.12.25

事業費	単年面積	時期・性格	主な遺構・遺物	担当者		備考
254,896,950 (調査) 31,083,150 (整理)	844	弥生時代～近世 集落・生産	竪穴住居・周溝墓・掘立柱建物・溝・ 土坑・ピット・流路弥生土器・土師器・ 須恵器・瓦器・石器・サヌカイト・馬骨	小倉徹也 (水野恵利子)	河端智	平成16～20年度
	1,088	縄文時代～近世 集落・生産	掘立柱建物・溝・土坑・井戸・ピット・ 竪穴住居・流路・堰 縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・ 百済土器・韓式土器・サヌカイト・石器	中村淳磯 (清水梨代)	池田研	平成16～20年度
493,317,300	2,464	弥生時代～中世 集落・生産	井戸・土坑・掘立柱建物・水田・溝 弥生土器・須恵器・土師器・黒色土器・ 瓦器・石器	入江正則 (佐藤由美)	積山洋	平成17～18年度
	4,269	弥生時代～中世 集落・生産	溝・土坑・水田・掘立柱建物・道路状遺 構・井戸 弥生土器・須恵器・土師器・黒色土器・ 緑釉陶器・銭貨・瓦	亀島重則 (永田由香)	平田洋司	平成17～18年度
75,610,500	722	弥生時代～近世 集落・生産	溝・洪水復旧用大型土坑群・粘土採掘土 坑群・流路・浸蝕痕・シュートバー 陶器・磁器・杭・蛸壺・土鍾・瓦器腕・ 須恵器・土師器・弥生土器・製塩土器	三宮昌弘 (関本優美子)		
41,274,450	2,205	中世 集落・生産	畦畔・耕作痕・樋・溝・井戸・ピット 黒色土器・瓦器・瓦質土器・須恵器・陶 器・磁器・鉄製品・ガラス製品・土製玩 具・瓦	三木弘 (奈良拓弥)		
20,588,400	835	中世 集落	溝・土坑・井戸 陶器・磁器・瓦・石製品	西川寿勝 (奈良拓弥)		
32,157,300	188	古墳時代～近世 集落・生産	礎石建物・区画溝・井戸・廃棄土坑・ 竈・埋甕・埋桶・鋤溝 環濠・土塁 土師器・須恵器・埴輪・瓦質土器・陶磁 器・石製品・木製品・ 金属製品・土製品・動物遺体	新海正博 (水野恵利子)		平成18～19年度
28,779,450	441	古墳時代～近世 集落・生産	埴列建物・礎石建物・通路・井戸・廃棄 土坑・酒蔵(搾場) 陶器・磁器・土器・瓦器・瓦質土器・須 恵器・ガラス製容器・鉄製品・石製品・ 土製玩具・瓦・鋳造(鉄・銅)・鍛造関 連遺物	三木弘 (小林恒孝)		平成18～19年度
15,600,000	203	弥生時代～中世 集落・生産	柱穴・土坑 弥生土器・須恵器・土師器	山田隆一		
25,804,800	0	旧石器時代～中 世 集落・生産	方形周溝墓・土器埋納土坑・古墳周溝・ 竪穴住居・掘立柱建物・土墳墓・井戸・ 水田・土坑・溝 弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・陶 器・磁器・石器・ガラス小玉・埴輪・木 製品	正岡大実 (木村まり)		
73,049,550	2,610	弥生時代～中世 集落・生産	掘立柱遺物・井戸・土坑・溝・柱穴・水 田・自然流路 弥生土器・土師器・須恵器・黒色土器・ 瓦器・瓦・陶磁器	竹原伸次 (福田基樹)	市村慎太郎	平成18～19年度
7,224,000	0	集落 古墳時代～近世	掘立柱建物・柱穴・土坑・ピット・溝 土師器・須恵器・埴輪・製塩土器・黒色 土器・瓦器・瓦質土器・陶器・磁器・ 瓦・土製品・石器・木製品・金属製品・ 鉄滓・動物遺存体	市村慎太郎		
18,436,950	0	弥生時代～中世 集落・生産	土器棺墓・溝・土坑・ピット・水田 縄文土器・弥生土器・石器・土師器・須 恵器・黒色土器・瓦器・陶器・磁器	桑野一幸 (福田基樹)		平成17～18年度

(2) 調査の概要

a 京阪調査事務所

1. 太秦（太秦古墳群）遺跡 05－3〔整理〕

第二京阪道路の本線未調査区および工事用進入路用地で、平成 17 年度末に行った発掘調査成果の整理事業である。現地では平成 15 年度調査成果につづく弥生時代の大溝・ピット・土坑が検出されており、遺構平面図・断面図等の編集・トレース、出土した遺物の実測・トレース・写真撮影などを行った。平成 19 年度中に報告書刊行の予定である。

2. 讃良郡条里遺跡 03－1〔整理〕

この調査地は、平成 15 年度から 17 年度にかけて発掘調査を実施した。また、讃良郡条里遺跡 05－2 と 06－1－3 は、03－1 の範囲内に残された未調査部分を発掘調査したものであるため、03－1 と合わせて整理作業を実施した。今年度整理した主要な遺物は縄文時代の土器・石器である。土器には、中期前葉～中葉の船元式土器、中期後葉～末の里木Ⅱ式土器、北白川 C 式土器などがある。また、石器としては、早期前半に属する尖頭器が注目される。

3. 讃良郡条里遺跡 03－2〔整理〕

平成 15～17 年度にかけて発掘調査を実施し、調査終了後は遺物整理を行い、18 年度に『讃良郡条里遺跡Ⅴ』として報告書を刊行した。掲載している主な遺構・遺物としては、縄文時代後期の石器製作跡と、そこから出土した石剣・石鏃や剥片、チャートが多くの割合を占める礫群。古墳時代前期の土坑とそこから出土した布留甕や高杯などの他、飛鳥時代から奈良時代にかけて存続した掘立柱建物群がある。

また、この建物群を検出した微高地の縁辺にある流路からは、当該期の土器が多数出土している。

4. 砂遺跡 06－1〔調査・整理〕

本調査地は、四条畷市砂に所在する。調査面積は約 800 m² で、大阪外環状線（国道 170 号線）の東に隣接している。現地での調査は、平成 18 年 6 月から開始し、調査終了後は整理作業に着手している。調査では計 7 面の遺構面を調査した。検出した主な遺構・遺物には、第 4 面で検出した北東から南西方向に延びるがあり、埋土内から弥生時代後期の甕、鉢片出が出土している。第 6 面では、流路と土坑を検出しており、流路内から縄文時代晩期～後期の土器が出土している。また、第 7 面下の砂層内から、小片で磨耗しているが縄文時代晩期～中期の土器片が出土している。



4. 弥生土器出土状況

5. 太秦（太秦古墳群）遺跡 06－1〔調査・整理〕

第二京阪道路建設に伴う市道の迂回路用地約 200 m² での発掘調査及び整理事業である。太秦の支尾根を横切って東西にのびる幅 6 m、深さ 0.7 m の溝を検出した。溝内からは遺物の出土がなかったが、上位および周辺から 6～7 世紀代の須恵器が出土している。方墳群が途絶え、丘陵上が集落になった時期の溝かと思われる。

6. 太秦（太秦古墳群）遺跡 06－2 〔調査〕

第二京阪道路の予定地内の市道部分約 1,300 m²の調査である。埋設管などで相当荒らされていたが、小方墳 2 基の一部と、古墳時代以降の重複する大溝群が検出された。方墳のうち 1 基は平成 13 年度検出の尾支群 3 号墳の延長部にあたり、他の 1 基は新発見である。

溝群は西北部で検出された。平成 15 年度の 1 トレンチ 26 溝の延長、および本年度 06－1 区の大溝の延長部および、これらの上部に重なる溝である。溝内から縄文後期頃の粗製土器、弥生中期土器、須恵器、土師器が出土した。上位の溝は中世の可能性がある。溝の東側では柱穴とみられるピット群も検出された。

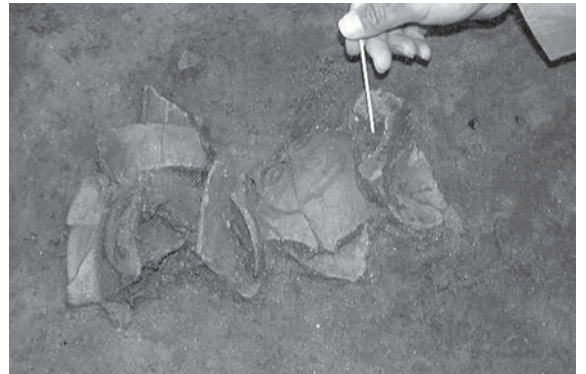


6. 古墳時代以降の重複する溝群

7. 讃良郡条里遺跡 06－1 〔調査〕

この調査地は合計 6 箇所の調査区にわかれているが、今年度は 06－1－1・3 の 2 つの調査区について、発掘調査を実施した。06－1－1 は、平成 14 年度に発掘調査をおこなった讃良郡条里遺跡（その 1）・小路遺跡（その 3）と小路遺跡（その 2）の間にあたり、奈良時代～平安時代初頭の流路の続きが検出された。その流路内および流路脇からは人面墨書土器をはじめとする土師器・須恵器が出土した。

06－1－3 からは、弥生時代後期後半から古墳時代初頭に属する溝と流路が検出された。



7. 人面墨書土器出土状況

8. 讃良郡条里遺跡 03－4 〔整理〕

昨年度に現地調査を終了し、10 面以上にわたる遺構面の調査で出土した遺物の整理を進めている。3000 点を超える実測遺物のほとんどは古墳時代と弥生時代のものが占めるが、これらのうち調査区東方で検出された弥生時代前期の集落に伴う土器群が、近畿で最も古い様相を呈するものであることが判明した。

これらの土器は、瀬戸内地域のものとは比べても大きな形式変化を経ておらず、近畿地方への弥生土器



8. 突帯文土器の影響を受けた弥生土器の甕



8. 出土した石器類

の伝播が従来考えられていた以上に早く行われていたことを示す。また、溝などの遺構からは、弥生遺物だけでなく縄文時代晩期の突帯文土器や石棒などの石器が多数共伴出土しており、在地の縄文文化との接触を知る上で重要である。弥生土器の中には、突帯文土器の形状や文様に影響を受けて製作されたと考えられるものも含まれており、両者の交流を物語る。

また、遺構が重複して検出された古墳時代から奈良・平安時代の遺構面においても、出土遺物の整理から遺構の時期別細分が可能となり、各時期における水路の整備や集落の変遷、条里地割の施工実態などが解明されつつある。

9. 讃良郡条里遺跡 03－5〔整理〕

H15～17年度に実施した、03－5調査の報告書作成業務に着手した。まず遺物・図面・写真の基礎整理を行い、続いて出土遺物の分類、接合、ピックアップを行なった。おおむね1500点程度の遺物を報告書掲載遺物としてピックアップし、併行して個別遺構、層準ごとに出土遺物の様相を、遺構カードの形で記載した。

遺物の実測にも着手し、おおむね400点の実測を終了した。また、現地より持ち帰った土壌サンプルの洗浄による微細遺物の検出作業を行い、約300点の古墳時代滑石製白玉を検出した。H19年度もH18年度に発掘調査を実施した06－2調査の成果と併せ、報告書作成作業を継続の予定である。



9. 古墳時代滑石製白玉

10. 讃良郡条里遺跡 03－6〔整理〕

平成17年度までに発掘調査で出土した遺物の整理作業を行った。出土遺物の実測、遺構測量図面の整理等を行ない、これまでの調査で検出された遺構の時期ごとの変遷があきらかになりつつある。

また出土遺物の検討を行い、出土鉄製品（古墳時代）の非破壊による断面形状確認のためX線CT撮影を行ったほか、初期須恵器や陶質土器の胎土分析を行った。井戸枠に転用されていた準構造船の大型船材については実測・写真撮影を行なった後、保存処理を開始した。

11. 讃良郡条里遺跡 06－2〔調査〕

03－5調査において、調査未実施で残された範囲を06－2調査として調査した。4ヶ所の調査区を設定し調査を進めたが、いずれも既往の調査成果に整合する内容であった。

調査範囲南西端では古墳時代流路を検出し、深さ2mを測る流路の埋土から、多量の土器、木製品が出土し、石製品、鉄製品なども出土した。

流路南東側の微高地部分から流路斜面にかけて、古墳時代中期の土坑群を検出したが、内部に須恵器高坏など完形の土器類をまとめて収めたものがあり、祭祀的な性格を持つものとして注目される。



11. 古墳時代中～後期の流路

12. 讃良郡条里遺跡 06－3〔調査〕

本年度は 03－6 調査区の隣接地の調査である。03－6 に引き続いて 8 区、9 区、10 区と調査を行ったが、9 区と 10 区については現代の攪乱により、遺構はほとんど残っていなかったが、南北の条里地割にのる畦畔を検出した。8 区では古墳から古代にかけての土坑群や耕作溝群を検出したほか、古代の掘立柱建物の柱穴を検出した。おおよそ 1 m × 1 m の大きな柱穴であったが、柱根は検出されず、抜き取って再利用された可能性がある。建物自体は調査区外に続いていたため、全容は把握できなかった。



12. 8区全景

13. 巢本遺跡 03－1〔調査・整理〕

昨年度に引き続き 6 区の調査を 5 月 31 日まで行い、全ての調査を終了した。最終調査面積は 7026 m²。12 世紀前後から 15 世紀の集落や耕作地跡、大規模な堤や多数の溝群などを検出し、土師器皿、瓦器、羽釜など総数 102 箱の遺物が出土した。6 月からは、これらの遺物整理に着手した。また、堤については、構築前後の古環境復元や土木技術の一端を明らかにすることを目的としてサンプリングした試料による、花粉・珪藻分析、樹種同定、大型植物遺体の分析等を行った。

14. 巢本遺跡 03－2〔調査・整理〕

本年度は 7 区の南半部と 8 区の発掘調査を 5 月 31 日までの期間で実施した。これで平成 16 年度から実施してきた調査が全て終了し、最終的な調査面積は 11,850 m²となった。その後は京阪調査事務所へ移り遺物の注記・復元・登録等の整理作業を行なった。整理対象となった遺物は、収納コンテナに約 200 箱分である。また遺物が出土していない下部の地層について、その年代や当時の環境を復原するため、放射性炭素年代測定や珪藻分析もあわせて実施した。

15. 巢本遺跡 06－1〔調査〕

巢本遺跡は門真市宮前町・北巢本町に所在する遺跡である。第二京阪道路（大阪北道路）建設に伴う発掘調査として既実施の巢本遺跡（その 1）および（その 2）の未調査部分を対象にした調査である。中世の掘立柱建物、井戸、（その 2）で検出したコの字形土坑の延長部分などを検出した。



15. 10区全景

調査区の最北端にあたる 10 区では、巢本遺跡（その 1）調査で発見された堤の北側の延長部文を発見した。今回、堤の本体部分は削平されて発見できなかったが、堤の基礎となる整地の痕跡を発見した。堤の基礎は、調査区全域でみられた暗オリーブ褐色粘土およびその上の灰色砂層をベースに粘土を積み上げていた。粘土を積み上げる際、粘土と粘土の間に竹の皮などを敷きながら積み上げており、盛り土の厚さは深いところで 1 m に及ぶ。構築のベースとなる灰色砂層は 10 区中央で北から南へ傾斜し落ち込んでおり、堤の基礎築成土も砂層の傾斜している地点からはじまっていた。また調査区を延々縦断してきた大型土

坑も、この砂層のところで止まっており、これらは巢本遺跡の範囲とも関係するものと推測される。

16. 私部南遺跡 06－1〔調査〕

交野山麓に形成された扇状地の西端に位置する集落遺跡である。第二京阪道路の建設に先立ち、遺跡範囲の西端に当たる京阪電鉄交野線から前川までを（その2）として発掘調査に着手し、平成18年度は建設予定地の南北両側に沿った側道予定地部分を第1調査区～第4調査区として調査を実施した。

第1調査区では、大型円形住居をはじめとし、弥生時代前期末から中期初頭の遺構遺物が検出され、拠点集落が営まれていたことが明らかとなった。また同



16. 3区全景

一面で、5世紀後半から6世紀後半にかけての方形竪穴住居や多数の掘立柱建物が極めて濃密な状況で検出され、古墳時代に大規模な集落が再び営まれていたことが明らかとなった。出土遺物には、焼成不良や焼け歪みが著しい須恵器が数多く含まれており、本集落が須恵器生産との関連を強く示唆する点が注目される。第2調査区では、扇状地西端の崖面が検出され、京阪線側にかけて天の川氾濫原に向けた大規模な谷地形が存在し、集落域の西端となることが判明した。第3調査区では、古墳時代から奈良時代へと続く掘立柱建物が数多く検出され、古墳時代後期を中心に総柱の掘立柱建物により倉庫群が検出された。さらにこれらに続く奈良時代や平安時代の掘立柱建物が存在することも明らかとなり、金銅製帯金具が出土したこととともにその性格が注目される。第4調査区では、やや遺構密度が希薄となるものの小規模な掘立柱建物などが検出された。

以上のようにこれまで知られていなかった弥生時代前期末から中期初頭の拠点的な集落が検出され、古墳時代後期の大規模な集落が同一面で重なって検出されている。さらにこれに続き奈良時代や平安時代にも掘立柱建物群が営まれていたことが明らかになった他、周辺一帯が中世14世紀頃には畑地に開発されていたことも明らかになった。

17. 私部南 06－2〔調査〕

今年度の調査は私部南遺跡 04－1 調査区西側に連続する道路予定地内の6,257 m²全域を対象とした。調査の結果、縄紋時代後期から近世前半にかけての10面におよぶ遺構面と、それらに伴う遺物を検出した。

中でも古墳時代前期初頭の導水施設、中期の竪穴建物群、後期の掘立柱建物群が注目される。



17. シガラミ



17. 住居跡内の竈

古墳時代前期初頭の導水施設は、写真上段のような状態で杭材を斜め方向に林立させ、これによって水制を行おうとする所謂シガラミである。その上位や周辺からは槽や泥除具など木製品や、旧状に復せる状態まで遺存する手焙形土器などが出土した。

古墳時代中期の住居跡群は、4棟以上が調査区南東隅の一角に群在するような状態で検出された。平面方形を呈し、辺のほぼ中央には作り付け竈が設けられるものが多い。中には写真右のような状態で燃烧部のほぼ中央に土師器の壺を倒置させ、さらにその上位に須恵器の杯蓋を正置の状態で重ね合わせているものがあり、住居放棄に伴う儀礼の具体相を知る上で好資料を供した。

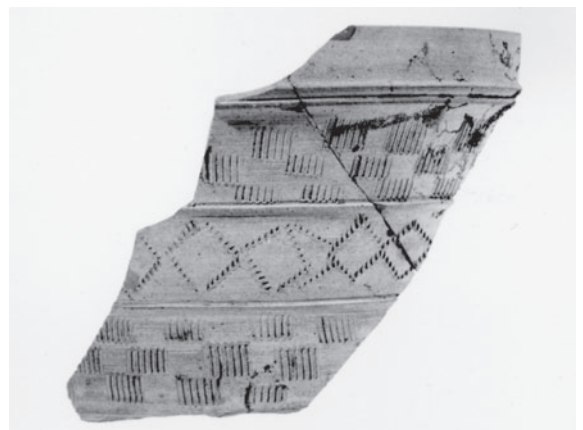
古墳時代後期の掘立柱建物群は側柱と総柱建物からなり、それら数棟ずつが組をなして散在する。柱穴掘方の一つからは滑石製子持勾玉が出土し、使用法の一類型として貴重な事例が加えられた。

18. 上私部遺跡 03－1〔整理〕

上私部遺跡 03－1 調査は、平成 15・16 年度に発掘調査を実施しており、同遺跡としては初めての調査であった。調査では竪穴住居 47 棟、掘立柱建物 55 棟、それらを区画する溝群などを検出しており、古墳時代中期～後期にかけての大規模な集落跡であることが明らかになっている。本年度はその整理事業の継続として、報告書原稿の執筆、遺構・遺物等の図版作成、遺物写真撮影、各種台帳作成、遺物収納、印刷・製本を実施した。報告書は『上私部遺跡Ⅰ』として、平成 19 年 2 月 28 日に刊行している。

19. 上私部遺跡 05－1〔整理〕

上私部遺跡は交野市青山町に所在する。第二京阪道路（大阪北道路）の建設に伴う調査で新たに発見された、古墳時代後期の集落遺跡である。ここで報告する整理事業は、平成 17 年度に行った調査に伴うものである。古墳時代後半から古代にかけての集落に関連する遺構を多数検出したことから、出土遺物の実測と時期別の分類を通して、集落変遷とその歴史的な位置づけに対する検討をすすめた。その成果は近日中に刊行される発掘調査報告書『上私部遺跡Ⅱ』の中にまとめた。



19. 新羅土器

20. 倉治遺跡 04－1・2〔整理〕

東倉治遺跡は交野市の東部、交野山の西麓に形成された扇状地上に立地する。ここで報告するのは平成 16・17 年度に第二京阪道路（大阪北道路）の建設に伴って行った発掘調査に伴う整理事業である。検出した遺構・遺物の時期は縄文時代・弥生時代後期・古墳時代前期・飛鳥時代・平安時代・中世と各時期におよぶ。今年度刊行した発掘調査報告書『東倉治遺跡Ⅱ』では、遺構・遺物に関する詳細を中心に、調査成果をまとめた。

21. 有池遺跡 03－1〔整理〕

有池遺跡は交野市青山町に所在する。第二京阪道路（大阪北道路）の建設に伴い有池遺跡 03－1 の調査は平成 15・16 年度の 2 カ年にわたって行った。調査区全域にわたって、古墳時代から中世にかけての集落域を検出した。平成 14 年度に調査した有池遺跡 02－1 と、



21. 中世の土器

平成 15・16 年度に調査した有池遺跡 03－2 の調査と合わせて、今年度刊行した発掘調査報告書『有池遺跡Ⅰ』に成果をまとめた。本文 675 ページと写真図版 162 からなる。その中で古墳時代から古代・中世にいたる集落景観の変遷と、集落をとりまく自然環境を明らかにすることができた。

22. 上の山遺跡 03－1・05－3〔整理〕

第二京阪道路建設に伴い平成 15・16 年度に実施した発掘調査について、同 17 年度に引き続き整理作業を行った。版下作成、トレース、遺物写真撮影、紙焼き、図版作成、原稿執筆、編集等の作業を行った。その結果、本文 341 頁、挿図 225 点（遺物実測図掲載点数 747 点）、表 46 点、写真図版 49 頁（カラー図版 1 カット、遺構写真 75 カット、遺物写真 124 カット）、付図 2 点の報告書を『上の山遺跡Ⅱ』として年度末に刊行した。

さらに、遺物、写真、図面の収納作業、および各種台帳の作成を行って、整理作業を終了した。



22. 報告書編集作業風景

23. 私部南遺跡 04－1〔整理〕

平成 18 年度事業として、平成 17 年度に発掘調査を実施した私部南遺跡 04－1 調査区の遺物整理を行った。

作業は各遺構面および、それに帰属する遺物の検討から始め、それらの製図・写真撮影・収納までを行い、それら作業の総まとめとして巻頭図版 1 ページ、本文 227 ページ、図版 27 ページからなる報告書を上梓した。

その内容は検出された遺構や遺物の事実報告を基調としているが、中でも北河内地域初であるばかりか、松菊里型住居に類する弥生時代前期の竪穴建物、古墳時代中期の鈴付土器などが注目され、さらに、当該地域の弥生時代集落の動向についてもまとめられている。



23. 竪穴建物

24. 平池遺跡 04－1〔整理〕

平成 16 年度に実施した平池遺跡の調査成果について、報告書を刊行した。平池遺跡では、周辺の開発が古墳時代後期に遡ること、また、古代には帯水して湿地となるものの、中世前期に再び開墾がなされたことを確認した。平安時代末期の文書である『平清盛書状』には、古代よりこの地に営まれた星田牧が耕地化され、水田範囲が拡大したことを示す記述があり、関連が注目される。本書の作成により、周辺地域の開発過程の一端を明らかにすることができた。

25. 茄子作・茄子作下浦遺跡 04－1〔整理〕

平成 16～17 年度に実施した茄子作・茄子作下浦遺跡の調査について、遺物実測・分析・写真撮影等の整理作業をおこなった。出土遺物を詳しく検証した結果、流路から出土した遺物のなかに、溶着・火ぶくれをおこした初期須恵器の一群や焼台が含まれていることを確認した。大阪府下における須恵器窯出土資料との比較から、茄子作遺跡出土のものは、TK73 型式に類すると考えられる。このことにより、周辺において、初期須恵器の生産がおこなわれていた可能性が高まった。また、同じく流路から出土し

た木製品（机天板・織機）に関する自然科学分析および類例調査の結果、最古級に位置づけられる資料であることが判明した。

26. 倉治遺跡 05－3〔調査・整理〕

隣接と同様に沼状の落ち込み遺構の肩部が検出された。古墳時代から中世の須恵器、土師器、瓦器などコンテナ数箱の遺物が出土している。遺物の実測を行うとともに、遺構図等の整理、報告書の刊行に向けて本文の執筆等の作業を実施した。



25. 須恵器焼台

27. 有池遺跡 04－1〔整理〕

平安時代の柱穴列等を検出した調査区である。当該年度は印刷・校正等報告書刊行に伴う業務を行い、11月に報告書を刊行した。

28. 上の山遺跡 05－1〔整理〕

弥生時代中期前葉の方形周溝墓を複数検出した。方形周溝墓1は南北約10m、東西約15mを測る、同時期のものとしては最大規模のものである。この北側に3～4基分に相当する小型の方形周溝墓の周溝の一部が検出された。弥生土器を中心に遺物がコンテナ数箱出土しており、遺物の実測を行うとともに、遺構図等の整理、報告書の刊行に向けて本文の執筆等の作業を実施した。

29. 上の山遺跡 05－2〔整理〕

上の山遺跡の北端部、段丘縁辺に位置する。弥生中期前葉の土器を出土する土坑群と重複して、直径（一辺）1m前後の大型の縄文土器を出土する土坑を多数検出。出土した縄文土器は、整理作業の結果、中期末（北白川C式）から後期初頭（中津式）を中心とするものであることが判明した。遺物はコンテナ数箱出土しており、遺物の実測を行うとともに、遺構図等の整理、報告書の刊行に向けて本文の執筆等の作業を実施した。

30. 上の山遺跡 06－1〔調査・整理〕

上の山遺跡 05－2 調査区の南側隣接地に当る。発掘調査では縄文時代の土坑群が検出された低位断丘面上の遺構面の相当面と低位段丘崖が検出された。発掘調査終了後、遺構図等の整理など報告書の刊行に向けての作業を実施した。

31. 倉治遺跡 05－1〔整理〕

当該調査区は、天井川である免除川の堤防の直下に位置し、免除川が形成した砂洲の上に立地している。ここで古墳時代中期から後期の溝群が多数検出された。調査区南部において検出された一辺9m前後の方形区画を成す幅30cm前後の溝は特記される。溝等から出土した土師器等をはじめ遺物がコンテナ数箱出土しており、遺物の実測を行うとともに、遺構図等の整理、報告書の刊行に向けて本文の執筆等の作業を実施した。

32. 倉治遺跡 05－2〔調査・整理〕

調査区全体が沼状の落ち込み遺構に当り、古墳時代から中世の須恵器、土師器、瓦器などコンテナ数箱の遺物が出土している。遺物の実測を行うとともに、遺構図等の整理、報告書の刊行に向けて本文の執筆等の作業を実施した。

33. 倉治遺跡 06－1〔調査・整理〕

前年度実施した調査区の隣接地における調査であり、前年度と同様に沼状の落ち込み遺構が検出された。埋土中の一部は面を成し、耕作地として活用され、何らかの作物が栽培されていたものと考えられる。底面から古墳時代から中世の須恵器、土師器、瓦器などの遺物が、コンテナ数箱出土しており、遺物の実測を行うとともに、遺構図等の整理、報告書の刊行に向けて本文の執筆等の作業を実施した。

34. 津田遺跡 05－1〔調査〕

調査地は、生駒山系の北端、交野山西麓、標高 80 m 前後の高位段丘面に位置する。調査は、平成 15 年度より開始したものである。平成 18 年度の調査では以下の成果が得られた。

鎌倉時代の遺構では、大溝と堀で囲まれた掘立柱建物群を検出した。掘立柱建物にはカマド、土間を備えたものもある。大溝の中からは、瓦器・土師器と共に輸入陶磁器の青磁・白磁・褐釉陶器などが出土している。これらの遺構は、区画性と遺物の質の高さなどから、領主層の館の可能性がある。また、この北側の開析谷内の調査では、幅 5 m、高さ 1.2 m の南北方向の土塁状遺構を延長 12 m にわたって検出した。この土塁は、洪水砂によって埋没していたが谷と直交しており、これより下にある耕作地などを守る為の砂防用の堤防と思われる。

弥生時代の遺構は、中期前葉の竪穴住居 3 棟を検出した。このうち 2 棟には中央炉と炉堤を検出した。また 1 棟は焼失住居で、炭化材を検出している。

弥生時代の交野地域では、中期前葉は主に台地上に遺跡が立地するが、中期中葉には長尾谷町遺跡など山麓部に成立する遺跡が現れる。今回の成果は、中期前葉から中期中葉への遺跡立地の転換点に位置するものとして注目される。



34. 弥生時代中期竪穴住居



34. 鎌倉時代土塁状遺構

b 中部調査事務所

35. 吹田操車場遺跡 06－1〔調査〕

調査地は旧国鉄吹田操車場構内に位置し、大きく 3 箇所に分かれる。このうち最も東側に位置する調査地では、古墳時代から奈良時代にかけての掘立柱建物 2 棟と井戸に似た形状の土坑 1 基、群集土坑を 312 基検出した。西側に位置する調査地では、比較的起伏の変化に富んだ地形のため、弥生時代から近世までの微高地・谷地形・小河川等の自然地形の変遷、および中世以降の耕作地開発の様子を明らかにすることができた。

36. 玉櫛遺跡 06－1〔調査〕

茨木市玉櫛 2 丁目に所在する。府営住宅建て替えに伴い、発掘調査を実施した。古墳時代遺構面では掘立柱建物や溝群を検出したほか、径 4.3～5.4 m、深さ約 1 m の土坑（写真）から木製鞍の前輪が出土した。須恵器、土師器、馬骨が共伴しており、6 世紀中頃のものと思われる。また、平安時代中期の遺構面では条里型水田を、平安時代後期～鎌倉時代前期、鎌倉時代後期の 2 面の遺構面では、掘立柱建物等からなる集落を検出した。特筆すべき遺物として、常滑焼三筋壺、高麗象嵌青磁片、漆器椀・皿、蘇民将来札、短刀などがある。



36. 木製鞍出土土坑

37. 片山荒地遺跡 05－1〔整理〕

大阪府住宅供給公社片山団地建て替えに伴う調査である。現地調査を平成 18 年度に実施し、古墳時代中期末～後期の集落跡や群集土坑を検出している。現地調査に引き続き整理事業を行い平成 18 年 6 月に報告書を刊行した。

38. 山賀遺跡 03－1・05－1〔整理〕

大阪府八尾市新家町に所在。平成 16・17 年度調査の報告書作成事業を行った。調査では主に弥生時代前期から中期の溝群と木棺墓群、弥生時代後期の水田面を確認した。該期の弥生土器、打製・磨製石器、高杯などの木器をはじめ、「垂飾」形木製品や動植物遺体、下層から宮滝式土器が出土している。整理事業として、遺構図面・写真の整理と選択、挿図作成、写真焼付け、出土遺物の復元・実測・写真撮影などを行った。あわせて理化学的分析、レプリカの作製や有機物の保存処理等も行った。

39. 花屋敷遺跡 06－1〔調査・整理〕

近鉄奈良線、河内花園駅駅前地区市街地再開発事業に伴い調査を行った。調査区は河内花園駅の北側にあたる。中世の集落跡と近世以降の耕作面が検出された。

近世の面は 2 面あり溝、井戸、窪地が検出された。溝や井戸は耕作関係の遺構であろうと考えられる。

中世の遺構面は主要な面が 2 面存在した上面では多くのピット・土坑を検出した。当面で特筆すべきは、竹管を利用した導水施設と、それに取り付く結桶を埋桶として使用した貯水施設及び土師器皿が集積して出土した長方形の土坑をあげることができる。



39. 埋桶（半裁）と付設の竹製導水管

下面は今回の調査において中心となる遺構面である。調査区の南側にある溝が当面で検出した遺構から出土した遺物の大半を占める。近世の面にて検出した溝と重複するように当溝も東西方向に走る。南北方向に走る溝と西端で取次ぎ「L」字状の平面形となるようであり、恐らく、掘立柱建物を取り囲むものと思われる。中世の集落遺跡にてしばしば認められる居住空間（屋敷地）を区画する溝であろう。また、当溝からは多量の木製品が出土した。織機、下駄、草履などの履物、漆器椀、馬骨などが出土しているが、特に目を引くものとしては、木簡が見つかったことであろう。「西方源三上」と墨書された

付札と「□田八郎小麦十九把 又ハ□（芋力）カラ六把」と墨書された札の2点である。いずれも物品の取引に関係する札であると思われる。なお、当地は今まで埋蔵文化財の包蔵地として周知されてこなかった。そこで、当地の字名により花屋敷遺跡と命名されている。

40. 花屋敷遺跡 06－2〔調査・整理〕

近鉄奈良線の連続立体交差化事業に伴い調査を行った。近鉄河内花園駅北側から東に向かって約200mの範囲に3ヶ所のトレンチを設定した。各調査区で共通時期と思われる中世の遺構面を検出した。最も遺構を集中して検出したのは中央の調査区である。掘立柱建物3棟や、その敷地を区画すると考えられる、ほぼ正方位の南北溝・流路を調査区両端で確認した。

東接する調査区の中央部、南北方向に走る溝より東において、極端に遺構が減少する様相が見られた。当遺構が居住域の東端を示すと思われる。

これら上述の2箇所の調査区より85mと、やや離れて西側に位置する調査区では、近現代の攪乱により大きく破壊されていたが、僅かながらも遺構面が残されていた。一部の柱穴には柱根も遺存し、建物が存在したと思われる。また、当調査区の西端で検出した南北走向の2溝は、他の2調査区の溝と同様、屋敷地を区画する溝で、集落の広がり確認できる。

41. 久宝寺遺跡 04－1〔整理〕

平成13～16年度にかけて実施した、寝屋川流域下水道竜華水環境保全センター水処理施設等建設事業に伴う調査他に関する報告書作成事業である。60基以上を数える古墳時代初頭に築かれた墳墓を中心に、縄文時代から中近世に至る多数の遺構や遺物を整理した。

報告書の掲載写真や図面はすべてデジタル化した後、DTP編集によって報告書を作成し、平成19年3月30日に『久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書Ⅶ』として刊行した。

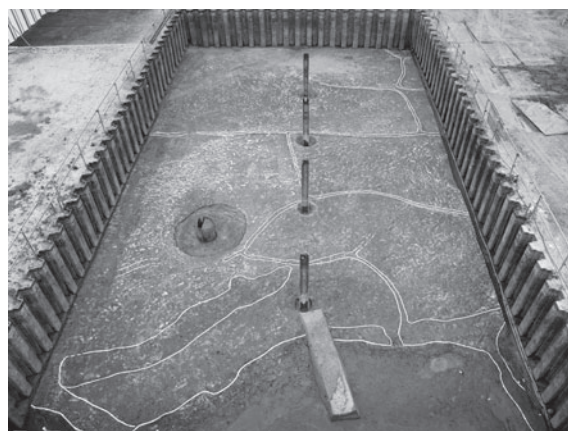
42. 新上小阪遺跡 05－1〔調査・整理〕

大阪府営東大阪新上小阪（第2期）住宅（建て替え）建設工事に伴い新上小阪遺跡の発掘調査を平成17年度から引き続き実施した。今年度は主に2・3調査区の調査となったが、1調査区同様、近世の島畠・中世の方形土坑・弥生時代後期後半の集落・弥生時代中期の水田（Ⅳ様式、Ⅱ様式）・弥生時代中期（Ⅱ様式）の堤を有する大溝など各時期にわたって遺構の広がりを確認した。最も遺構が密集した弥生時代後期後半の集落では、居住域を画すると考えられる溝の他、幅の狭い溝で周囲を囲む掘立柱建物、土坑等検出した。

43. 植松遺跡 05－1〔調査・整理〕

八尾市植松町8丁目に所在する。平成17年度から行っている、大阪府営八尾植松住宅建て替えに伴う発掘調査と報告書作成事業を実施した。

発掘調査は北側調査区で前年度に続き、古墳時代前



42. 3調査区 弥生時代中期水田



43. 古墳時代から古代の自然流路

期から奈良時代にあたる、旧大和川支流の自然流路を検出し、自然流路がさらに北に続くことを確認した。流路砂層中からは、人面墨書土器や須恵器、竈などが出土した。 整理作業は、遺構図面・写真の整理と選択などの基礎作業、挿図作成、写真焼付け、出土遺物の分類・抽出・実測・写真撮影などを行った。

44. 池島・福万寺遺跡 04－2〔調査・整理〕

本調査は、平成 16 年から 18 年に恩智川治水緑地の池島Ⅱ期地区内の調査地で行った。調査成果として、これまでに当遺跡で確認されていた条里型水田や弥生時代の水田遺構に加えて、縄文時代晩期から弥生時代初頭にかけての墓制に関わる遺構・遺物を検出し注目された。突帯文土器や弥生時代前期の遠賀川式土器のほか、土偶・石棒や中部高地の浮線文土器などが注目される。整理では、遺構面や遺構に関わる図面整理および遺物の基礎的な作業を行った。

45. 池島・福万寺遺跡 05－1〔調査〕

調査地は福万寺Ⅱ期地区の東部に位置する。前年度から引き続き、今年度は中世後半（4a 層）以下の地層を調査対象とした。重要な成果としては、まず弥生時代後期末から古墳時代後期にかけての生活関連遺構（掘立柱建物・井戸・溝・土坑など）を検出した点である。

4 世紀後半の布留式土器がまとまって出土した土坑や、5 世紀後半の須恵器・土師器・製塩土器・滑石製白玉・馬骨とともに炭化コムギが大量に出土した土坑などが注目される。また、弥生時代では前期末～中期初頭、中期後半、後期の 3 時期の水田を検出した。各段階とも微高地上や縁辺に水路を設け、低い側の水田へ配水していたことが明らかになり、特に中期後半には、取水部分に水溜状の土坑を設置しており注目される。



45. 弥生時代中期の水路と水溜施設

46. 池島・福万寺遺跡 05－2〔調査〕

平成 17 年度から継続して実施している恩智川治水緑地建設に伴う調査である。調査地は池島Ⅱ期地区の南西端に位置する。平成 18 年度は古代から弥生時代前期までの各遺構面の調査を実施した。

古代遺構面は、中世の耕作に伴う攪拌により、残りは良くないが、土器埋納土坑や溝状の耕作痕跡を検出した。古墳時代、弥生時代の各遺構面の成果は、池島Ⅰ期地区の調査成果と整合する。古墳時代では、溝、ピット、水田畦畔を検出した。溝は古墳時代後期のもので、



46. 弥生時代前期の水田

池島Ⅰ期地区の溝に接続する。弥生時代後期では、自然流路とそれに接続する溝を検出した。自然流路は、池島Ⅰ期地区南東の溝に接続しているものと考えられる。この溝は、水田の用水路として利用されている。弥生時代中期では、水田畦畔、溝、杭列を検出した。東から西へと傾斜する地形にあわせ、等高線に並行するようにつくられた南北方向の大畦畔と、大畦畔間の雛壇状の平坦面を区画する小畦畔を検出した。洪水によって遺構面が流出している箇所も認められたが、この段階では、調査区のほぼ全域が水田域として利用されていたようである。弥生時代前期では、水田と溝を検出した。水田は、

池島Ⅰ期地区の南東部で検出された水田と一連のものであり、同水田ブロックの東端部にあたる。水田一枚あたりの面積は9㎡～24㎡である。溝は、地形の傾斜にしたがって、南東から北西方向に流下するものと、これに交差するものを検出した。調査区の北西へとのびる溝は、池島Ⅰ期地区の各水田ブロックに給水する用水路である。

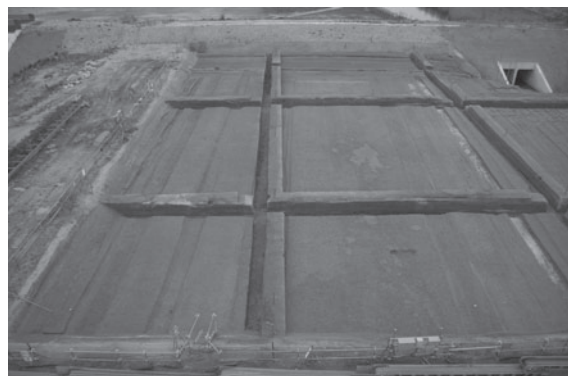
47. 池島・福万寺遺跡 06－1〔調査〕

調査地は、恩智川治水緑地の福万寺Ⅱ期地区の北東隅で、平成17～19年度調査の池島・福万寺遺跡05－1調査区の北側に位置する。

遺跡一帯は、条里型地割の良好に残る地域で、河内郡字走三坪と四坪にまたがっている。

本年度は、近世から中世後半にかけての計4面の遺構面調査を行なった。また調査過程では、近世後半の洪水による氾濫堆積物層の上面から掘りこまれた災害復旧に伴う溝状の土坑（通称「1b土坑」）を検出している。

出土遺物は少なく、陶器・磁器・瓦片などが出土している。



47. 近世の水田・島畑

48. 池島・福万寺遺跡 06－2〔調査〕

調査地は、恩智川治水緑地の池島Ⅰ期地区と同Ⅱ期地区の接続する副越流堤の東側に位置し、平成16年度から平成18年度に調査を行なった調査を行なった池島・福万寺遺跡04－2調査区の西側に位置する。

今回の調査地は、これまでの調査同様に条里型地割の良好に残る地域で、河内郡字河十七ノ坪と二十ノ坪にまたがっている。

本年度は、近世から中世後半にかけての計4面の遺構面調査を行なった。また調査の過程で、近世後半の洪水による氾濫堆積物層の上面から掘りこまれた災害復旧に伴う溝状の土坑（通称「1b土坑」）を検出している。



48. 近世水田面・島畑

前述の氾濫堆積物を除去した近世後半の遺構面は、非常に残りがよく、坪境畦畔および、条里型地割に伴う畦畔・島畠・それらによって区画された水田を検出した。遺構面の遺存状況は非常によく、耕作に伴う筋状の痕跡、足跡などを検出した。坪境畦畔の西側には平行してやや大きめの畦畔を併設されていた。この間のくぼんだ部分は、用水路として使用していたものと考えられる。

また、中世後半の各面では、坪境畦畔および、条里型地割に伴う水田畦畔を確認した。いずれの遺構面も遺存状況はあまり良好ではなかった。ただし、遺構面は上部に氾濫堆積物層が被覆した残りの良好な部分も存在し、耕作に伴う人や牛馬の足跡なども確認された。

耕作地のため出土遺物は少ないが、陶器・磁器・土師器・瓦片などが出土している。

c 南部調査事務所

49. 三宅西遺跡 04 - 2 [調査・整理]

大阪府松原市三宅西に所在する。阪神高速大和川線建設に伴う調査で、平成 15・16 年度の確認調査の結果を受け、平成 16 年度から本格的な調査を開始する。二分した三宅西遺跡の東半が当調査区に該当する。

今年度の調査では、11 区東・19 区中西を主に調査し、弥生時代中期前半の集落の様相が判明しつつある。

集落は、段丘際の微高地上に小河川を挟んで展開する。竪穴住居・掘立柱建物が検出された集落域、方形周溝墓を検出した墓域、水田畦畔を検出した生産域と、非常にコンパクトにまとまっており、その内部構造が理解しやすい。現在、整理作業が進められている。



49. 11 区東 集落域

50. 三宅西遺跡 04 - 3 [調査・整理]

松原市内における都市計画道路大和川線外建設に伴う調査で、昨年度に引き続き調査を実施した。調査地は台地の先端部に立地しており、流路が縦横に走る。古墳時代以降に安定した環境になったとみられ、古墳時代の遺構が比較的密に検出されている。今年度は、調査地の西側にあたる 3・4 区で、掘立柱建物・ピット群・土坑・溝などを検出した。

現地調査終了後、整理作業にとりかかっている。遺物は、土師器や須恵器のほか、縄文土器もみられ、調査全体でコンテナ 140 箱に及んでいる。



50. 古墳時代を中心とする遺構群

51. 池内遺跡 05 - 1 [調査]

当調査地は松原市天美東に所在する。阪神高速道路と府道建設の事前の調査である。基本層は 3 層が中世の整地層、4 層は古代末頃の層である。5 層から 9 層は縄文中後期以降の堆積層である。検出した遺構、遺物は次の通りである。縄文時代と思われる石鏃、弥生時代の前期の土器、及び後期の土器等も出土した。古墳時代は前、中、後期の遺構と土器を検出した。奈良時代は 1 地区から掘立柱建物、平安時代の 3 地区から掘立柱建物の 25 棟を検出した。中世は 1 地区、5 地区から掘立柱建物を検出した。また条里に伴うと考えられる溝も検出した。



51. 3 地区の掘立柱建物群

52. 池内 05 - 2〔調査〕

昨年度より引き続き調査を行い、平成 19 年 2 月に終了した。各時期の成果を概略すると、縄文時代以前は遺構・遺物ともに希薄であるが、自然流路および風倒木痕が、各調査区で確認された。

弥生時代は前期中段階の水田域と環濠集落を検出した。水田は調査地東側、環濠集落は調査地中央部に当る。水田は浅い窪地につくられたいわゆる小区画水田で、北流する自然流路を西限とし、排水路を伴っている。自然流路では堰とともに導水路も見つかり、今回検出した水田域の北にさらに別の水田域が広がっている可能性が高い。環濠集落はこの水田が洪水により埋



52. 弥生時代前期水田

没したのちの微高地上に位置する。2 条の環濠を伴い、集落の東西幅は内側で約 75 m ある。集落内部では多くの柱穴や廃棄土坑と考えられる土坑などを確認した。建物としては竪穴住居 1 棟、掘立柱建物 2 棟を現状で復元している。これらの遺構群はいずれも弥生時代前期中段階に収まり、近畿地方における弥生文化定着期の様相を示す資料として注目される。

弥生時代終末～古墳時代の遺構は散発的ではあるが、方形周溝墓・井戸・土坑などを確認した。

平安時代は建替を含め 27 棟以上の掘立柱建物群からなる屋敷地を検出した。今年度の調査では、建物群の北側に空間地が広がることを確認し、小溝群の存在から屋敷畠が存在した可能性がある。さらに北側に屋敷境が位置するのであろう。

鎌倉時代以降は小溝群の存在から調査地全域がおもに耕作域として利用されていたことが判明した。とくに、西半では洪水により埋没した条里型水田を良好な形で検出することができた。

53. 湊遺跡 06 - 1〔調査・整理〕

南海本線（泉佐野市）連続立体交差事業に伴う調査としては最後の調査である。南海本線泉佐野駅より北東側の線路敷地内で泉佐野市湊 1 丁目地内。遺跡は佐野川左岸に位置し、川沿いの北東半の微高地と南西半の開析谷からなる。調査は開析谷を横断し微高地の肩部に至る形となった。

今回の調査で、北東半の微高地が AT 火山灰の検出などから低位段丘である事が確認され、今まで把握できていなかった開析谷の堆積状況も明らかにできた。



53. 3 トレンチ北西壁断面

遺構・遺物としては、粘質の土が下にある耕地区画に大型の土坑を密集させて掘削し、そこに洪水砂を埋めた後、掘削した粘質土で貼り床をするという、近世の洪水被害の復旧作業が把握できた他、中世では段丘崖直下の粘土採掘土坑群、飛鳥時代では飯蛸壺の出土などがあったが、最も注目されるのは、古墳時代初頭の土器群である。

未使用でほぼ完形の脚台Ⅱ式の製塩土器が 5 個体出土した土器群 4 や、生駒西麓産庄内式甕と在地の弥生Ⅴ様式系土器と製塩土器が共伴した土器群 6 などがあり、製塩土器の仔細な形態や製作法が観察可能なだけでなく、中河内の土器と和泉の土器、そして製塩土器の編年上の接点を示す好例である。

しかし、遺物量の豊富なこの時期の遺構はいまだ皆無であり、その理由は解明できていない。

なお、開析谷の基底部は確認できなかったが、調査到達深度最下部付近で弥生時代中期の土器片をわずかながら確認できた。

54. 大西遺跡 06－1・若宮遺跡 06－2〔調査・整理〕

南海本線泉佐野駅の西方 500 m にわたり調査を実施した。ほぼ全面で 18 世紀中葉以前に開発された水田域を、水田化を免れた範囲で中世の溝、土坑、小穴および 13 世紀後半～15 世紀頃の遺物包含層を検出した。

中世の遺物には瓦器、瓦質土器、青磁、白磁がある。近世の水田耕作土からは飲食用の陶磁器のほか、紅猪口、ガラス製および石製の簪、芥子面・泥面子・ミニチュア品などの土製玩具といった日用雑器類とは異なる遺物も認められ、約 200 m 北に広がる「佐野町場」との関係が推測できる。

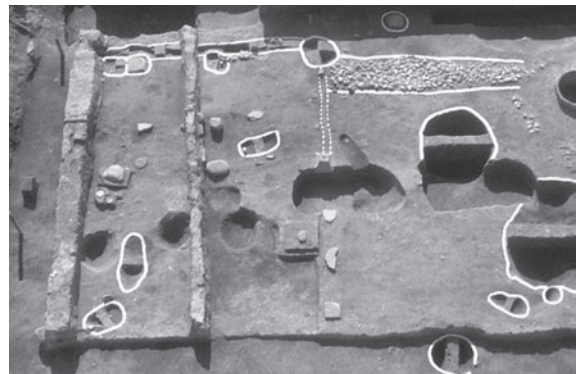
55. 若宮遺跡 06－1〔調査・整理〕

泉佐野市上町 3 丁目地内に所在する。今回の調査では、中～近世の水田・畦畔・井戸・溝を検出した。

特に、西側部分において中世の区画溝を検出した。若宮遺跡は、近世に繁栄する「佐野町場」の中心地に位置する。今回の調査では、「佐野町場」を直接示す遺構を発見することはできなかったが、廃棄土坑などから瀬戸美濃焼天目碗や中国製磁器が出土したことから、繁栄の一端を垣間見ることができた。平成 19 年 3 月 30 日に報告書『若宮遺跡』を刊行し、本事業を終了した。

56. 堺環濠都市遺跡 06－1〔調査〕

大阪府住宅供給公社少林寺・B 団地建て替えに伴い調査を実施した。調査地は堺市堺区少林寺東 3 丁目地内に所在し、堺環濠都市遺跡の南東部に位置する。調査地内に 2 箇所の調査区を設け、平成 18 年度は南側に位置する 1 区の調査を行った。1 区では一部が団地基礎により著しい攪乱を受けていたものの、17 世紀前半から 19 世紀まで連綿と続く近世町屋を確認することが出来た。



56. 近世初頭の礎石建物（樽屋町側）

近世期の堺環濠都市は長方形街区によって町が形成され、街区内は短冊形地割により町屋が形成されている。1 区ではこの短冊形地割を示す町屋構造を確認した。その構造は道路に面する表側に礎石建物を建て（東西 4 m 以上×南北 4 m）、裏側に井戸・埋甕・埋桶・廃棄土坑などを設けている。短冊形地割と言われるように、一つの町屋の間口は非常に狭く幅 4～5 m（2 間～2 間半）程度である。そして表側からの奥行きは 15m 以上を測り、背割りの溝で敷地を画している。

元禄大絵図（元禄 2・1689 年）によれば、当調査地の西側部分が絹屋町・東側部分が樽屋町となっており、背割りの溝によって両町を区分していたことが明らかとなった。なお、17 世紀前半代の区画溝からは多量の樽桶部材・桜樹皮・糸巻き具が出土し、絵図が示すように絹屋町・樽屋町が形成されていたことを裏付ける成果を得た。

また、1 区北西側で多量の徳利（丹波焼・大谷焼など・18 世紀後半～19 世紀）を廃棄した土坑を検出した。この位置は先の絵図によると会所の南端に当たっており、多量の徳利の存在は集会の様子を彷彿とさせる興味深い資料である。

57. 堺環濠都市遺跡 06－2〔調査〕

堺市堺区戎之町東4丁に所在する戎之町団地の建替えに伴う発掘調査を実施した。調査期間は平成18年12月～19年5月、調査面積は約470㎡である。

19世紀前半から16世紀前葉までの7面の遺構面を調査し、検出遺構約700基、出土遺物コンテナ750箱を数えた。層序は上から盛土・攪乱、近世整地土Ⅰ（～19世紀前葉）、近世整地土Ⅱ（18世紀前半～17世紀後葉）、近世整地土Ⅲ（17世紀中葉）、慶長整地土・焼土（慶長20年の火災層・整地造成土／17世紀中葉～1615年）、天正整地土・焼土（天正3年の火災層・整地造成土／1615～1575年）、中世整地土Ⅰ（16世紀後葉～16世紀中葉）、中世整地土Ⅱ（16世紀中葉～16世紀前葉）、中世整地土Ⅲ（16世紀前葉～15世紀後葉）である。

慶長整地土・焼土下の第4面（大坂夏の陣被災面）では列建物8棟、礎石建物3軒、天正整地土・焼土下の第5面（天正3年の火災面）では列建物7棟、礎石建物2軒、中世整地土Ⅰ下の第6面（16世紀中葉：天文22年の火災面の可能性がある）では列建物2棟、礎石建物4軒を検出した。

数多い出土遺物の中でも特に貿易陶磁器が注目される。15世紀後葉～18世紀初葉の遺構・整地土から出土するものには、中国産の龍泉窯系青磁・白磁、景德鎮系青花・五彩皿、州窯系染付磁器・呉須赤絵碗、華南三彩盤・皿、緑釉陶器大皿、褐・黒・黄釉壺、宜興窯急須、朝鮮王朝産の白磁碗・皿、褐釉平茶碗、粉青沙器刷毛目皿、雑釉德利、ベトナム産の長胴瓶、鉄絵菊花文碗、壺、タイ産の突鉢、壺がある。18世紀末以降の貿易陶磁器にはイギリス製の軟質磁器絵皿（ウィローパタン）と清朝磁器があり、さらにオランダ製ワインボトルや銀製指輪も出土した。

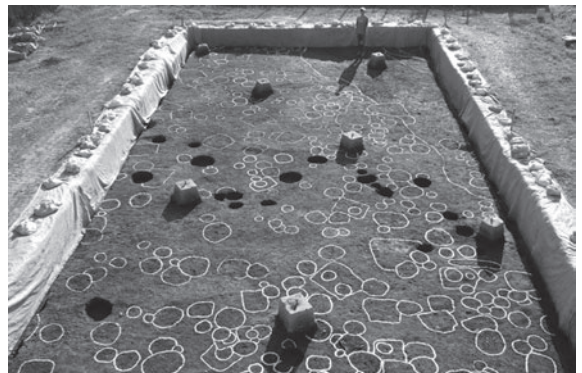


57. 第5面西半の建物群

58. 史跡池上曽根遺跡 06－1〔調査・整理〕

昨年度に引き続き、第2期史跡整備事業に伴う調査を実施した。調査区は、「大形建物」の北側約35mに設定し、環濠集落内部北側の状況を明らかにすることを目的とした。調査では、弥生時代中期後半の柱穴や土坑を多数検出したが、竪穴住居は確認できず、掘立柱建物のみエリアと考えることができる。

掘立柱建物は、厳密には一致しないが、「大形建物」と方位をそろえて建てられているものと考えられる。また、水晶が一点出土しており、貴重品として持ち込まれたものといえる。



58. 弥生時代中期後半の遺構面

59. 八尾南遺跡 03－1〔整理〕

2002～2004年度にかけて実施した発掘調査によって出土した遺物を整理し、報告書作成業務を実施した。2005年度は出土遺物の接合・復元・実測・台帳作成、遺構図面の整理・浄書等の基礎的な作業を主として行い、今年度は出土遺物実測図の浄書や写真撮影、写真図版の作成、原稿執筆、報告書の編集等、報告書刊行に備えた作業を実施した。

また、700 個体以上の大量の土器が出土した弥生時代後期末から古墳時代初頭の流路 1 出土土器を大和川河川敷において写真撮影を行い、巻頭図版用の写真とした。

60. 大和川今池遺跡 06 - 1〔調査〕

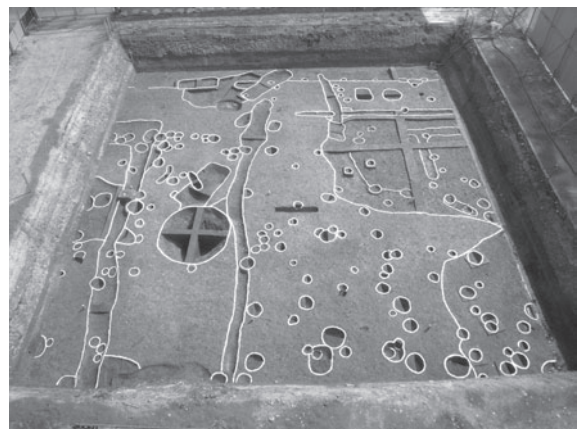
今回の調査地は松原市天美西に位置する。調査範囲は、大阪府教育委員会により調査が行われた今池水みらいセンターから近鉄南大阪線西側までの範囲で、池内遺跡から近鉄線を挟んだ西側である。面積は 10,477 m²で、15 区分して調査を行っている。今年度は 11 月より発掘調査を開始し、4 箇所の調査を行った。調査地は東から西へ低まり、再度西端で高まる地形のようであり、低まり部分では古代（10 世紀頃）の条里型水田などが検出された。一方、東側の高まった部分の調査では、弥生時代後期、古代（奈良時代頃）などの遺構が多数検出された。



59. 流路 1 出土弥生時代後期末

61. はざみ山遺跡 05 - 1〔整理〕

昨年度調査の遺物整理事業である。昨年度の基本的遺物整理作業を受け、遺構関係では実測図の整理、再検討、遺構図面の作成、トレース、遺構写真の紙焼き等を、遺物関係では実測遺物の抽出、遺物実測、トレース、遺物写真の撮影、収納、台帳作成等をそれぞれ行い、原稿執筆、報告書の編集を行った。なお、遺構については過去に行われた 02 - 1 工区との関連を整理し、遺物については特に土馬についての整理を行った。最終的に、平成 18 年 9 月に報告書『はざみ山遺跡 2』を刊行し、作業を終了した。



60. 弥生時代後期・古代の遺構群

62. 田井中遺跡 05 - 1〔整理〕

田井中遺跡は、八尾市に所在し、縄文から近世に到る複合遺跡である。当遺跡の調査は、陸上自衛隊八尾駐屯地の施設整備工事に伴うものである。弥生時代前期後葉～末葉の土器棺墓 1 基、ピット・土坑・落込み・溝などの遺構から出土した遺物を中心に、遺物整理を実施した。なお、弥生時代前期末葉～中期の両岸に堤をもつ大溝から出土した土器なども図化し、挿図および写真図版を作成し、『田井中遺跡』として、報告書を刊行した。

(3) 保存処理事業

(a) 弥生文化博物館展示金属製品の科学的調査

平成 18 年度、金属製品の劣化状況調査のために展示金属製品（瓜生堂遺跡出土銅戈）を点検し、文化財科学的調査を実施した。

(b) 平成年度保存処理事業一覧

調査事業に関連して以下の通り保存処理事業を実施した。

遺跡名	処理種別	処理方法	処理数量
近畿道関連（北群）	大型木製品	整理・点検	460 点
近畿道関連（南群）	大型木製品	整理・点検	174 点
大坂城遺跡	木製品	整理・点検	134 点
池島福万寺遺跡	木製品	整理・点検	288 点
久宝寺遺跡	木製品	整理・点検	160 点
瓜生堂遺跡	木製品	整理・点検	52 点
讃良郡条里遺跡	木製品	PEG-FD 処理	13 点
茄子作遺跡	木製品	PEG-FD 処理	120 点
岩田遺跡	木製品	PEG-FD 処理	28 点
大坂城Ⅲ遺跡	大型木製品	PEG-FD 処理	130 点
花屋敷遺跡	木製品	PEG-FD 処理	20 点
新上小阪遺跡	木製品	PEG-FD 処理	50 点
奥山遺跡	金属遺物	アクリル樹脂処理	188 点
讃良郡条里遺跡	金属遺物	アクリル樹脂処理	11 点
瓜生堂遺跡	金属遺物	アクリル樹脂処理	23 点
禁野本町遺跡	金属遺物	アクリル樹脂処理	950 点
久宝寺遺跡	金属遺物	アクリル樹脂処理	67 点
城山遺跡	石製品	修復作業	200 点
茄子作遺跡	植物遺体	分類・鑑定	340 点
山賀遺跡	動植物遺体	分類・鑑定	コンテナ 20 箱
新上小阪遺跡	動植物遺体	分類・鑑定	コンテナ 10 箱
玉櫛遺跡	動植物遺体	分類・鑑定	コンテナ 5 箱
X線調査	各種遺物	X線透視撮影	金属・有機遺物 100 点

PEG: ポリエチレングリコール FD: 真空凍結乾燥を示す。

(4) 現地説明会等

平成 18 年度現地説明会・現地公開等は次のとおり実施した。

開催年月日	遺跡名	参加者数	種 別	備考	
2006.06.06	三宅西遺跡 04-2	44	現地公開	地元	
2006.12.03	史跡池上曾根遺跡 06-1	308	現地説明会	一般	
2006.12.12	津田遺跡 03-1	24	現地公開	地元	
2006.12.18	玉櫛遺跡 06-1	170	現地公開	地元	
2006.12.19	池内遺跡 05-2	76	現地公開	地元	
2007.01.20	私部南遺跡 06-1	730	現地説明会	一般	
2007.01.25	吹田操車場遺跡 06-1	120	現地公開	地元	
2007.01.27	池内遺跡 05-2	735	現地説明会	一般	
2007.02.16	私部南遺跡 06-2	468	現地公開	地元	一般 126 名、小学生 342 名（磐船小 53 名・交野小 4 年生 139 名・交野小 6 年生 150 名）
2007.02.21	堺環濠都市遺跡 06-1 （少林寺）	302	現地公開	地元	一般 232 名、小学生 70 名 （少林寺小学校 1 ～ 3 年生）
2007.03.10	堺環濠都市遺跡 06-2 （戎之町）	740	現地説明会	一般	
2007.03.25	吹田操車場遺跡 06-1	130	現地説明会	一般	

1. 三宅西遺跡 04 － 2 現地公開 平成 18 年 6 月 6 日

本調査は阪神高速大和川線建設に伴うものである。今年度の調査において、弥生時代中期前半の集落構造が具体的に明らかとなった。公開当日は内外から 50 名ものプロパーの見学者を得て、盛況のうちに終わった。集落は、段丘際の微高地上に小河川を挟んで展開する。竪穴住居・掘立柱建物が検出された集落域、方形周溝墓を検出した墓域、水田畦畔を検出した生産域と、非常にコンパクトにまとまっており、その内部構造が理解しやすい。弥生時代中期前半の集落構造を考える上で重要な遺跡といえる。

2. 史跡池上曾根遺跡 06 － 1 現地説明会

平成 18 年 12 月 3 日

史跡池上曾根遺跡の調査では、「大形建物」北側の地形の形成過程が明らかになったため、一般市民を対象に現地説明会を実施した。寒い中であつたが、天気



2. 史跡池上曾根遺跡 06 － 1 現地説明会

も恵まれたことから、地元の方々のみならず、東は千葉県・長野県、西は岡山県などの遠方からの参加者も含め、308人の参加があった。遺構や遺物の説明に熱心に耳を傾ける方が多く、遺物の中では水晶に注目が集まった。さらに、「土器に触れる」「接合ができる」などのほか、貫頭衣を着る体験コーナーを設置し、好評を得た。

3. 津田遺跡 03－1 現地公開 平成 18 年 12 月 12 日

平成 18 年度の調査では、鎌倉時代の掘立柱建物群、弥生時代の竪穴住居などが良好な状態で検出された為、現地公開を実施した。当日は、時折小雨の降る天気にもかかわらず、多くの見学者に足を運んでいただいた。現地では、中世の大溝に囲まれた掘立柱建物群、弥生時代の竪穴住居などの説明を行い、調査地内に設置したテント内では出土遺物の展示も行った。見学者の中には、担当者に対して熱心に質問を投げかける姿もみられた。

4. 玉櫛遺跡 06－1 現地公開 平成 18 年 12 月 18 日

玉櫛遺跡は、茨木市玉櫛 2 丁目に所在する、古墳時代から中世にかけての遺跡である。古墳時代遺構面を調査中に現地公開を実施した。遺跡の概要と公開中の古墳時代遺構面について説明を行い、あわせてすでに調査が終了していた平安時代から鎌倉時代の遺構面の写真パネルや出土遺物を展示した。地元住民を中心に約 170 人の方にご見学いただき、遺構や遺物について多くの方から熱心な質問を受けた。

5. 池内遺跡 05－2 現地公開 平成 18 年 12 月 19 日

昨年から継続中の調査である。弥生時代前期中段階の環濠集落及び水田跡を検出し、水田畦畔検出中の現場と環濠を公開し、出土遺物の展示を併せて行った。当日は研究者を中心に 76 名の参加者があった。現場では水田畦畔をまさに検出している途中の段階ということもあり、実際に手ガリでその感触を確かめる等、熱心に現場の状況を見ていかれる方も多く、たくさんの御教示を賜り、また共に検討することができた。

6. 私部南遺跡 06－1 現地説明会 平成 19 年 1 月 20 日

平成 18 年 8 月に発掘調査に着手、古墳時代以前の遺構面を検出したところ、極めて良好で濃密な遺存状況の集落遺構が検出され、調査を進めると弥生時代前期末～中期初頭の集落と、古墳時代後期の集落が同一面で重なって検出されることがあきらかとなった。また弥生時代の遺構には数次にわたって建て替えられた大型円形住居が認められ、当該時期の拠点集落であったことが窺われた。こうした状況からこれらの成果をいち早く公表するため現地説明会を開催した。開催に際しては、事業者である国土交通省浪速国道事務所並びに西日本高速道路株式会社の共同参画を得、道路建設事業に関しても解説するコーナーを設け、約 740 名の参加があり盛況を博した。

7. 吹田操車場遺跡 06－1 現地公開 平成 19 年 1 月 25 日

当遺跡は、吹田市所在の旧国鉄吹田操車場（大正 12 年建設）の跡地を中心に広がる遺跡である。今回の調査は、C1・C2 地区、C3・C4 地区、C5・C6 地区と呼称した 3 つの調査区に分かれている。現地公開では、C1・C2 地区で古墳時代終わりから奈良時代の群集土坑約 300 基とそれと同時期と考えられる掘立柱建物 2 棟が見つかっており、それらを地元住民の方々に周知し実施した。当日は、平日であったにもかかわらず、120 名の方々に足を運んでいただき、熱心に見学して頂いた。

8. 池内遺跡 05－2 現地説明会 平成 19 年 1 月 27 日

昨年から継続中の調査である。弥生時代前期中段階の環濠集落及び水田域を確認しており、調査中の環濠集落の西側を公開した。またこれまでの調査で得た土器や石器などの出土遺物の展示も併せて行った。現場での説明では参加者に実際に現場に降りて頂き、2 条の環濠の様子や集落内の竪穴住居、当時としては大型の掘立柱建物を中心に多数の柱穴やごみ穴などの土坑及び土器出土状況を間近で見学できるように配慮した。当日は地元の松原市の方々を中心に 735 名が参加され、説明会は大盛況の内に終わった。



8. 池内遺跡 05－2 現地説明会

9. 私部南遺跡 06－2 現地公開 平成 19 年 2 月 16 日

平成 19 年 2 月 26 日金曜日、私部南遺跡 06－2 調査区の現地公開を行った。公開時間は午前中を地元、交野小学校・岩船小学校の児童・引率の先生方、午後 2 時から 4 時までを近隣住民の方々とした。

現地では古墳時代中期から後期の竪穴・掘立柱建物や出土品のほか、調査風景を記録したビデオを見て頂き、寒風吹きすさぶ悪条件の中ではあったが、児童・引率の先生方 353 名、近隣住民を中心とする方々 126 名、合計 379 名にのぼる多数の方々に調査現場を見学していただくことができた。



9. 私部南遺跡 06－2 現地公開

10. 堺環濠都市遺跡（少林寺）現地公開 平成 19 年 2 月 21 日

午前には堺市立少林寺小学校の 1～3 年生 70 人、午後からは地元の方々を対象に公開を行った。平日にもかかわらず、232 人の参加があった。江戸時代前期の生活面を公開し、礎石建物や建物内で検出した 6 連のカマドを見学していただいた。また、近世全般にわたって同じ位置に築かれる区画溝の説明では、現代建物の敷地境として、現在もその区画が踏襲されていることに驚きの声が上がった。「今後もこういった見学の機会を設けて欲しい」との要望が多く寄せられた。

11. 堺環濠都市遺跡（戎之町）現地説明会

平成 19 年 3 月 10 日

慶長 20（1615）年の大坂夏の陣による被災面において埴列建物 8 棟、礎石建物 3 棟、通路、埋甕などを検出した。しかも埴列建物の 1 棟では、落ち込んだ焼土が顕著に残っていた。そこで多くの方々に当時の町屋の様相を体感してもらうため、現地説明会を開催した。また調査進行中であった、石組み構造をもつ近世後期の酒蔵搾場遺構も併せて公開した。参加者数は 740 名であった。



11. 堺環濠都市遺跡 06－2（戎之町）現地説明会

出土遺物のうち、新聞やテレビで取り上げられたイギリス製絵皿とオランダ製ワインボトルを中心に、国内外の陶磁器類を展示した。さらに体験コーナーを設け、火打石による火付けと泥面子作りを行った。

12. 吹田操車場遺跡 06 － 1 現地説明会 平成 19 年 3 月 25 日

C1・C2 地区の調査終了に伴い、現地公開以後新しい成果が得られたため、今度は新聞報道を行い、広く一般の方々に対して現地説明会を実施した。新しい成果としては後期難波宮と同形式の軒丸瓦、未使用の円面硯、墨書土器などの遺物がある。今回、それらは現場とは別に新たに展示室を設け、詳しい解説を行った。当日は、あいにくの雨で足元も悪いなか、130 名の方々の参加を得た。参加者からは多くの質問が出され、遺跡に対する関心の強さが示された。



12. 吹田操車場遺跡 06 － 1 現地説明会

4. 普及啓発事業

A. 文化財講演会事業

(1) 府立三博物館館長リレー講演会

弥生文化博物館、狭山池博物館と近つ飛鳥博物館の府立三博物館館長に（財）大阪府文化財センター理事長の四氏によるリレー講演会を実施した。いずれの館でも、定員を上回る盛況で特に第3回目の白石館長による講演会は500人の大入りであった。

	日 程	内 容	参加者数
第1回	2月12日(月振休)	「古いの考古学」 弥生文化博物館館長 金関恕	350人
第2回	3月3日(土)	「世界遺産と考古学」 狭山池博物館 館長 工楽善通	140人
第3回	3月21日(水祝)	「最初の倭国王は誰か」 近つ飛鳥博物館館長 白石太一郎	500人
第4回	3月31日(土) 各14:00～15:30	「救ひの考古学」 (財)大阪府文化財センター 理事長 水野正好	190人

(2) 重要調査に基づくシンポジウムの開催

当センターが発掘調査した上私部遺跡を対象に大阪歴史博物館4階講堂において、シンポジウム

「古墳時代に生きた渡来人の軌跡ー長原遺跡・葦屋北遺跡・上私部遺跡を中心にー」を実施した。

＊財団法人大阪市文化財協会・大阪歴史博物館と共催。

＊後援 大阪府教育委員会 交野市教育委員会 四條畷市教育委員会

本事業は、平成18年度文化庁埋蔵文化財保存活用整備事業国庫補助金によるものである。

平成18年12月2日(土) 11:00～16:45 参加者数：約320人(関係者含む)

古墳時代に生きた渡来人の軌跡ー長原遺跡・葦屋北遺跡・上私部遺跡を中心にー

開会あいさつ (財)大阪府文化財センター 専務理事 横山敏郎

「長原遺跡における古墳時代中期の集落と渡来人」

(財)大阪市文化財協会保存化学担当課長 田中清美

「土器から探る長原遺跡渡来人の故郷」 (財)大阪市文化財協会 学芸員 寺井 誠

「葦屋北遺跡の渡来人と河内の牧」 大阪府教育委員会 技師 岩瀬 透

「北河内の初期須恵器と渡来人」 (財)大阪府文化財センター 技師 南 孝雄

「上私部遺跡と渡来人の動向」 (財)大阪府文化財センター 技師 網 伸也

記念講演「朝鮮半島から河内へー渡来の契機と定着ー」

滋賀県立大学人間文化学部 教授 田中俊明

司会：(財)大阪府文化財センター技師 後藤信義

パネリスト：田中清美・寺井 誠・岩瀬 透・南 孝雄・網 伸也・田中俊明

(3) 職員による文化財調査に関する講演会の実施

第2回歴史体験隊

平成18年度は、日本民家集落博物館を会場として下記のとおり実施した。

回	日時	タイトル	講師	場所	参加者数
1	11月19日(日) 10時30分～15時	縄文ポシェット	村上年生 山口誠治	十津川の民家	18名 (保護者7名)
2	12月24日(日) 10時30分～15時	はにわ 作ろう	三好孝一	カルチャア はっとり	23名 (保護者8名)
3	2月17日(土) 10時30分～15時	はにわ 焼こう	三好孝一	南部の曲家	18名 (保護者5名)
4	2月25日(日) 10時30分～15時	ペーパークラフト	本間元樹	十津川の民家	22名 (保護者7名)

また、第2回歴史体験隊作品展示を日本民家集落博物館内にある堂島の米蔵にて、3月2日(金)～3月23日(金)〈最終日は12時まで〉行った。会期中の入館者総数は2,677名であった。(日本民家集落博物館全体の会期内入館者数)。

(4) ミニ講座、見学ツアー等の実施

① ミニ講座

- ・日本民家集落博物館との共催によるミニ講座

博物館内のカルチャアはっとりを会場として、下記のとおり実施した。

全体テーマ 「信濃秋山郷豪雪の暮らし 今むかし」

(聴講者延べ人数 124 人、平均 31 人)

回	月日・曜日	講座タイトル・講師	参加者数
1	10月28日(土)	「秋山の民家の移築経緯について」 島田 達雄 (元箕面市郷土資料館長)	29名
2	11月4日(土)	秋山郷の風土と民家 杉本 尚次 (大阪人間科学大学教授)	31名
3	11月11日(土)	椎葉村の民家建築 森 隆男 (関西大学教授)	31名
4	11月18日(土)	GO 雪共和国・秋山郷への誘い 相沢 博文 (長野県栄村村会議員)	33名

- ・池上曽根史跡公園協会との共催によるミニ講座

池上曽根弥生学習館を会場として、下記のとおり実施した。

全体テーマ 「フォーラム匠の世界 ―日本の伝統技術は今― 」

(聴講者延べ人数 272 人、平均 68 人)

回	月日・曜日	講座タイトル・講師	参加者数
1	7月 2日(日)	木綿と綿打ち 丹羽 正行(1級寝具技能士) 丹羽 恵子(技能保持者) 井関 和代(大阪芸術大学教授)	70名
2	7月16日(日)	名工が語る堺の和包丁 池田 辰男(鍛冶・伝統工芸士) 小田 幸徳(研ぎ師・伝統工芸士) 中島 保美(大阪芸術大学工芸学科)	95名
3	7月30日(日)	新型つまようじが生まれるまで 稲葉 修((株)光栄社・代表取締役) 井本 正雄((有)アクア金属・代表取締役)	51名
4	8月 5日(日)	泉州桐箆笥～300年の伝統を伝える匠の技～ 田中 稔 (伝統工芸士・大阪泉州桐箆笥協同組合理事長) 熊野 清貴(大阪芸術大学教養学部助教授)	56名

②バスツアー

- ・民家集落博物館との共同企画によるバスツアーと写真パネル展

タイトル：第4回民家集落ツアー 近江国(湖北)の歴史と文化を旅する

～人々の息吹が静かに聞こえる湖北の旅～

実施日：平成18年9月17日(日)

見学先：渡岸寺観音堂、木之本街道、塩津浜集落、菅浦集落、菅浦資料館、在原集落

参加者：44名

なお、参加者が撮影した写真をパネルにし、「民家ツアー写真展」を11月1日(水)から11月25日(土)まで日本民家集落博物館で開催した。

- ・池上曾根史跡公園協会、弥生文化博物館との共同企画によるバスツアーと写真パネル展

タイトル：第6回史跡ツアー 阿波・讃岐の古代遺跡を訪ねて

実施日：平成18年7月20日(木)～21日(金)

見学先：香川県歴史博物館、石清尾山古墳群、讃岐国分寺跡、同資料館、香川県埋蔵文化財センター、徳島県埋蔵文化財センター、萩原2号墓・天河別古墳群、守護町勝瑞遺跡

参加者：32名

タイトル：第7回史跡ツアー 南九州 史跡と考古の旅

～上野原遺跡・西都原古墳群を訪ねて～

実施日：平成18年11月29日(水)～12月1日(金)

見学先：隼人塚史跡館、上野原縄文の森、牧ノ原古墳群、都城歴史資料館、持田古墳群、川南古墳群、祇園原古墳群(新田原古墳群)、西都原考古博物館、西都原古墳群、みやざき歴史文化館、蓮ヶ池横穴群、生目古墳群、宮崎県総合博物館、宮崎県埋蔵文化財センター、きよたけ歴史館

参加者：50名

(5) 文化財講座の実施

平成 18 年度は、大阪府立弥生文化博物館 ホールを会場として、下記のとおり実施した。

全体テーマ：『東アジアの古墳壁画の世界』

(聴講者延べ人数 975 人、平均 98 人)

回	月日・曜日	講座タイトル・講師	参加者数
1	6 月 25 日 (日)	『高松塚古墳・キトラ古墳の壁画と飛鳥の世界』 猪熊 兼勝 (京都橘大学文学部教授)	119 名
2	8 月 6 日 (日)	『キトラ古墳の発掘調査』 花谷 浩 (出雲市文化観光部文化財課学芸調整官)	108 名
3	8 月 27 日 (日)	『中国唐代壁画の世界』 百橋 明穂 (神戸大学文学部教授)	106 名
4	9 月 24 日 (日)	『高句麗の壁画古墳』 田中 俊明 (滋賀県立大学人間文化学部助教授)	111 名
5	10 月 29 日 (日)	『高松塚古墳・キトラ古墳の天文図は語る』 宮島 一彦 (同志社大学理工学研究所教授)	94 名
6	11 月 26 日 (日)	『中国漢代古墓壁画の世界』 町田 章 (独法 奈良文化財研究所所名誉研究員)	85 名
7	12 月 17 日 (日)	『壁画の製作技法と時代』 星山 晋也 (早稲田大学文学部教授)	91 名
8	1 月 28 日 (日)	『九州の装飾古墳』 柳沢 一男 (宮崎大学文化学部教授)	90 名
9	2 月 18 日 (日)	『終末期古墳の中の高松塚・キトラ古墳』 白石 太一郎 (大阪府立近つ飛鳥博物館長)	91 名
10	3 月 18 日 (日)	『上淀廃寺の仏教壁画とその周辺』 水野 正好 (大阪府文化財センター理事長)	80 名
合 計			975 名

本事業は、平成 18 年度文化庁埋蔵文化財保存活用整備事業国庫補助金によるものである。

(6) 郷土の文化財を見学する会の実施

平成 18 年度は下記の通り実施した。

(参加延べ人数 921 人 平均 92 人)

実施日	見学先と見学内容	講 師	参加者
4 月 30 日 (日)	第 1 回例会 (第 333 回) 北河内地域の文化財探訪 テーマ：豊中の古墳を歩く 麻田藩陣屋跡 御神山古墳 新免上佃古墳 大石塚 小石塚 原 田神社 大塚古墳 御獅子塚古墳 南天平塚古墳 中央公民館	山元 建	114 人

5月14日(日)	第2回例会(第334回) 山城地域の文化財探訪 テーマ：八幡市域の文化財をたずねて 五輪塔(航海記念塔) 神応寺 石清水八幡宮神苑 石翠亭石清水八幡宮 松花堂跡 安居橋 高良社 頓宮	竹中 友里代	78人
6月11日(日)	第3回例会(第335回) 大阪市域の文化財探訪 テーマ：大阪城 すみからすみまで 大手門 多聞櫓 六番櫓 桜門 金蔵 大阪城天守閣 刻印石広場 極楽橋 玉造口	北川 央	116人
7月9日(日)	第4回例会(第336回) 東大阪市域の文化財探訪 テーマ：瓢箪山から枚岡へ 古墳と神社を訪ねて 瓢箪山稲荷神社 瓢箪山古墳 東高野街道一里塚跡 東大阪市埋蔵文化財センター発掘ふれあい館 歯神さん 東大阪市立郷土博物館 山畑古墳群 水走氏墓塔 五条古墳 枚岡神社	福永 信雄 中西 克宏	95人
9月17日(日)	第5回例会(第337回) 南河内地域の文化財探訪 テーマ：王陵の谷を行く 鎌田邸の楠 孝明天皇陵 竹内街道歴史資料館 二子塚古墳 推古天皇陵 葉室古墳群 用明天皇陵 叡福寺 聖徳太子墓 太子和みの広場	池田 貴則	71人
10月8日(日)	第6回例会(第338回) 乙訓地域の文化財探訪 テーマ：向日丘陵の古墳と長岡京の故地を訪ねて 物集女城跡 丸塚山古墳 物集女車塚古墳 洛西竹林公園 寺戸大塚古墳 妙見山古墳跡 伝高島陵古墳 五塚原古墳 向日市文化資料館 元稲荷古墳 長岡京大極殿跡 小安殿跡 朝堂院跡	梅本 康広	111人
11月12日(日)	第7回例会(第339回) 斑鳩地域の文化財探訪 テーマ：晩秋の法隆寺を歩く 法隆寺 法輪寺 法起寺 史跡中宮寺跡 大黒屋旅館 旧北畠邸 法隆寺南大門	平田 政彦	86人
12月10日(日)	第8回例会(第340回) 伊勢松阪の文化財探訪[バスツアー] テーマ：松阪に生きた人々 古代から現代へ 松阪城跡 本居宣長記念館・鈴屋 御城番屋敷 松阪商人の館 小津安二郎青春館 松阪市文化財センター・はにわ館 宝塚古墳	吉田 悦之 千枝 大志 向井 政幸 松葉 和也 ほか	77人
1月21日(日)	第9回例会(第341回) 和泉地域の文化財探訪 テーマ：信仰と伝説の道 小栗街道を歩く 弥生文化博物館 池上曾根史跡公園 放光池1号公園 平松王子八坂神社 傘掛松 佐竹ガラス 信太王寺 ふるさと館 鏡池 貝吹山古墳 葛葉稲荷神社	灰掛 薫	92人
2月11日(日)	第10回例会(第342回) 北河内地域の文化財探訪 テーマ：寝屋川の古代文化の故地を訪ねて 寝屋川市立埋蔵文化財資料館 石宝殿古墳 明光寺 弘法井戸 道標 寝屋古墳 太秦高塚古墳 高宮廃寺跡 高宮神社 秋玄寺 高宮八丁遺跡	濱田 延充	81人

本事業は、平成18年度文化庁埋蔵文化財保存活用整備事業国庫補助金によるものである。

B. 文化財展示会事業

(1) 展示会の実施

① 小テーマ展示「シリーズ ここまでわかった考古学」の実施

本事業は、平成 18 年度文化庁埋蔵文化財保存活用整備事業国庫補助金によるものである。

A. 「池島・福万寺遺跡発掘調査 25 周年記念 弥生人現れる一大地は実り 人は祈るー」

会期：平成 19 年 2 月 10 日（土）～ 3 月 25 日（日）

会場：大阪府立弥生文化博物館 特別展示室

＊大阪府立弥生文化博物館と共催で実施

入館者総数：4,287 名

会期中の行事

〔考古学セミナー〕会場：大阪府立弥生文化博物館 1 階ホール

時間：午後 2 時～ 4 時

◆第 1 回 2 月 10 日（土）＊参加者数 210 名＊

米づくりが始まった頃の池島・福万寺遺跡

・「これまでの 25 年の調査成果」

廣瀬時習（（財）大阪府文化財センター 技師）

・「池島・福万寺遺跡 04－2 調査区の成果」

鬼頭 彰（（財）大阪府文化財センター 専門調査員）

・「河内平野と池島・福万寺遺跡」

水野正好（（財）大阪府文化財センター 理事長）

◆第 2 回 3 月 11 日（日）＊参加者数 320 名＊

ある日、縄文人は弥生人になったのか？

・「『縄文人 V.S. 弥生人』でいいのか？」

若林邦彦（同志社大学歴史資料館 専任講師）

・「考古学では『ある日、縄文人が弥生人になった』ように見える」

豆谷和之（田原本町教育委員会文化財保存課 主査）

・ミニシンポジウム

コーディネーター：金関 恕（大阪府立弥生文化博物館 館長）

B. 「出土木器が語る考古学ー弥生時代・古墳時代の諸様相ー」

会期：平成 19 年 3 月 3 日（土）～ 4 月 8 日（日）

会場：大阪府立近つ飛鳥博物館 特別展示室

＊大阪府立近つ飛鳥博物館と共催で実施

＊後援 近畿日本鉄道株式会社

入館者数：2,222 名【7,990 名】

※【 】内は無料スペースを含めた入館者数

会期中の行事

〔シンポジウム〕木器研究最前線！出土木器が語る考古学＊参加者数 180 名＊

会場：大阪府立近つ飛鳥博物館 地階ホール

日時：3月4日（日）午前11時～午後4時30分

特別講演

- ・「出土木器の見方」 上原真人（京都大学）

研究成果報告

- ・「農耕土木具の変遷」 山口譲治（福岡県教育委員会）
 - ・「首長の所有物～精製容器・威儀具・武具～」 樋上 昇
（（財）愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター）
 - ・「木工技術と木工具」 飯塚武司
（（財）東京都生涯学習文化財団東京都埋蔵文化財センター）
- ディスカッション「出土木器が語る社会の変遷」
コーディネーター 山田昌久（首都大学東京）
黒須亜希子（（財）大阪府文化財センター）

C.「禁野火薬庫の調査」

会期：平成19年3月8日（木）～3月21日（水・祝）

会場：日本集落博物館内 カルチャはっとり

＊日本集落博物館と共催で実施 入館者総数：1,752名

会期内行事

〔調査成果報告会〕会場：日本集落博物館内 カルチャはっとり

日時：3月10日（土）午後2時～4時

＊参加者数 50名＊

- ・「禁野火薬庫の調査成果」 駒井正明（（財）大阪府文化財センター技師）
- ・「近代建築・近代化遺産を取り巻く近年の状況について－研究と保存・各様の視点から－」
酒井一光（大阪歴史博物館 学芸員）

② スポット展示

4回実施した。本事業は、平成18年度文化庁埋蔵文化財保存活用整備事業国庫補助金によるものである。

1. 速報展示 四條畷市部屋北遺跡出土の資料

平成18年8月15日（火）～8月20日（日）大阪府立近つ飛鳥博物館 常設展示室内

入館者数：1,041人

2. 瓜生堂遺跡でみつかったおもしろいもの－土佐（高知県）の土器と円頭形木製品－

平成18年9月10日（日）～10月5日（木）大阪府立弥生文化博物館 特別展示室前廊下

入館者数：2,530人

3. 讃良郡条里遺跡で見つかった近畿最古の弥生土器

平成19年1月25日（木）～2月4日（日）大阪府立弥生文化博物館 特別展示室前廊下

入館者数：1,111人

4. 池内遺跡で見つかった近畿最古の水田と環濠集落

平成19年1月31日（水）～2月4日（日）大阪府立弥生文化博物館 特別展示室前廊下

入館者数：492 人

③日本民家集落博物館 企画展「むかしの道具（発掘民具）2 漁具」

平成 18 年 12 月 14 日（木）～ 23 日（土・祝）

平成 18 年 12 月 16 日（土）13:30 ～ 14:30

講演 福岡澄男（財）大阪府文化財センター理事

参加者 約 10 名

C. 文化財体験学習事業

7 校の体験学習を受け入れ、4 校の発掘現場等の見学を受け入れた。

（1）体験学習等の受け入れ

①東大阪市立池島中学校の現場見学と発掘体験

2006.5.15(月)、5.16(火) 場所：池島・福万寺遺跡参加人数：106 人(2 年生)

②大阪府立今宮高等学校の発掘体験

006.7.24(月)～7.28(金) 場所：池内遺跡 参加人数：4 人(2 年生)

③私立和光高等学校の発掘体験

2006.10.19(木) 場所：池島・福万寺遺跡 参加人数：24 人(2 年生)

④寝屋川市立第五中学校の職場体験学習

2006.9.12(火)～14(木) 場所：京阪調査事務所及び讃良郡条里遺跡
参加人数：4 人(2 年生)

⑤羽曳野市立峰塚中学校の労働体験学習

2006.11.1(水)～2(木) 場所：南部調査事務所古市分室
参加人数：4 人(2 年生)

⑥松原市立松原第七中学校の職場体験学習

2006.11.15(水) 場所：池内遺跡 参加人数：2 人(2 年生)

⑦大阪府立大手前高等学校の発掘体験

2006.12.8(金) 場所：池内遺跡 参加人数：14 人(1.2 年生)

（2）発掘現場等の見学の受け入れ

①寝屋川市立堀溝小学校の整理棟見学

2006.5.8(月) 場所：京阪調査事務所整理棟
参加人数：72 人(6 年生)

②地元小学校の現地公開の見学

2007.2.16(金) 場所：私部南遺跡
交野市立岩船小学校 参加人数：50 人(5 年生)
交野市立交野小学校 参加人数：281 人(5.6 年生)

③堺市立少林寺小学校の現地公開の見学

2007.2.21(水) 場所：堺環濠都市遺跡参加人数：70 人(1.2.3 年生)

D. 文化財資料収集事業

(1) 文献及び文化財情報の収集・整理

平成 18 年度に購入および受贈等によって収集した図書は下記のとおりである。

- | | |
|---------------------|-------------------|
| ① 購入図書 | 237 冊 |
| ② 研究機関、行政機関等からの寄贈図書 | 944 冊 (111,039 頁) |
| 計 | 1,181 冊 |
| 累計 | 66,100 冊 |
- 蔵書データベース、雑誌目次データベースの入力を行った。

(2) 文化財情報のデジタル化

近畿版出土遺物データベースの一環として、平成 17 年度当センター発行の報告書をもとに、遺物画像データベースを作成した。

総計 254 レコード。

E. 文化財資料提供事業

(1) インターネット及び報道機関を通じての、当センターの発掘調査やイベント、出版等に関する情報の提供

当センターが開催した諸行事に関する情報及び『O C C H』（センターニュースレター）、現地説明会資料、展示会のリーフレット・ブックレット等をホームページに掲載公開した。また、報道機関にも積極的に情報提供した。

(2) 資料の出品、写真資料、ビデオなどの貸出

① 資料の出品

博物館等からの依頼を受けて下記のとおり資料の出品を行った。

平成 18 年度常設展示貸出し資料一覧

総点数 276 件

文書番号	貸出先	貸出展示等名称	貸出期間	資料名	点数
J06-01	大阪府立弥生文化博物館（移動記録）	弥生文化博物館 常設展示	H18.4.1～H19.3.31	新家：1，瓜生堂：2，巨摩：6，山賀：6，亀井北：1，亀井：26，田山：47，西大路：5，脇浜：12，貝掛：9	実物 115
J06-02	大阪府立近つ飛鳥博物館（移動記録）	近つ飛鳥博物館 常設展示	H18.4.1～H19.3.31	久宝寺：6，美園：6，小阪：40，日置荘：2	実物 54
J06-03	大阪府教育委員会 文化財保護課	泉北考古資料館 常設展示	H18.4.1～H19.3.31	伏尾：家形埴輪 1，野々井西：弥生土器 4/ 石器 11/ 全景写真 1，陶器関連パネル 4	実物 16 写真 5
J06-04	和泉市教育委員会	和泉市いずみの国歴史館 常設展示	H18.4.1～H19.3.31	福瀬：墨書皿（寺）1/ 木製弓 2/ 下駄 2/ 鉋台 1/ 桶底板 1/ 椀 1/ 雁股式有茎鉢 1/ 小刀 1，仏並：縄文土器（鉢）1/ 縄文土器（深鉢）1/ 土面レプリカ 1/ パネル 2，池田寺：縄文土器（深鉢）1/ 文字瓦（池田・堂）2	実物 16 パネル 2
J06-05	諏訪市教育委員会 諏訪市博物館	諏訪市博物館 常設展示	H18.4.1～H19.3.31	亀井：弥生式土器 1	実物 1
J06-06	泉佐野市立 歴史館いずみさの	歴史館いずみさの 常設展示	H18.4.1～H19.3.31	上町東：白磁碗 2，上町：羽釜 4/ 土師器 7，日置荘：鉄瓶 1	実物 14
				上町：206-00 とアップ 2，若宮：H1 調査区 1 面全景 / H2 調査区 1 面全景	写真 4
J06-07	大阪府立狭山池博物館	狭山池博物館 常設展示	H18.4.1～H19.3.31	城山：韓式土器 5，日置荘：青磁碗 1	実物 6
J06-08	吹田市立博物館	吹田市立博物館 常設展示	H18.4.1～H19.3.31	吹田操車場：須恵器大型甕 1	実物 1
J06-09	堺市博物館	堺市立みはら歴史博物館 常設展示	H18.4.1～H19.3.31	真福寺：梵鐘鑄造遺構切り取り 1	実物 1
J06-10	堺市博物館	堺市立みはら歴史博物館 常設展示	H18.4.1～H19.3.31	真福寺：梵鐘鑄型等 8/ 鑄型（外型）用途不明 1/ 鑄型（外型）磬 1/ 瓦器椀 2/ 束播系こね鉢 1/ 土師器羽釜 1/ 鑄型（外型）鍋 2/ 轆羽口 2/ 円面硯 1，余部：磬鑄型 2/ 釜鑄型 1，太井：轆羽口 2/ 統一新羅印花文陶器 1/ 延喜通寶 3/ 埴塼 4/ 轆羽口 2/ 須恵器高杯 1/ 丸靱 1，さば山古墳：円筒埴輪 2/ 朝顔形埴輪 2，丹上：巡方 1	実物 41

平成 18 年度貸出し資料一覧

総点数 1102 件

番号	貸出先	展示等名称	期間	資料名	点数
M06-01	大阪府立近つ飛鳥博物館	平成 18 年度春季特別展示「古代の工房～豊かなる都・寺のきらめき～」	H18.4.13 ～ H18.7.14	難波宮跡：海獣葡萄鏡 1/ 漆壺 20, 小阪合：和同開珎 30, 太井：鞆羽口 6/ ルツボ 10, 船橋：ガラス鑄型他 1 式 / 鉈尾品未製品 1	68
M06-02	大阪府立弥生文化博物館	平成 18 年度春季特別展「弥生画帖 - 弥生人が描いた世界 -」	H18.4.18 ～ H18.7.12	亀井：絵画土器 1/ 記号文土器 21/ ト骨イノシシ右肩甲骨 2/ ト骨ニホンジカ右肩甲骨 1/ イノシシ下顎骨 4/ イノシシ頭蓋骨 1/ ネズミ骨格 1/ クジラ脊椎骨 1/ 銅鐸形土製品 1/ 壺 1/ 広口壺 1, 瓜生堂：絵画土器 1/ 銅鐸形土製品 1/ 鳥形木製品 1, 巨摩：スタンプ文土器 1/ 四脚台付木製品 1, 田井中：長頸壺（記号文）1, 東奈良：絵画土器（鹿）1, 溝咋：線刻土器 6/ 人面 1, 男里：絵画土器 4, 八尾南：壺（竜の絵画土器）4	57
			H18.4.18 ～ H18.7.12	亀井：邪視文土器 / 絵画土器 2/ 記号文破片 1/ 加 2/ 文銅形土製品 / 鳥形木製品 / ト骨イノシシ右肩甲骨 / 銅鐸形土製品 / 壺（渦文）, 瓜生堂：絵画土器 / 銅戈 / 銅鐸形土製品 / 鳥形木製品, 巨摩：スタンプ文土器 / 四脚台付木製品, 山賀：鳥形木製品, 田井中：長頸壺（記号文）1/ 加, 溝咋：線刻土器 / 人面, 東奈良：絵画土器（鹿）, 男里：絵画土器, 八尾南：壺（竜の絵画土器）	26
M06-03	日本民家集落博物館	「カルチュアはっとり」企画展示「日本の暮らし - 春の歳時記 -」	H18.5.10 ～ H18.6.25	足跡剥ぎ取り資料（IFJ98-1 調査区第 14-2 面）/ 足跡石膏型（大人・子ども・鹿さん）	4
				池島：弥生時代水田の検出状況遠景 / 足跡パネル（人・牛・耕作痕跡など）	7
M06-04	高石市教育委員会	第 1 回郷土史展「大園・伽羅橋遺跡出土の仏教遺物」	H18.5 月 ～ H18.6.30	伽羅橋：井戸 130 出土瓦質甕 1/ 井戸 130 出土瓦質甕羽釜 2/ 土坑 7 出土石製硯 1/ 包含層出土青磁碗 1/ 溝 13 出土千体仏 1/ 土坑 15 出土土師小皿 36/ 軒丸瓦 13	55
M06-05	泉佐野市歴史館いずみさの	「新修 泉佐野市史 発刊記念陳列 I 泉佐野の考古学」	H18.5.25 ～ H18.8.10	安松：墨書土器 1, 湊：弥生土器 8, 上町東：瓦器 6/ 土師器 1	16
				湊：溝 A-13 全景 / 溝 A-13 土器群, 上町東：最終遺構面東半部 / 最終遺構面中央部	4
M06-06	大阪府立近つ飛鳥博物館	平成 18 年度夏季企画展「夏休み親子で学ぶむかしの台所いまの台所」	H18.7.11 ～ H18.9.15	三田古墳：鈴付高坏 1/ 刀子 1, 三宅西：深鉢 3, 向出：深鉢 2, 大和川今池：すり鉢 1/ 土師台付皿 1/ 土師器皿 1/ 瓦器碗 5/ 瓦器皿 1, 池島：木製高坏 2, 瓜生堂：匙状木器 1, 大坂城：包丁 2/ しゃもじ 1/ へら 2/ 箸 1/ 竈 1/ 土師質羽釜 1/ 焙烙 1/ すり鉢 1/ 炉 1/ 茶碗 3/ ミニチュア 5/ 貝製お玉 1/ 塩壺 2/ 味の素 1, 亀井：甕 2/ 高坏 1/ 台付き鉢 1/ スクレーパー 1/ 短剣 1/ 刀子 1/ 炭火米, 亀井北：土師器甕 1/ 土師器甕 1/ 竈 1, 小阪：須恵器一括, 小阪合：土師器甕 1/ 瓦質甕 1/ 土師質甕 1/ 須恵器高坏 2, 志紀：石小刀 1 式, 玉櫛：三足鍋 1/ 箸 1, 池内：黒色碗 2/ 土師碗 1/ 土師皿 2, 伽羅橋：土師質羽釜 1, 下田：弥生甕 2/ 土師器甕 2/ 土師器高坏 1/ 土師器鉢 2/ まな板 1, 畠中：土師器甕 1/ 土師器甕 1/ 竈 1/ 造りつけ竈（パネル）, 平井：瓦質羽釜 1, 仏並：スクレーパー 2, 船橋：土師器高坏 2/ 土師器碗 2/ 土師器甕 1/ 須恵器蓋 1/ 須恵器杯 1, 西岩田：匙状木器 1/ 漆器碗 1, 溝咋：土師器甕 1/ 竈 1, 美園：把手付碗 1, 山賀：甕（甕）1, 若江北：水差し 1, 池島：甕 1/ 高坏 1, 弓削の庄：深鉢 2/ 水差し 1, 讃良郡：縄文深鉢, 八尾南：竪穴と炉（パネル）	104
M06-07	枚方市	「枚方市平和の日」	H18.7.14 ～ H18.9.8	禁野本町：禁野火薬庫出土煉瓦 17/ コンクリート構造物 2/ 枕木 3/ 砲弾 9/ 砲弾関連品 14/ 弾帯 6/ 薬筒 8/ ボルト類 5/ 建具類 14/ 錠 7/ レール関連品 10	95
M06-08	大阪歴史博物館	平成 18 年度特別展「煉瓦のまち タイルのまち - 近代建築と都市の風景 -」	H18.9.1 ～ H18.12.20	禁野本町：煉瓦 8, 大阪城：煉瓦 6	14
M06-09	吹田市教育委員会	夏休み特別展示「吹田の景観を掘りおこす」	H18.7.31 ～ H18.9.13	片山荒池：瓦器碗 8/ 須恵器杯蓋 2/ 須恵器杯身 1/ 須恵器高杯 2/ 須恵器有蓋高杯 1/ 須恵器短頸壺 1/ 埴輪 10	25
				片山荒池：1 区全景 / 2 区全景 / 196 土坑 / 300 土坑 / 3 区全景	5

番号	貸出先	展示等名称	期間	資料名	点数
M06-10	大阪府立狭山池博物館	平成 18 年度特別展「水にうつる願い」	H18.7.28 ~ H18.12.8	大庭寺: 墨書土師器杯 2/ 木槌 1/ 須恵器壺 1/ 須恵器短頸壺 1, 讃良郡条里: 人面墨書土器 5/ 人形 3/ 絵馬 2	15
M06-11	森美術館	「日本美術が笑う」展	H19.1 月 ~ H15.5.31	仏並: 土面 1	1
M06-12	東大阪市教育委員会	平成 18 年度特別展示「見えてきた弥生ムラ - 鬼虎川遺跡の再検討 -」	H18.10.10 ~ H18.12.20	瓜生堂: 銅鐸形土製品 1/ 銅戈鋳型 1/ 甕 (土器棺) 1/ 高坏 (土器棺) 1	4
			H18.8.1 ~ H18.10.21	瓜生堂: 銅鐸形土製品 1/ 99 区弥生時代前期住居跡 SO4300(西から) 1	2
M06-13	日本民家集落博物館 (移動)	「カルチュアはっとり」企画展示「日本の暮らし - 秋の歳時記 -」	H18.8.30 ~ H18.9 月	亀井: 石包丁 2, 巨摩・瓜生堂: 木包丁 2, 西岩田: 木鎌 1/ 竪杵 1, 田井中: 石鎌 1, 志紀: 木槌 1, 小阪: 臼 1/ ミニチュア竈・鍋 1, 池島・福万寺: 炭火米 1 括, 日置荘: 竈・甕 1	13
				池島・福万寺: IFJ90-1 弥生時代後期の流路と堰 / 90-1t 調査区木製導水管 / 弥生時代中期初頭 / 稲株痕立杭 / 5 枚重ねて出土した石包丁, 巨摩: 石包丁, 畠中: 図版 182-OZ(北から) / 図版 182-OZ 稲株痕 (東から), 『原始古代のコメ作り』表紙, 現代「収穫」撮影福田和浩, プラントオパール, 銅鐸 (脱穀), 弥生「収穫」(イラスト), 石包丁の作り方 (イラスト)	16
M06-14	和泉市久保惣記念美術館	平成 18 年度特別展「和泉を彩る文化財 - 和泉の文化財と東洋美術の名品 -」	H18.9.22 ~ H18.12.8	仏並: 深鉢 1/ 土製仮面 1, 池田寺: 深鉢 1	3
M06-15	大阪府立弥生文化博物館 (移動)	平成 18 年度常設展示弥生プラザの展示替え	H18.8.31 ~ H19 年	男里: 弥生土器高杯 1/ 弥生土器壺 3/ 弥生土器甕 1/ 弥生土器水差形土器 1/ 石鎌 8/ 石錘 8/ 石剣 1/ 石匙 1/ 石包丁 3/ 柱状片刃石斧 1/ 太型蛤刃石斧 1	29
M06-16	国立歴史民俗博物館	平成 18 年度企画展示「歴史の中の鉄砲伝来 - 種子島から戊辰戦争まで -」	H18.9.11 ~ H18.12.8	大坂城跡: 鉄砲玉 (鉄製・青銅製・鉛製) 13	13
M06-17	滋賀県立安土城考古博物館	平成 18 年度秋季特別展「信長の城・秀吉の城 - 織豊系城郭の成立と展開 -」	H18.9.20 ~ H18.12.6	大坂城跡: 金箔押軒丸瓦 12/ 金箔押鬼瓦 2/ 金箔押獸脚瓦 2/ 金箔押軒平瓦 7/ 金箔押飾瓦 6/ 金箔押花挟間瓦 1/ 金箔押鯉瓦 1	31
				大坂城跡: 金箔押軒丸瓦 3/ 金箔押鬼瓦 / 金箔押獸脚瓦 / 金箔押軒平瓦 / 金箔押飾瓦 5/ 金箔押瓦 / 金箔瓦密集写真 / 金箔押桐紋飾瓦	10
M04-18	財団法人 元興寺文化財研究所	特別展「ヤマ・サト・マチの民間信仰～具現化された民衆の心～」	H18.8.31 ~ H18.11.17	大坂城跡: 犬形土製品 12	12
				大坂城跡: 犬形土製品集合写真	1
M06-19	高槻市教育委員会	秋季特別展「三島古墳群の成立～初期ヤマト政権と淀川～」	H18 年 ~ H18.12.1	溝咋: 搬入礫 2/A 区 7 層 7 面出土土器 1/ 2A-2 区 6 面溝出土土器 1	4
				溝咋: 搬入礫集合写真	1
M06-20	大阪府立狭山池博物館	平成 18 年度特別展「水にうつる願い」	H18.9.20 ~ H18.12.8	巨摩: 土師器甕 6, 小阪合: 和同開珎 30, 池島・福万寺: 土師器羽釜 1/ 土師器杯 5/ 土師器甕 1/ 須恵器杯蓋 1/ 須恵器杯 2/ 土師器鍋 1/ 土師器把手付碗 1	48
M06-21	大阪府立弥生文化博物館 (移動)	スポット展示「瓜生堂遺跡でみつかったおもしろいもの - 土佐の土器と円頭形木製品 -」	H18.9.6 ~ H18.10.11	瓜生堂: 土佐産土器 2/ 円頭形木製品 1	3
M06-22	泉南市教育委員会	「市民を対象にした参加体験型学習の観察資料」	H18.11 月 中旬 ~ H18.11 月下旬	三田古墳: 第 1 主体出土剣 1	1
M06-23	歴史館いずみさの	平成 18 年度特別展「東へ西へ - 泉州茅渚の海めぐみと往来 -」	H18.10.6 ~ H18.12.22	下田: 製塩土器 1, 男里: 製塩土器 1, 湊: 製塩土器 2, 亀川: 製塩土器 1, 小島北磯: 製塩土器 2	7
			H18.9.27 ~ H18.10.20	小島北磯: 小島北磯遺跡近景 / 5 トレンチ第 3 面石敷炉 39, 脇浜: 製塩土器, 湊: 製塩土器, 田山: 製塩土器	5
M06-24	発掘された日本列島展実行委員会	「発掘された日本列島 2006- 新発見考古速報展 -」	H18.11.16 ~ H19.3.10	山賀: 垂飾形木製品 1/ 弥生土器・壺 2/ 鉢 1/ 高坏 1/ 垂飾形木製品実物レプリカ 1/ 垂飾形カットモデル 2	8
				山賀: 6 × 7 か- 1/ 6 × 9 か- 2/ 6 × 9 × 1/2 か- 1/ 4 × 5 か- 5	9
M06-25	中部調査事務所	山賀遺跡報告書作成	H18.11.1 ~ H18.12.8	粟生間谷: サヌカイト剥片 2, 中之社: サヌカイト剥片 6, 向出: サヌカイト剥片 2	10

番号	貸出先	展示等名称	期間	資料名	点数
M06-26	財団法人 向日市埋蔵文化財センター	市民考古学講座展 (06-7-8)「淀川流域の東海系埴輪」	H18.11.17 ~ H19.1.30	福井: 円筒埴輪 10	10
M06-27	大阪府立近つ飛鳥博物館 (移動)	発掘された日本列島 2006 地域展	H18.11.8 ~ H19.2.23	大庭寺: 須恵器高杯 2/ 須恵器樽形 1/ 須恵器大甕 2/ 須恵器蓋 2/ 須恵器ハソウ 2/ 須恵器器台 1/ 須恵器船 1/ 須恵器脚台付き鉢 1/ 韓式系土器 1/ 紡錘車 1/ 土製勾玉 1/ 当て具 1, 伏尾: 土師器長胴甕 1/ 土師器甕 1/ 土師器かまど 1/ 土師器筒状土製品 1, 小阪合: 韓式系土器有蓋高杯 1/ 韓式系土器長胴甕 1/ 須恵器無蓋高杯 2/ 須恵器把手付椀 1/ 須恵器ハソウ 1/ 須恵器小壺 1/ 須恵器甕 1/ 須恵器蓋 1/ 須恵器杯 2/ 土師器 U 字形土製品 2/ 須恵器壺 1, 大和川今池: 須恵器筒形器台 1/ 須恵器有蓋高杯 1/ 須恵器壺 1/ 須恵器樽形ハソウ 1/ 土師器甕 2, 讃良郡条里: 須恵器鳥形ハソウ 1/ 須恵器壺 3/ 須恵器高杯 1/ 鉄鍬 4/ 釣針 1/ 石製品紡錘車 5/ 石製品玉類一括 / 土師質土馬 1/ 木製品鞍 (後輪) 1/ 木製品柄頭 1/ 木製品背負子 2/ 木製品斧柄 1/ 木製品儀杖 ? 1/ 木製品ナスビ形鍬 1/ 石製品子持ち勾玉 1/ 勾玉 2/ 石製品不明品 1/ 石製品原石 1/ 石製品砥石 2/ 土師質剣形土製品 1/ U 字形土製品 2/ 須恵器把手付椀 1/ 土師器三口かまど 1/ 土師器平底鉢 1/ 木製品輪鏝 1/ 木製品刀剣鞘 2/ 木製品弓 1/ 木製品斧柄 1/ 木製品団扇柄 ? 1, 茄子作: 須恵器器台片 1/ 須恵器鉢 1/ 須恵器溶着石 1/ 須恵器甕口縁部 2, 上の山: 土師器椀 1/ 須恵器杯 1/ 窯壁片 1	93
				大庭寺: 出土船形土器 / 灰原 / 出土土器 / 小開折谷 393-OL 全景 / 大開折谷 393-OL 第 VI 層遺物出土状況 / 大甕, 伏尾: 第 1 区全景 / 第 2 区古墳時代竪穴住居 / 甕形土器と長胴甕・甕 / 甕形土器と長胴甕・甕使用想定図, 大和川今池: 井戸出土須恵器 / 遺跡周辺航空写真, 讃良郡: 大溝 / 馬骨出土状況 / 3 区古墳時代 / 遺跡全景空中写真, 小阪合: 韓式系土器 / 初期須恵器 (全てカ-)	20
M06-28	日本民家集落博物館 (移動)	企画展示「むかしの道具 (発掘民具) 2. 漁具」	H18.12.5 ~ H18.12.26	久宝寺: 準構造船模型 1, 亀井: 蛸壺形土器 2/ 骨製ヤス 10/ 釣針 2/ 釜 1/ オキシジミ 1/ ウミナ 1/ タイの骨 1, 城山: 蛸壺形土器 1, 山賀: 釜復元 1/ ハイガイ 1/ 石鍾・砂岩 1/ 土鍾 10/ ヤス 5, 新家: セタシジミ 1/ ヤマトシジミ 2/ 浮子 1/ 石鍾・砂岩 1, 西岩田: 舵状木製品 1/ 浮子状 1/ たも枠 1/ 櫓 1, 美園: 石鍾・砂岩 1, 瓜生堂: 石鍾・砥石 2/ アカカキ 1, 讃良郡: 釣針 1, 大庭寺: 船形土製品 1	98 + 1 括
				久宝寺: 準構造船の出土状況 / 河内平野の形成 (縄文時代中期ごろ) / 河内平野の形成 (弥生時代中期ごろ) / 河内平野の形成 (古墳時代中～後期ごろ), 山賀: 釜 (全てカ-)	6
M06-29	近つ飛鳥博物館 (移動)	シリーズここまでわかった考古学「出土木器が語る考古学 - 弥生時代・古墳時代の諸様相 -」	H 15.2.20 ~ H19.4 月中旬	瓜生堂: 直柄鍬身 2/ 鳥形 1/ 把手付鉢 1/ 石剣鞘 1/ 柄状 1/ 机の脚部 2, 亀井: 直柄鍬身・柄 1/ 飾り弓 1/ 楯 1/ 注口付盤 1, 西岩田: 曲柄鍬身 1/ 蓋の柄 1/ 舟形 1, 新家: 一木鋤 1/ 槽 1/ 方形槽 1, 溝咋: 一木鋤 1/ 鞘 1/ 筑状弦楽器 1/ 箱 1/ 槽 1/ 刃子柄 1/ 柄 1/ 杵軸 1/ 椅子脚 1/ 机 1, 山賀: 飾り弓 1/ 鳥形 1/ 合子身 1/ 合子蓋 1/ 直柄斧柄 1, 久宝寺: 鞘 1/ 井戸転用刳物桶 1/ 槽 1/ 椅子 1, 讃良郡条里: 刀の把頭 1/ 鞍 1/ 雇柄斧 1/ 儀杖状木製品 1, 巨摩: 竪櫛 1/ 椅子形埴輪 1, 若江北: かんざし 1/ 曲柄斧柄 1, 池島福万寺: 高杯 2, 新上小阪: 組み合わせ式布巻具 (凸型) 1/ 糸枠支木 1, 下田: 曲柄鍬身 1/ 竪杵 1/ 短甲 1/ 剣の柄 1/ 刀の把頭 1/ 素環頭把装具 1/ 刀形 1/ 琴板 1/ 四方転びの箱 1/ 組物箱 1/ 鉋柄 1/ 腰掛座板 1	66
M06-30	民家集落博物館 (移動)	「カルチュアはっとり」特別展示「昔の暮らし」	H19.1.12 ~ H19.3 月	大坂城址: 茶碗 3/ 犬形土製品 3/ 円盤状土製品 5/ 茶壺 1/ 徳利 1/ 十能 1/ 焼塩壺蓋 2/ 焼塩壺 2/ 水注 1/ ミニチュア土製品 26/ 泥面子 13/ 土製絵銭 2/ 土人形 9/ 箱庭道具 2/ 面模 2/ 鳩笛 1	74

番号	貸出先	展示等名称	期間	資料名	点数
M06-31 M06-32	池島支所(移動) 民家集落博物館	小テーマ展示「弥生人現れる」 小テーマ展示 シリーズここまでわかった考古学「禁野火薬庫の調査」	H19.3月上旬 ～ H19年3月下旬	若江北:壺 6/ 甕 3/ 鉢 3、久宝寺:土偶 4 禁野本町:軒棧瓦 3/ 軒丸瓦 1/ 熨斗瓦 3/ 棧瓦 1/ 煉瓦 6/ 煉瓦構造物 1/ 枕木 1/ 九二式十五糎榴弾 1/ 三八式十二糎榴弾砲破甲榴弾 1/ 八八式瞬発信管 1/ 隔板 1/ 弾帯 4/ 爆管スパナ 1/ 弾底栓(薬莖)3/ ワッシャ 2/ ボルト 1/ ナット 1/ 補助金具 1/ 樋受け 1/ 木ネジ 4/ 鋸 3/ 手違い 3/ 通気孔棒 1/ レール 2/ 継ぎ目板 1/ 犬形犬釘 1/ 弾頭螺塞 1/ 空測パネル 1	17 53
M06-33	池島支所・弥生文化博物館	小テーマ展示会ここまでわかった考古学「弥生人現れる-大地は実り 人は祈る-」	H19.2.6 ～ H19.3.29	若江北:弥生土器壺 6/ 弥生土器甕 3/ 弥生土器鉢 1、久宝寺:土偶 4	16
M06-34	安土城考古博物館	春季特別展「縄文から弥生へ-農耕社会の形成と実年代-」	H19.4.3 ～ H15.6.29	若江北:縄文～弥生土器 9/ 弥生土器甕 2、讃良郡条里:縄文土器の影響を受けた弥生土器甕 1/ 弥生土器壺 1/ 弥生土器甕 1/ 浮線網状文土器 1 突帯文土器深鉢 1 若江北:溝 25 出土土器集合写真、讃良郡条里:弥生土器甕・壺 / 浮線網状文土器が	16 3
M06-35	大阪府立近つ飛鳥博物館 (移動)	模型資料制作事業	H19.3.15 ～ H19.4.30	馬頭蓋骨 1/ 馬下顎骨 1	2
				合計	1102

②写真資料の貸出

出版社等からの依頼を受けて下記のとおり貸出掲載した。

平成 18 年度写真貸出し・掲載許可申請

総点数 131 件

番号	貸出先	申請 年月日	使用目的	資料名	内訳	点数
P06-01	奈良文化財研究所	H18.5.9	東京大学出版会「評制下荷札木簡集成」	佐堂:木簡「種田五十戸」表裏 2、難波宮:1 号木簡「泰人凡国評」表裏 2/4 号木簡「委尔ア栗□□」表裏 2/8 号木簡「嶋意弥荷□□八」表裏 2/9 号木簡「王母前……」表裏 2	モノクロ×10	10
P06-02	枚方市立中央図書館	H18.6.19	『楽しく学ぶ枚方の歴史』	上の山:弥生時代中期前半の独立棟持柱をもつ大型掘立柱建物 / 独立棟持柱をもつ大型掘立柱建物平面図 / 独立棟持柱をもつ大型掘立柱建物の復元イメージ図	図×3	3
P06-03	堺市立福泉中央小学校	H18.6.21	「堺市立福泉中央小学校 50 周年記念誌」	大庭寺:須恵質船形土器 / 川から出土した初期須恵器 / 須恵器窯推定模式図 / 窯跡で行われた現地説明会	カラー×4	4
P06-04	柏原市立歴史資料館	H18.6.28	秋季企画展示「川をつくる」展示パネル・リーフレット	八尾南:大和川堤防断面	カラー×1	1
P06-05	大阪市史編纂所	H18.6.29	『まんが大阪市の歴史(仮称)』	城山:17 号方形周溝墓南西・北西周溝供献土器 / 方形周溝墓同区全体図	モノクロ×2	2
P06-06	千葉県史料研究財団	H18.6.28	『千葉県の歴史 通史編 原始・古代 1』	万崎池:土壙墓群検出状況、大庭寺:須恵器 4	モノクロ×5	5
P06-07	新人物往来社	H18.7.3	『中世都市研究 12 号 中世のなかの「京都」』	有池:居住域の検出状況	モノクロ×1	1
P06-08	富田林市教育委員会	H18.7.20	「大阪府の動向」『中世史・考古学情報 2005』	有池:居住域の検出状況	モノクロ×1	1
P06-09	大阪歴史博物館	H18.7.23	特別展「煉瓦のまち タイルのまち」	禁野本町:1 号乾燥火薬庫煉瓦構造物の南端 / 2 号乾燥火薬庫煉瓦構造物裏側 / 近代遺物 (351)	カラー×2 モノクロ×1	3
P06-10	森美術館	H18.6.23	「日本美術が笑う展」	仏並:土面	カラー×1	1
P06-11	人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館	H18.7.11	企画展示「歴史のなかの鉄砲伝来-種子島から戊辰戦争まで-」図録・パネル展示	木簡(六匁三百十)/(六匁三百九十八)/玉がめり込んだ板	モノクロ×2 カラー×1	3
P06-12	大阪市史編纂所	H18.8.19	『新修大阪市史 史料編』第五巻 大坂城編	大坂城跡:掘り出された堀(堀 83:南から)/堀の底は凸凹(堀 83:南から)	カラー×2	2

番号	貸出先	申請 年月日	使用目的	資料名	内訳	点数
P06-13	横山地域を写真に記録する会	H18.9.67	和泉市市制施行 50 周年記念事業ふるさと「横山地域歴史写真展」	仏並：土面	ハ・秘×1	1
P06-14	高野町教育委員会	H18.9.8	高野山学「世界遺産高野山の考古学」	池島福万寺：板塔婆出土状況 / 板塔婆	カテ×2	2
P06-15	大阪府立狭山池博物館	H18.9.6	特別展「水にうつる願い」図録等	讃良郡条里：絵馬出土状況、池島福万寺：表層条里地割と一致する最古の水田	カラー×1 デジタル×1	2
P06-16	大阪府立弥生分化博物館（移動）	H18.9.8	平成 18 年度秋季特別展図録	池上曾根：復元建物	カテ×2	2
P06-17	岡山市デジタルミュージアム	H18.9.26	「戦さと城 池田家文庫絵図展」写真・パネル等	大坂城跡：調査地全景（南から）/ 堀 83 南半部（西から）/ 堀 83 土層断面（北東から）/ 堀 83 出土の瓦	カテ×4	4
P06-18	加納克己	H18.9.20	『日本操り人形史 - 形態変遷・線法技術史 -』（仮題）	難波宮跡：可動式人形（可動式木偶駆体）	モノカ×1	1
P06-19	日本セラミックス協会	H18.10.4	ホームページ上にて「やきもの」の歴史紹介	大庭寺：樽型はそう	カテ×1	1
P06-20	会津若松市	H18.10.3	会津若松市史歴史編「原始・古代 1」	山賀：木葉紋土器	カテ×1	1
P06-21	大阪歴史博物館（移動）	H18.8	シンポジウム「古墳時代に生きた渡来人の軌跡 - 長原遺跡・葺屋北遺跡・上私部遺跡を中心に -」パネル	上私部：1 区東全景東から	カテ×1	1
P06-22	奈良大学大学院生	-	奈良大学大学院修士論文	『太秦古墳群』第 38 図 1/9/11, 『寝屋川太秦遺跡・太秦古墳群』第 17 図 3	図×4	4
P06-23	株式会社東京堂出版	H18.10.20	『歴史考古学を知る事典』	平井：瓦器窯, 日置荘：1B トレンチ西半部	モノカ×2	2
P06-24	木簡学会	H18.10.31	『木簡研究』28 号	難波宮跡：9 号木簡「王母前・・・」	図×1	1
P06-25	建設技術展近畿実行委員会	H18.11.1	「建設技術展 2006 近畿」テーマゾーン」展示パネル	池島福万寺：空からみた池島福万寺遺跡, 八尾南：竪穴建物全景	カテ×2	2
P06-26	国立民族学博物館総合研究大学院大学	H18.11.2	「第 7 回関西縄文文化研究会」ポスター発表	三宅西：縄文土器研究用試料	カテ×10	10
P06-27	大阪府教育委員会	H18.11.15	文化財あれこれブックレット No.2 『修羅 国重要文化財指定記念古墳・寺・城』（仮称）	瓜生堂：須恵器甕（線刻土器・修羅引く馬）, ミノバ石切場跡：全景（東から）, 楠木石切場跡：Ⅲ区採石ユニットⅠ全景（南から）	カテ×3	3
P06-28	有限責任中間法人日本考古学協会	H18.12.7	『日本考古学年報』58 号口絵写真	山賀：「垂飾」形木製品出土状況 / 「垂飾」形木製品	カテ×2	2
P06-29	株式会社 吉川弘文堂	H18.12.11	『歴史考古学辞典』	難波宮跡：北西部出土絵馬 2/3	モノカ×2	2
P06-30	株式会社 雄山閣	H18.12.20	『季刊考古学』98 号（特集・社会の考古学）	難波宮跡：1 号木簡（泰人凡國評）/ 11 号木簡（戊申年・・・）	モノカ×2	2
P06-31	森アーツセンターミュージアム ショップ	H18.12.20	「日本美術が笑う展」展覧会ポストカード	仏並：土面	カテ×1	1
P06-32	鳥取県埋蔵文化財センター	H18.12.19	『鳥取県の考古学 第 3 巻 弥生時代Ⅱ 戦いと交流・墓とまつり』	久宝寺：準構造船出土状況	カテ×1	1
P06-33	大手前大学考古学研究所	H19.1.6	「古墳時代鉄剣の外装とその変遷」『考古学雑誌』第 90 号第 4 号	下田：鉄把	図×1	1
P06-34	豊中市史編纂所	H18.12.27	『新修 豊中市史 第 1 巻 通史一』	弓削ノ庄：突帯文土器 / 初穀圧痕土器, 八尾南：竪穴住居全景, 池内：水田	モノカ×3 デジタル×1	4
P06-35	株式会社 新人物往来社	H19.1.10	別冊歴史読本『信長・秀吉・家康の城』（仮題）	大坂城跡：堀 83 全景 / 金箔巴文軒丸瓦 / 金箔唐草文軒平瓦	カテ×3	3
P06-36	堺市教育委員会	H19.1.12	河内鋳物師講演会「河内鋳物師の活躍を求めて」チラシ・パンフレット	真福寺：Ⅳ調査区Ⅳ-2 土坑 / 出土鋳型	カテ×2	2

番号	貸出先	申請 年月日	使用目的	資料名	内訳	点数
P06-37	堺市教育委員会	H19.1.19	河内鋳物師講演会「河内鋳物師の活躍を求めて」チラシ・パンフレット	余部・羽口・金属滓 / 多量に出土した鋳型、真福寺：鋳造物用の溶解炉、太井：鋳造工房群 / 鋳造工房出土坩堝 (トバ) / IV調査区白炭窯 / IV調査区鋳造関連土坑群 / IV調査区出土鋳型、日置荘：磬の鋳型 / 空からみた城郭 / 鉄を溶かす炉あと、	カラー× 11	11
P06-38	市原市教育委員会	H19.1.18	埋蔵文化財普及用冊子『発掘いちはらの歴史』創刊号・「特集環濠集落」	山賀：赤彩文壺、池上曾根：柄付石斧	カラー× 2	2
P06-39	日本放送出版協会	H19.1.30	『遺跡ウォッチング 古代ロマンを訪ねて』	亀井：貨泉	カラー× 1	1
P06-40	南部調査事務所 西川寿勝	H19.1.31	西川寿勝「中世のすり鉢から食文化を考える」『しんぶん赤旗』文化欄コラム	大和川今池 (その2)：井戸 128 出土土器集合	モノクロ× 1	1
P06-41	岡山大学埋蔵文化財センター	-	「縄文時代から弥生時代開始期における調理方法」『土器研究の新視点』	下田：土器片	カラー× 1	1
P06-42	独立行政法人 国立科学博物館	H19.1.31	国立科学博物館日本館展示「日本人と自然」コーナー展示映像	池島福万寺：近世の水田跡	カラー× 1	1
P06-43	有限会社 アムール	H19.2.21	国立科学博物館本館 DVD「人と自然のいとなみ - 稲作に見る科学技術の発展」	池島福万寺：撮影の DV 映像	映像	1
P06-44	国土交通省 近畿地方整備局	H19.1.31	「建設技術展 2006 近畿」	池島福万寺：空からみた池島福万寺遺跡、八尾南：竪穴建物全景	カラー× 2	2
P06-45	独立行政法人 国立科学博物館	H19.2.6	国立科学博物館に本館展示「日本人と自然」コーナー解説パネル・解説画面のインターネット情報公開	亀井：1・2 号犬出土状況	カラー× 1	1
P06-46	東大阪市 広報課	H19.2.14	東大阪市広報番組「虹色ねっとわーく」	池島・福万寺：発掘調査現場と出土遺物	映像	1
P06-47	広島県立歴史民俗資料館	H19.3.8	平成 19 年度特別企画展「神々に捧げられた絵画 - 広島県の絵馬史 -」写真パネル・報道資料等	讃良群条里：絵馬 315	カラー× 1	1
P06-48	国立歴史民俗博物館	H19.3.14	平成 19 年度企画展示「弥生はいつから！？ - 年代研究の最前線 -」図録・パネル等	山賀：垂飾形木製品 / 土器 / 甕、池島福万寺：土器 / 甕、美園：土器 / 甕、亀井・城山：流水文のある壺、城山：流水文のある壺	カラー× 3 モノクロ× 8	11
P06-49	有限会社中間法人 京都大学学術出版会	H19.3.27	『古代日本 国家形成の考古学』口絵	大庭寺：TG232 号窯出土遺物	カラー× 1	1
P06-50	大阪府立弥生文化博物館 (移動)	H19.2	春季特別展「稲作とともに伝わった武器」	下田：短甲 / 刀剣刃者装具、瓜生堂：大型湾型銅戈	カラー× 5	5
					合計	131

③ビデオの貸出

下記のとおり依頼をうけてビデオの貸出上映を行った。

平成 18 年度ビデオ貸出し・上映一覧

総点数 46 件

番号	貸出先	申請年月日	使用目的	映像資料名	点数
V06-01	堀溝小学校	H18.4.24	小学校 6 年生見学	「河内馬飼いの里 讃良郡条里遺跡の発掘調査」/「讃良郡条里遺跡の発掘調査 (埋もれた井戸の発掘)」	2
V06-02	池島中学校	H18.5.12	中学校 2 年生体験学習	「農耕の技術」	1
V06-03	近畿大学理工学部	H18.5.9	第 148 回全国講演大会内の展示会 (企画展示：河内鋳物師)	「甦る手工業集団 - 陶邑と河内鋳物師 -」	1

番号	貸出先	申請年月日	使用目的	映像資料名	点数
V06-04	京阪調査事務所	H18.4.25		「讃良郡条里遺跡の発掘調査 (埋もれた井戸の発掘)」	1
V06-05	京阪調査事務所	H18.5.17		「讃良郡条里遺跡の発掘調査 (埋もれた井戸の発掘)」/ 古墳時代の大規模集落～上私部遺跡～ / 「北河内発掘～第二京阪道路内遺跡の発掘調査～」	3
V06-06	日本民家集落博物館	H18.4.23	「カルチュアはっとり」企画展示「日本の暮らし - 春の歳時記 -」	「農耕の技術」	1
V06-07	池島支所	H18.10.26	同志社大学考古学実習	「弥生時代の住まい 八尾南遺跡の発掘調査」	1
V06-08	京阪調査事務所	H18.6.14		「古墳時代の大規模集落～上私部遺跡～」/ 「讃良郡条里遺跡の発掘調査 (埋もれた井戸の発掘)」/ 「北河内発掘～第二京阪道路内遺跡の発掘調査～」/ 「河内馬飼いの里 讃良郡条里遺跡の発掘調査」	4
P06-09	役員会	H18.6.20		「弥生時代の住まい 八尾南遺跡の発掘調査」/ 「河内馬飼いの里 讃良郡条里遺跡の発掘調査」	2
P06-10	池島支所	H18.6.26		「弥生時代の住まい 八尾南遺跡の発掘調査」/ 「河内平野における古墳の出現 - 久宝寺遺跡の発掘調査 -」/ 「河内馬飼いの里 讃良郡条里遺跡の発掘調査」/ 「北河内発掘 第二京阪道路内遺跡の発掘調査」/ 「古墳時代の大規模集落～上私部遺跡～ / 讃良郡条里遺跡～埋もれた井戸の発掘～」/ 「羽曳野市庭鳥塚古墳～すがたを見せた前方後方墳～」	7
V06-11	本部普及部企画普及係	H18.7.18	バスツアー	「羽曳野市 庭鳥塚古墳～すがたを見せた前方後方墳～」/ 「古墳時代の大規模集落～上私部遺跡～」/ 「河内平野における古墳の出現 - 久宝寺遺跡の発掘調査 -」	3
V06-12	和光高校	H18.8.6	研究旅行に向けて、日本古代史研究における予備学習	「弥生時代の住まい - 八尾南遺跡の発掘調査 -」/ 「河内平野における古墳の出現 - 久宝寺遺跡の発掘調査 -」	2
V06-13	大阪府立近つ飛鳥博物館	H18.9.8	平成 18 年度秋季特別展『応神大王の時代 - 河内政権の幕開け -』	「羽曳野市 庭鳥塚古墳 - すがたを見せた前方後方墳 -」	1
V06-14	和光高校	H18.10.11	研究旅行	「農耕の技術」/ 「河内平野を掘る - 低湿地遺跡の発掘調査 -」	2
V06-15	京阪調査事務所	H18.10.12	ふみんネット中河内ブロック (八尾市民大学) 講座	「河内平野における古墳の出現 - 久宝寺遺跡の発掘調査 -」	1
V06-16	堺市文化財調査事務所	H18.10.20	博物館実習	「河内平野を掘る - 低湿地遺跡の発掘調査 -」/ 「泉州の遺跡～関西空港関連の調査～」	2
V06-17	全理協役員会	H18.11.29		「讃良郡条里遺跡 - 埋もれた井戸の発掘 -」/ 「北河内発掘 第二京阪道路内遺跡の発掘調査」/ 「弥生時代の住まい - 八尾南遺跡の発掘調査 -」	3
V06-18	本部普及部企画普及係	H18.12.5	郷土の文化財を見学する会バスツアー	「北河内発掘 第二京阪道路内遺跡の発掘調査」/ 「讃良郡条里遺跡 - 埋もれた井戸の発掘 -」/ 「羽曳野市 庭鳥塚古墳 - すがたを見せた前方後方墳 -」	3
V06-19	大阪府立近つ飛鳥博物館	H18.12	発掘された日本列島 2006 地域展『河内湖周辺に定着した渡来人 - 5 世紀の渡来人の足跡 -』	「讃良郡条里遺跡 - 埋もれた井戸の発掘 -」	1
V06-20	京阪調査事務所	H19.1.11	府文化財愛護推進委員、文化財愛好者の整理棟見学	「讃良郡条里遺跡 - 埋もれた井戸の発掘 -」/ 「古墳時代の大規模集落～上私部遺跡～」/ 「北河内発掘 第二京阪道路内遺跡の発掘調査」/ 「河内馬飼いの里 讃良郡条里遺跡の発掘調査」	4
V06-21	堺市教育委員会	H19.2.6	中学生対象の職場体験	「河内平野を掘る - 低湿地遺跡の発掘調査 -」	1
					46

(3) 図書の出版・販売

① 図書の出版

平成 18 年度は、下記の図書を出版した。

- (1) 片山荒池遺跡
- (2) はざみ山遺跡 2
- (3) 東倉治遺跡 II
- (4) 田井中遺跡
- (5) 平池遺跡
- (6) 有池遺跡 II
- (7) 上私部遺跡 I
- (8) 寝屋南遺跡・奥山遺跡
- (9) 若宮遺跡
- (10) 大西遺跡、若宮遺跡
- (11) 讃良郡条里遺跡 V
- (12) 有池遺跡 I
- (13) 池島・福万寺遺跡 3
- (14) 私部南遺跡 I
- (15) 花屋敷遺跡 I
- (16) 花屋敷遺跡 II
- (17) 上の山遺跡 II
- (18) 久宝寺・竜華地区発掘調査報告書 VII
- (19) 平成 18 年度 文化財講座資料集 東アジアの古墳壁画の世界
- (20) 大阪府埋蔵文化財研究会 (第 53 回) 資料
- (21) 大阪府埋蔵文化財研究会 (第 54 回) 資料
- (22) 2006 年度 (財) 大阪府文化財センター・弥生文化博物館共同研究発表会
比較・検証 南九州弥生文化の実像
- (23) 2006 年度 (財) 大阪府文化財センター・近つ飛鳥博物館共同研究発表会
摂河泉古代寺院の総合的研究
- (24) 2006 年度 (財) 大阪府文化財センター・日本民家集落博物館共同研究発表会
住居に関する総合的研究 (5)
- (25) 財団法人大阪府文化財センター研究調査報告 第 5 集
- (26) 大阪文化財研究 第 30 号
- (27) 大阪文化財研究 第 31 号
- (28) 民家集落ふるさとだより No. 28
- (29) 民家集落ふるさとだより No. 29
- (30) O C C H No. 34
- (31) O C C H No. 35
- (32) O C C H No. 36

- (33) カルチュアはっとり №.9 むかしの道具(発掘民具) 2. 漁具
- (34) カルチュアはっとり №.10 企画展示 禁野火薬庫の調査
- (35) ここまでわかった考古学 出土木器が語る考古学
～弥生時代・古墳時代の諸様相～
- (36) ここまでわかった考古学 弥生人現れる
ー大地は実り 人は祈るー
- (37) シンポジウム 古墳時代に生きた渡来人の軌跡
ー長原遺跡・葦屋北遺跡・上私部遺跡を中心にー
- (38) シンポジウム 木器研究最前線! 出土木器が語る考古学 発表資料集
- (39) 加納・平石古墳群 V (大阪府教育委員会刊行の増刷)
- (40) 大堀遺跡 (")
- (41) 千里丘遺跡群 (")
- (42) 新上小阪遺跡 (")
- (43) 吉井遺跡 (")
- (44) 福井遺跡 II (")
- (45) 雁屋遺跡 (")
- (46) 野端遺跡 (")
- (47) 平尾遺跡 (")
- (48) 西大井遺跡 (")
- (49) 大町遺跡 (")
- (50) 陶器遺跡・陶器千塚・陶器南遺跡 (")
- (51) 禁野本町遺跡 (")
- (52) 修羅 (")
- (53) 総持寺遺跡 II (")
- (54) 寺田遺跡 (")
- (55) 葦屋北遺跡発掘調査概要 IV (")
- (56) 葦屋北遺跡発掘調査概要 V (")
- (57) 葦屋北遺跡発掘調査概要 VI (")
- (58) 中畑遺跡発掘調査概要 II (")
- (59) 平石遺跡発掘調査概要 I (")
- (60) 加美・久宝寺遺跡発掘調査概要 (")
- (61) 桜井駅跡発掘調査概要 (")
- (62) 大阪府教育委員会文化財調査事務所年報 10 (")

② 図書の販売

平成 18 年度は、次のとおり販売した。

販売総数 5,020 冊 販売金額 7,250,461 円(税抜)

(4) 出版物の寄贈・配付

研究機関、行政機関等に対して当センターの刊行図書を寄贈配布した。

F. 文化財研究事業

(1) 大阪府埋蔵文化財研究会（第53回・第54回）の実施

① 第53回大阪府埋蔵文化財研究会

テーマ：ここまでわかった大阪の中世—近年の調査例を中心に—

日 時：平成18年9月30日（土） 午前10時00分～午後4時30分

場 所：大阪府教育委員会 文化財調査事務所 1階講義室

主 催：（財）大阪府文化財センター

大阪府教育委員会

記念講演

破城の作法 文化庁文化財部 記念物課

史跡部門 主任調査官

伊藤 正義

発表

堺環濠都市遺跡の歴史像

森村 健一

日根荘遺跡の調査成果

（財）大阪府文化財センター

中 岡 勝

池内遺跡の調査成果

（財）大阪府文化財センター

平田 洋司

国史跡楠木城跡の発掘調査

千早赤阪村教育委員会

和泉 大樹

高屋城の最近の調査成果から

羽曳野市教育委員会

河内 一浩

摂津国豊島郡垂水西牧西部域における中世的集落の動態

豊中市教育委員会

橘田 正徳

参加者 57 名

② 第54回大阪府埋蔵文化財研究会

テーマ：近年の調査成果から

日 時：平成19年3月24日（土） 午前10時00分～午後4時50分

場 所：大阪府教育委員会 文化財調査事務所 1階講義室

主 催：（財）大阪府文化財センター

大阪府教育委員会

記念講演

来し方を振り返って

（財）大阪府文化財センター

石神 幸子

弥生時代中期後葉の近畿 —壺F・Gをめぐって—

奈良文化財研究所

深澤 芳樹

発表

讃良郡条里遺跡から出土した近畿最古の弥生土器

（財）大阪府文化財センター

中尾 智行

鬼虎川遺跡の発掘調査	東大阪市埋蔵文化財センター	福永 信雄
私部南遺跡の発掘調査	(財)大阪府文化財センター	服部 文章
桑原古墳群の終末期群集墳	大阪府教育委員会	小川 裕見子
九頭神廃寺の発掘調査	(財)枚方市文化財研究調査会	西田 敏秀
細工谷遺跡の発掘調査	(財)大阪市文化財協会	松本 啓子
突帯文土器の一類型	(財)大阪府文化財センター	福岡 澄男

参加者 80 名

(2) 「近畿ブロック埋文研修会」と「近畿ブロック埋文情報」

① 近畿ブロック埋文研修会

第 11 回を数える平成 18 年度の研修会は、平成 18 年 10 月 27 日(金)、財団法人 和歌山県文化財センターが開催担当法人となり、全体テーマ「土木技術の考古学」のもとに 7 本の研究発表が行われた。センターから 32 名が参加した。

② 近畿ブロック埋文情報

第 39 号～第 41 号が刊行された。

(3) 第 17 回考古学国際交流研究会

平成 19 年 2 月 22 日(木)から 3 月 1 日(木)の間、韓国から 4 名の研究者を招聘した。釜山市博物館・福泉博物館の河炳厳氏、蔚山文化財研究院の鄭鉉錫氏、済州大学校博物館の朴根台氏、釜山大学校博物館の李昌熙氏である。

2 月 22 日(木)午後に来阪され、歓迎会に出席された。翌日 23 日(金)は泉北考古資料館を訪問し、陶邑の須恵器を実見され、大阪府文化財センター南部事務所を訪問・見学し堺市大庭寺出土の古式須恵器を観察された。24 日(土)は奈良県立橿原考古学研究所附属博物館、大阪府立近つ飛鳥博物館、大阪府立狭山池博物館を訪問された。25 日(日)は高槻市ハニワ公園、京都市考古資料館、京都大学総合博物館を訪問された。26 日(月)私部南遺跡発掘現場、長原遺跡発掘現場、大阪歴史博物館を訪問されやはり、古い須恵器を観察された。27 日(火)は弥生文化博物館、国指定史跡池上曾根遺跡、堺環濠遺跡発掘調査現場、堺市博物館を訪問された。28 日(水)は大阪府教育委員会文化財調査事務所 1 階講義室において、韓国の最新発掘調査報告会を開催した。この間、訪問先では視察とともに意見交換などの交流をおこなった。

(4) 弥生文化・近つ飛鳥・日本民家集落博物館との共同研究

センター部と博物館部各 3 館と共同研究をおこなった。また、一般向け発表会をおこない、資料集を刊行した。

センター部・日本民家集落博物館「住居に関する総合的研究5」

「山の暮らしつづらうら一信濃秋山郷から日向椎葉村まで」

一般向け発表会：2007年3月17日（土）13：30～16：00
 信濃地方の雪の暮らし—昭和30年代の秋山郷と津南町—
 津南町歴史民俗資料館 桑原 百合枝
 焼畑農耕つづらうら一椎葉村から秋山郷まで—
 泉佐野市史編纂委員 松本 芳郎
 研究会：2007年2月23日（土）13：30～16：00
 日本民家集落博物館と（財）大阪府文化財センターの交差点
 （財）大阪府文化財センター 芝野 圭之助
 報告：日本民家集落博物館50周年記念事業
 一野外博物館の移築民家を最大限に活用する—
 日本民家集落博物館 小島 久美

センター部・大阪府弥生文化博物館「南九州弥生文化の実像」

シンポジウム：2006年3月12日（日）13：00～16：00
 発表
 シラス台地に弥生遺跡を探して 大阪府立弥生文化博物館 東 徹 志
 南九州の多様な墓制 （財）大阪府文化財センター 本間 元樹
 シラス台地に根づいた弥生農耕 都城市教育委員会 栗畑 光博
 南九州で育まれた個性豊かな弥生文化
 鹿児島県歴史資料センター黎明館 東 和 幸
 挨拶 大阪府立弥生文化博物館長 金 関 恕
 研究会資料
 2006年12月1日発表
 南九州の墓制 （財）大阪府文化財センター 本間 元樹
 シラス台地に弥生遺跡を探して
 一大阪における調査成果から南九州の弥生遺跡の立地を考える—
 大阪府立弥生文化博物館 東 徹 志
 鹿児島県歴史資料センター黎明館 東 和 幸
 弥生時代の南九州 都城市教育委員会 栗畑 光博
 南九州の水田と畑について

センター部・大阪府立近つ飛鳥博物館「摂河泉古代寺院の総合研究」

シンポジウム：2006年2月26日（日）13：00～16：00
 基調報告
 摂河泉古代寺院の基壇化粧 大阪府立近つ飛鳥博物館 市本 芳三
 和泉の古代寺院と氏族 堺市教育委員会 近藤 康司
 摂津と河内をつなぐもの （財）大阪府文化財センター 網 伸也
 行基寺院石凝寺と地域交通 京都大学 吉川 真司
 挨拶 大阪府立近つ飛鳥博物館長 白石 太一郎
 研究会 2006年10月26日
 摂河泉古代寺院の基壇化粧 大阪府立近つ飛鳥博物館 市本 芳三
 摂河泉古代寺院一覧の作成に向けて 近畿大学 大 脇 潔
 2006年11月16日発表
 氏寺と同範瓦分布の意義について 藤井寺市教育委員会 上 田 睦
 古代寺院における空間構成 枚方市教育委員会 竹原 伸仁
 2006年12月7日発表
 寺院造営氏族と古墳 大阪府立近つ飛鳥博物館 小 栗 梓
 摂河泉古代寺院考証二題 京都大学 吉川 真司
 摂津と河内をつなぐもの （財）大阪府文化財センター 網 伸 也
 2007年1月18日発表
 和泉の古代寺院と氏族 堺市教育委員会 近藤 康司
 四天王寺式伽藍配置考 大阪府立近つ飛鳥博物館 小 浜 成
 古代寺院の鑄造製品 大阪府立近つ飛鳥博物館 鹿 野 壘

G. 文化財記録保存事業

(1) 映画の制作

阪神高速道大和川線道路建設に伴う松原市池内遺跡の映画撮影をおこない、映画を完成させた。

1. 『池内遺跡—私たちの発掘体験—』(約 15 分)

上記は平成 18 年度文化庁埋蔵文化財保存活用整備事業国庫補助金によるものである。

(2) その他

また、府内 5 カ所で行った現地説明会及び現地公開をビデオ撮影し、DVD を制作した。

1. 『身近なところに文化財—平成 18 年度発掘調査現地説明会—』(約 34 分)

上記は平成 18 年度文化庁埋蔵文化財保存活用整備事業国庫補助金によるものである。

H. 文化財調査支援事業

当センターが行う研究助成事業に基づく『財団法人大阪府文化財センター研究調査報告第 5 集』を編集、出版した。

I. 広報事業

(1) ニュースレター（O C C H）の発行

平成 18 年度は下記のとおり刊行した。

No. 34(平成 18 年 7 月 31 日)

No. 35(平成 18 年 11 月 20 日)

No. 36(平成 19 年 3 月 30 日)

(2) 年報の編集と発行

平成 17 年度の年報を作成した。

Ⅲ 大阪府立弥生文化博物館事業

1. 展示事業について

(1) 常設展示

- ① 第1展示室「目で見る弥生文化」は、タイムトンネルと実物大の竪穴住居からなる導入ゾーン、「米づくりの始まり」、「新しい技術の誕生」、「ムラ・戦い・クニ」、「交流」、「死とまつり」、「弥生人」の6つのテーマゾーン、全国各地の弥生文化を紹介する弥生プラザの3つのゾーンで、弥生文化をビジュアルに展示。

弥生プラザに最新情報コーナーを設置、1年周期で最新の弥生文化情報を速報的に展示する。昨年度から大阪府男里遺跡出土資料を展示。

- ② 第2展示室「池上曾根ワールド」という名称で、池上曾根遺跡専門の展示。

(2) 特別展・企画展

- ① 春季特別展「弥生画帖―弥生人が描いた世界―」 《入館者数：16,635人》

ア 開催概要 弥生時代、土器や木製品などさまざまな画材に描かれた絵画。弥生人が扱った多彩な画材、独特の画法、共通する構図、具象から抽象への変遷など、弥生画から広がる弥生人の世界観に迫る展示を行った。

イ 開催期間 2006年4月22日（土）～7月2日（日）

ウ 場 所 特別展示室

エ 入館料

区 分	個 人	団 体
一 般	600 円	480 円
65 歳以上 高校・大学生	400 円	320 円

- ② 秋季特別展「弥生人 躍動す―池上曾根と吉野ヶ里―」 《入館者数：6,203人》

ア 開催概要 日本を代表する弥生時代の巨大環濠集落である大阪府池上曾根遺跡と佐賀県吉野ヶ里遺跡。両遺跡から出土した資料から、弥生人たちのいきいきとした生活を紹介した。

イ 開催期間 2006年10月7日（土）～12月3日（日）

ウ 場 所 特別展示室

エ 入館料

区 分	個 人	団 体
一 般	600 円	480 円
65 歳以上 高校・大学生	400 円	320 円

③ 冬季特別展 文化庁主催 新発見考古速報会

「発掘された日本列島 2006（新発見考古速報展）」

《入館者数：4,843 人》

ア 開催概要 2005 年度におこなわれた日本各地の発掘調査成果から、とくに重要であると考えられる遺跡と資料を時代ごとに紹介。あわせてテーマ展示として「遺跡でたどる国際交流」を開催。

イ 開催期間 平成 18 年 12 月 23 日（土）～平成 19 年 1 月 21 日（日）

ウ 場 所 特別展示室・第 2 展示室

エ 入 館 料

区 分	個 人	団 体
一 般	600 円	480 円
65 歳以上 高校・大学生	400 円	320 円

④ 夏季企画展示「とんぼ玉 100 人展－魂のきらめき 現代作家とそのたまごたち－」

《入館者数：3,225 人》

ア 開催概要 和泉市の伝統産業でもあるガラス作り。現代作家 113 組（120 人）と次世代を担う高校生 5 校（34 人）の作品を展示した。

イ 開催期間 平成 18 年 7 月 15 日（土）～8 月 6 日（日）

ウ 場 所 特別展示室

エ 入 館 料

区 分	個 人	団 体
一 般	300 円	240 円
65 歳以上 高校・大学生	200 円	160 円

⑤ 冬季企画展示 財団法人大阪府文化財センター小テーマ展示

「シリーズ ここまでわかった考古学

池島・福万寺遺跡発掘調査 25 周年記念 弥生人現れる－大地は実り 人は祈る－」

《入館者数：4,287 人》

ア 開催概要 大阪府東大阪市と八尾市にまたがる池島・福万寺遺跡。過去 25 年間の発掘調査の成果を一堂に集めるとともに、周辺遺跡の資料と合わせ、縄文時代から弥生時代の移行期についての展示を行った。

イ 開催期間 平成 19 年 2 月 10 日（土）～3 月 25 日（日）

ウ 場 所 特別展示室

エ 入 館 料

区 分	個 人	団 体
一 般	400 円	320 円
65 歳以上 高校・大学生	300 円	240 円

2. 講演会事業等

(1) 講演会

① 春季特別展

4月23日(日) 対談「弥生人が描いた世界」

水野正好(財団法人大阪府文化財センター理事長)

金関 恕(大阪府立弥生文化博物館館長)

《参加者:150人》

② 秋季特別展

11月3日(金・祝) 対談「池上曾根と吉野ヶ里」

水野正好(財団法人大阪府文化財センター理事長)

金関 恕(大阪府立弥生文化博物館館長)

《参加者:194人》

(2) 考古学セミナー

① 春季特別展

区 分	日 程	演 題	講 師	参加者数
第1回	5月7日(日)	2つの人物画にみる弥生のシャーマン像	藤田三郎(唐古・鍵考古学ミュージアム)	120人
第2回	5月21日(日)	弥生絵画研究のあゆみと展望—弥生絵画は誰が、なぜ描いたのか—	橋本裕行(奈良県立橿原考古学研究所)	135人
第3回	6月4日(日)	弥生人が見た鹿と羊について	深澤芳樹(独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所)	137人
第4回	6月18日(日)	なぜ、鹿が描かれたのか	野本寛一(近畿大学文芸学部)	156人

② 秋季特別展

区 分	日 程	演 題	講 師	参加者数
第1回	10月9日 (月・祝)	弥生集落と労働形態 —考古実態の分析視点からの反「弥生都市」論—	秋山浩三(財団法人大阪府文化財センター)	149人
第2回	11月19日(日)	魏志倭人伝と吉野ヶ里	七田忠昭(佐賀県教育委員会)	140人
第3回	12月3日(日)	弥生の流通戦略	酒井龍一(奈良大学)	170人

③ 冬季特別展

区 分	日 程	演 題	講 師	参加者数
第1回	2007 年 12月23日(日)	荒谷遺跡と東北の弥生文化	工楽善通(大阪府立狭山池博物館館長)	170 人
第2回	2007 年 1月7日(日)	雑餉隈遺跡・八ノ坪遺跡・ 白藤遺跡と九州の弥生文化	西谷 正(九州大学名誉教授・ 伊都国歴史博物館館長)	220 人

④ 冬季企画展

区 分	日 程	演 題	講 師	参加者数
第1回	2007 年 2月24日(土)	米づくりが始まった頃の池 島・福万寺遺跡	水野正好(財団法人大阪府文化 財センター理事長) 廣瀬時習・鬼頭 彰(財団法 人大阪府文化財センター池島支 所)	210 人
第2回	2007 年 3月11日(日)	ある日、縄文人は弥生人に なったのか?	豆谷和之(田原本町教育委員 会) 若林邦彦(同志社大学歴史資 料館) 金関 恕(大阪府立弥生文化 博物館館長)	320 人

(3) 秋季特別展 考古学調査速報会

区 分	日 程	演 題	講 師	参加者数
第1回	10月21日(土)	史跡池上曾根遺跡の調査	乾 哲也(和泉市教育委員会 文化財振興課)	65 人
第2回	10月28日(土)	大阪府和泉市・泉大津市所 在 池上曾根遺跡の調査 成果ー平成13～15年度 (2003～2005)の調査成 果を中心としてー	土井孝之(財団法人和歌山県 文化財センター)	40 人
第3回	11月25日(土)	平成18年度 史跡池上曾 根遺跡の調査成果	山田隆一(財団法人大阪府文 化財センター)	70 人

(4) 冬季特別展 緊急特別企画

2007年1月13日(土) 鼎談「日進月歩の考古学」を語る

水野正好(財団法人大阪府文化財センター理事長)

江浦 洋(大阪府立弥生文化博物館学芸課長)

合田幸美(大阪府立弥生文化博物館総括学芸員)

《参加者：170人》

(5) その他の講演会

①泉州ミュージアムネットワーク主催

第4回館長ビッグ鼎談「泉州の文化 古代十字路の焦点」

《参加者：290人》

7月23日(日)

「大和～丹後～弥生から古墳へ」

金関 恕(大阪府立弥生文化博物館館長)

「ヤマト王権の中での和泉と紀伊」

白石太一郎(大阪府立近つ飛鳥博物館館長)

「古代技術華ひらく～大阪湾岸十字路」

水野正好(財団法人大阪府文化財センター理事長)

②関西文化の日 特別講演会

11月5日(日)「卑弥呼の衣装を語る」

《参加者：82人》

武田佐知子(大阪外国語大学教授)

③財団法人大阪府文化財センター・大阪府立弥生文化博物館 2006年度共同研究発表会

「比較・検証！南九州弥生文化の実像」

《参加者：170人》

2007年2月4日(日)

「シラス台地に弥生遺跡を探して」

東 徹志(大阪府立弥生文化博物館)

「南九州の多様な墓制」

本間元樹(財団法人大阪府文化財センター)

「シラス台地に根づいた弥生農耕」

桒畑光博(宮崎県都城市教育委員会)

「南九州で育まれた個性豊かな弥生文化」

東 和幸(鹿児島県歴史資料センター黎明館)

④大阪府立3博物館館長&財団法人大阪府文化財センター理事長リレー講演会

「考古学と歴史学を語る」

2007年2月12日(月・祝)

《参加者：325人》

「占いの考古学」 金関 恕(大阪府立弥生文化博物館館長)

(6) 学芸員による解説

特別展開催期間中の日・祝日に、特別展示室において展示解説を行った。

3. 普及事業

(1) ワークショップ（参加体験型事業）

- ・ 春季特別展「粘土に絵を描こう！」
5月20日（土）、6月3日（土）、17日（土） 《参加者：45人》
- ・ 秋季特別展「弥生のプレスレット貝輪をつくる！」
10月15日（日）、22日（日）、11月5日（日）、18日（土） 《参加者：51人》
- ・ 冬季特別展「ミニミニ石斧をつくる」
12月24日（日）、2007年1月6日（土）、13日（土） 《参加者：39人》
- ・ 夏季企画展示「とんぼ玉の制作体験」
7月15日（土）、16日（日）、17日（月・祝）、22日（日）、23日（日）、29日（土）、
8月5日（土） 《参加者：164人》
- ・ 冬季企画展「ミニ土偶をつくる」
2007年2月17日（土）、3月3日（土）、17日（土） 《参加者：60人》
- ・ 出前土器パズル教室（共催：大阪府立中央図書館）
9月30日（土） 《参加者：118人》
- ・ 峰好会社中による茶会 9月18日（月・祝） 《参加者：243人》

(2) やよいミュージアムコンサート

出演者を公募により選定し、エントランスホールを活用したミュージアムコンサートを実施した。

選考は、ミュージアムコンサート運営委員会が行った。

運営委員会：安井柁雄（ヴァイオリン） 稲本 直（コンサート企画）

太田善照（社会教育） 田中寛治（社会教育） ほか

区 分	日 程	演 題	演 奏 者	参加者数
第1回	5月14日（日）	新緑のきらめき ～初夏の風にのせて～	あんさんぶる は～と～ん♪ 白井佳子（サクソフォーン） 丹羽典子（ピアノ）	85人
第2回	5月28日（日）	Duo-Stella によるピアノ 連弾の楽しみ	Duo-Stella 岡松恵子・吉田奈央 （ピアノ連弾）	93人
第3回	6月11日（日）	The Trio +コンサート	The Trio + 江本栄梨奈（ヴァイオリン） 珍坂ゆきこ（フルート） 大西早苗（ピアノ） 萬代晴美（パーカッション）	185人

第4回	7月9日(日)	ロマン紀行 ～小品の魅力～	宇賀治和子(ピアノ)	108人
第5回	9月10日(日)	4手で広がるピアノの世界	小林千恵・五嶋利恵 (ピアノ連弾)	220人
第6回	10月1日(日)	ハーモニカでクラシック	中谷 晃(ハーモニカ) 山本比登美(ピアノ) 和泉フィルハーモニカ	206人
第7回	11月12日(日)	音楽の宝石箱 ～ヨーロッパの名曲たち～	阪口敦子(ピアノ) 外山有香(ソプラノ)	175人
第8回	12月10日(日)	December Concert ～心地よい空間～	荻森大介(ピアノ) 松井佳世(ピアノ) 大久保文子(ソプラノ)	173人
第9回	2007年 1月14日(日)	afternoon acoustic sounds	QUON 田代清香(ボーカル) 奥田喜聖(アコースティックギター)	206人
第10回	2007年 3月4日(日)	やさしい風のコンサート	薮内恵子(ソプラノ) 薮内智子(シンセサイザー)	153人
第11回	2007年 3月25日(日)	Spring Concert	鶴田美奈子(ピアノ)	166人

(3) 博物館ミニギャラリー

「開かれた博物館」事業として、エントランスホールを開放し、写真・絵画などの公募展示を行った。

期間は、原則2週間。費用は無料。

・「懐かしき日本の風景 切り絵」 出展：薄 成一

9月12日(火)～9月30日(土)

・「弥生神殿の四季－池上曾根遺跡写真展－」 出展：南 宗二

10月7日(土)～10月22日(日)

・「弥生の情景 - 吉野ヶ里遺跡写真展 - 」 協力：吉野ヶ里歴史公園・佐賀県教育庁

10月31日(火)～11月11日(土)

・「DROP(宮野祐介絵画展)」 出展：宮野祐介

11月14日(火)～11月26日(日)

・「泉大津市シルバー人材センター写友会作品展」

出展：泉大津市シルバー人材センター写友会

12月23日（土）～2007年1月12日（金）

- ・「水嶋光子とそのなかまたちの風景画押し花とデザイン押し花展」

出展：押し花工房はなあ～と 2007年1月16日（火）～1月28日（日）

- ・「足立幸子コズミックアート展」 出展：和泉サチ展実行委員会

2007年2月6日（火）～2月18日（日）

- ・「ほも・さぴえんす博物館－新阜裕大絵画展－」 出展：新阜裕大

2007年3月6日（火）～3月18日（日）

- ・「四至本浩二の似顔絵展」 出展：四至本浩二

2007年3月27日（火）～4月7日（土）

ミニギャラリー関連の催し：押し花ワークショップ 2007年1月21日（日）《参加者：70人》

（４）博物館絵画コンテスト

- ・テーマ 卑弥呼の時代を描こう

- ・応募期間 6月1日（木）～7月8日（土）

- ・応募点数 585点（過去最大の応募数）

- ・審査員 小灘一紀（洋画家、日展会員）

上田正克（児童画指導者、元泉大津市立浜小学校長）

- ・表彰式 8月20日（日）

金賞 「邪馬台国は私が守る！」

平尾 梨佳（和泉市立いぶき野小学校6年）

「村にたずね人」

植田 雄作（和泉市立いぶき野小学校6年）

- ・優秀作品展 7月29日（土）～9月3日（日）弥生文化博物館エントランスホール

9月15日（金）～10月1日（日）大阪府立中央図書館

（５）財団法人大阪府文化財センター主催

平成18年度文化財講座「東アジアの古墳壁画の世界」

区 分	日 程	演 題	講 師	参加者数
第1回	6月25日（日）	壁画古墳にたずさわって 35年	猪熊兼勝（京都橘大学）	119人
第2回	8月6日（日）	キトラ古墳の発掘調査	花谷 浩（出雲市文化観光 部文化財課学芸調整官）	108人
第3回	8月27日（日）	中国唐代壁画の世界	百橋明穂（神戸大学文学部 教授）	106人
第4回	9月24日（日）	高句麗の壁画古墳	田中俊明（滋賀県立大学人 間文化学部教授）	111人

第5回	10月29日(日)	高松塚・キトラと東アジアの古墳天文図	宮島一彦(同志社大学理工学研究所教授)	94人
第6回	11月26日(日)	唐以前の中国壁画	町田 章(前奈良文化財研究所所長)	85人
第7回	12月17日(日)	壁画の製作技法と時代	星山晋也(早稲田大学文学部教授)	91人
第8回	平成19年 1月28日(日)	九州の装飾古墳	柳沢一男(宮崎大学教育文化学部教授)	90人
第9回	2月18日(日)	終末期古墳の中の高松塚・キトラ古墳	白石太一郎(奈良大学文学部教授・大阪府立近つ飛鳥博物館館長)	91人
第10回	3月18日(日)	上淀廃寺の佛教壁画とその周辺	水野正好(財団法人大阪府文化財センター理事長)	80人

(6) 発見！体験！考古学

第1回 8月19日(土)

池島・福万寺遺跡《参加者：23人》

第2回 8月26日(土)

池島・福万寺遺跡《参加者：19人》

(7) みんないっしょに考古楽

第1回 10月8日(日)「弥生の生活大発見！土器と石器にふれる体験」

《参加者：28人》

第2回 11月23日(木)「挑戦！弥生のモノ作り 穴から始める玉作り」

《参加者：33人》

第3回 2007年1月21日(日)「炎に挑戦！弥生にもどる火おこし体験」

《参加者：30人》

第4回 2007年2月11日(日)「挑戦！弥生のモノ作り 弥生の万能素材の鹿角」

《参加者：25人》

4. 学校との教育連携

(1) 博学連携セミナー

博物館の活動をよりよく理解してもらうため、学校教員との意見交換の場を設けた。

募集は、学校へ開催案内をおこない教員が自主的に応募することとした。

- ・8月2日(木) 地元小学校教員対象の博学連携セミナー 参加 4名(3校)

「常設展展示解説」「収蔵庫などバックヤード見学」「博物館活用などの意見交流会」

- ・8月3日(金) 府内高校地理歴史科・公民科教員対象の博学連携セミナー

参加 17名(14校)

「常設展展示解説」「収蔵庫などバックヤード見学」「博学連携の意見交流会」

- ・11月11日(土) 府内高校地理歴史科・公民科教員対象の博学連携セミナー

参加 3名(3校)

「特別展展示解説」「大坂城発掘調査成果講演(菅平右衛門と大坂冬の陣)」

- ・12月24日(日) 府内(南部地域)中学校教員対象の博学連携セミナー

参加 6名（5校）

「特別展展示解説」「大阪府下での発掘状況講演」

（２）博物館実習

7月25日（火）から7月29日（土）までの5日間、11の大学から24名の実習生を、2007年2月4日（日）から2月6日（火）の2日間、1の大学から1名の実習生を受け入れ、学芸員の実務について指導した。

（大学名：大阪、大阪女子、京都外国語、京都光華女子、京都女子、京都造形芸術、京都文教、神戸女子、帝塚山学院、奈良、広島、立命館）

その他 見学のみの実習や大学の通信課程の講習を受け入れた。

（３）大学生のインターンシップ

8月26日（土）から9月8日（金）の12日間、大阪外国語大学、京都大学から各1名を受け入れた。

（４）高校生のインターンシップ

7月27日（木）から7月30日（日）の4日間、1校から1名の高校生を受け入れた。

（５）中学生職場体験学習

下記の期間に、4校から9名の中学生を受け入れ、博物館業務を体験する機会を提供した。

10月5日（木）～10月6日（金）の2日間 2名（1校）

10月19日（木）～10月20日（金）の2日間 2名（1校）

2007年1月31日（水）～2月2日（金）の3日間 5名（2校）

（６）出前授業

2校の小学校から依頼を受け、教育専門員および学芸員が出向いて授業を行った。

11月7日（火）泉南市立新家小学校 5年生

3月1・2日（木・金）奈良女子大学付属小学校 2年生

（７）教育委員会、研究会主催の博物館研修

府立高校新任教員（地歴）研修など教員を対象としての博物館研修を9件受け入れた。

（８）学校訪問

教育専門員を主として学校訪問、校長会、教育委員会訪問など約200件行い博物館広報、学校情報収集などにつとめた。

（９）高校生のためのバックヤードツアー

8月9日（水）に府下高校生を対象として、博物館活動の目的を理解してもらい、また、実物

資料に接する機会を提供した。1校から2名の参加を得た。

5. ボランティア活動

点訳、英語の翻訳など各自の特技を活かした活動、各種イベントでの受付や土器パズル、発送などの広報普及活動の補助など多方面に渡った活動を行った。

《登録者数：23名》

6. 広報事業

(1) インターネットホームページ

ホームページによる情報提供を行い、博物館や文化財関連機関、地域団体などとの相互リンクを進めた。《アクセス件数：213,000件》

(2) 特別展図録

展示により興味を持ち、かつ理解してもらうため、特別展図録を作成した。《各2,100部》

○大阪府立弥生文化博物館図録33 『弥生画帖－弥生人が描いた世界－』

(平成18年4月発行)

○大阪府立弥生文化博物館図録34 『弥生人躍動す－池上曾根と吉野ヶ里－』

(平成18年10月発行)

(3) 特別展・企画展ポスター等の作成配布

特別展・企画展ごとにポスター、チラシ、リーフレット等を作成し、広く広報活動に活用した。

(4) 常設展リーフレット

常設展の内容を簡単に紹介したA4三つ折のリーフレット(英語・韓国語・中国語)を新しく作成した。

(5) 小学生用見学のしおり

小学生が弥生文化を学習する上で助けとなるよう、「小学生のための見学のしおりおよびワークシート(6種)を作成した。

ワークシートについては、下見で来館した学校教員に1セットのみ渡し、児童の人数分の印刷は学校側にお願いした。

(6) 解説シート

常設展示の解説シート(7種)、及びボランティアが作成した点字解説シートを用意した。

(7) ミュージアムカレンダー

3ヶ月分のイベントを掲載した行事予定を毎月作成し、広く広報活動に用いた。

(8) 弥生倶楽部・要覧等

- 博物館だより『弥生倶楽部』30、31号
- 『平成17年度 弥生文化博物館要覧』
- 資料集『2006年度財団法人大阪府文化財センター・大阪府立弥生文化博物館共同研究発表会
比較・検証！南九州弥生文化の実像』2007年2月4日
※資料集は財団法人大阪府文化財センターとの共同製作。
- 2006年3月出版済みのもの
 - 大阪府立弥生文化博物館『船橋遺跡出土資料1－弥生土器編－』
 - 大阪府立弥生文化博物館資料図録1
 - 大阪府立弥生文化博物館『弥生文化博物館研究報告 第6集』
 - 大阪府立弥生文化博物館『佐原真 文庫目録』

(9) マスコミ・ミニコミへの資料提供

各種のイベントごとに報道提供資料を作成し、大阪教育記者会ならびに堺市政記者クラブに情報を提供した。また、近隣のミニコミ紙、情報誌の編集部へも同様の資料を提供し、紙面への掲載を依頼した。

(10) 看板の製作・設置

南海松ノ浜駅、JR 信太山駅に当館の案内看板を設置した。

7. 研究事業

「比較・検証！南九州弥生文化の実像」というテーマで、財団法人大阪府文化財センターとの共同研究を12月1日（金）に実施した。

館外の共同研究員は以下のとおり。

- 桒畑 光博（都城市教育委員会）
- 東 和幸（鹿児島県歴史資料センター黎明館）
- 本間 元樹（財団法人大阪府文化財センター）

8. 資料調査収集事業

図書購入

特別展・企画展の準備ならびに学術研究のため、考古学関係の雑誌、資料集ほか214冊を購入した。

9. サービス事業

(1) 職員研修

全職員を対象としたマナー研修や普通救命講習等を実施した。

(2) 音声ガイド

展示資料の理解をより深めてもらうために、新たに音声ガイドを購入し、資料の紹介などの企画を手がけた。

(3) 設備

ベビーチェア（男女トイレ各1）、ベビーシート（トイレ前1）、AED（事務所内1）を設置した。

10. 自主事業

ミュージアムショップの整備

販売コーナーを整備し、オリジナルマグネットやパズルなどのミュージアムグッズを新たに加えた。また、純銀製ストラップや弥生絵画ストラップなど、特別展開催期間中限定商品の販売を行った。

11. 入館者および入館料一覧表（弥生文化博物館）

区 分	入 館 者 数			入 館 料	備 考
	有 料	無 料	合 計		
常 設 展	3,592	7,178	10,950	1,063,380	118 日間
割合%	25.7	22.4	23.7		
春季特別展	3,081	13,554	16,635	1,361,100	62 日間
割合%	21.9	42.2	36.1		
秋季特別展	1,924	4,279	6,203	760,520	50 日間
割合%	13.7	13.3	13.4		
冬季特別展	1,582	3,261	4,843	675,720	23 日間
割合%	11.3	10.2	10.5		
夏季企画展示	1,942	1,283	3,225	503,660	20 日間
割合%	13.8	4.0	7.0		
冬季企画展	1,929	2,358	4,287	561,900	38 日間
割合%	13.7	7.3	9.3		
合 計	14,050	32,093	46,143	4,926,280	311 日間
割合%	100.0	100.0	100.0		
平成 17 年度実績			38,384	3,501,520	303 日間
平成 16 年度実績			43,952	4,446,920	302 日間

・秋季特別展の無料欄には、関西文化の日（11月4日、5日）の入館者（一般329人、高大生17人、65歳以上85人）を含む。

・冬季特別展の無料欄には、正月特別開館（1月1日～4日）の入館者数（一般527人、高大生22人、65歳以上126人）を含む。

IV 大阪府立近つ飛鳥博物館事業

1. 展示事業について

(1) 常設展示

①第1ゾーン：「近つ飛鳥と国際交流」

日本古代律令国家成立への道筋と、その中で近つ飛鳥の地域が果たした役割を、5～6世紀「倭の五王と渡来文化」、7世紀前半「聖徳太子の時代」、7世紀後半「仏教文化の開花」、8世紀「文字の時代」の四つのサブテーマにより展示

②第2ゾーン：「古代国家の源流」

古代律令国家の移行段階としての古墳時代の文化を、「竪穴式石室の世界」「王と民衆」「横穴式石室の世界」「古墳造営のムラ」「大古墳の造営」の五つのサブテーマで展示

③第3ゾーン：「現代科学と文化遺産」

現在、様々な科学技術が多くの文化財の保存や調査・分析に応用され、大きな成果を挙げている。このことについて、保存処理を終えた修羅を中心に、幾つかの例を取り上げ、その方法や成果を紹介展示

入館料

区 分	個 人	団 体
一 般	300 円	240 円
高・大生・65 才以上	200 円	160 円

(2) 特展企画展事業

①春季特別展「古代の工房～豊かなる都・寺のきらめき～」

ア. 開催趣旨

各地で発掘調査された都や寺づくりにたずさわった工房跡から、当時の最新技術を知り、どのようなモノをつくりあげたかを探る。工房に残された足跡から、工人たちの姿、社会背景を探り、当時の躍動ある力、現代にもつながる技術を知る機会とした。

イ. 開催期間 平成 18 年 4 月 29 日(土)～7 月 2 日(日)

ウ. 場 所 特別展示室

エ. 入館料

区 分	個 人	団 体
一 般	600 円	480 円
高・大生・65 才以上	400 円	320 円

オ. 内覧会の実施

4 月 28 日(金)	ホールおよび特別展示室	94 人
-------------	-------------	------

カ. 講演会の実施

日 程		講 師 ・ 演 題	参加者数
第 1 回	4 月 30 日 (日)	大阪府文化財センター理事長 水野 正好 近つ飛鳥博物館 館長 白石太一郎 「ここに飛鳥時代はじまる」	187 人

キ. 歴史セミナーの実施

日 程		講 師 ・ 演 題	参加者数
第 1 回	5 月 14 日 (日)	独立行政法人 奈良文化財研究所 松村 恵司 「飛鳥の工房」	65 人
第 2 回	5 月 28 日 (日)	京都大学 上原 真人 「古代瓦工房を組織する」	98 人
第 3 回	6 月 11 日 (日)	花園大学 古市 晃 「難波のミヤコつくりと技術革新」	127 人
第 4 回	6 月 25 日 (日)	奈良大学 寺崎 保広 「古代の官営工房と飛鳥池遺跡」	135 人

ク. 展示解説

	日 程	内 容	参加者数
全 6 回	5 月 3 ・ 7 ・ 21 日、 6 月 4 ・ 18 日、 7 月 2 日	展示解説	147 人

ケ. 入館者数 総入館者 22,874 人 (内展示室入館者 9,067 人)

	平成 17 年度	平成 16 年度	平成 15 年度
入場者数	20,471 (7,087)	22,384 (9,592)	25,972 (11,082)

②夏季企画展示「夏休み親子で学ぶ むかしの台所いまの台所」

ア. 開催趣旨

電化製品の普及で様変わりしてしまった台所まわりの風景を題材とし、食器や鍋釜など種々の道具で大きく変わったもの、あまり変わらなかったものを比べて食生活や生活習慣の変化、その社会背景を親子で考えてもらう企画。

イ. 開催期間 平成 18 年 7 月 22 日 (土) ～ 9 月 3 日 (日)

ウ. 場 所 特別展示室

エ. 入館料

区 分	個 人	団 体
一 般	300 円	240 円
高・大生・65 才以上	200 円	160 円

オ. 展示解説とワークショップ

	日 程	内 容	参加者数
第1回	7月29日(土)	考古イラストレーター 早川 和子の絵画教室	30人
第2～4回	8月6・20日 9月3日)	展示解説とクイズ・ひき臼体験	183人

カ. 入館者数 総入館者 10,798人(内展示室入館者 3,859人)

	平成17年度	平成16年度	平成15年度
入場者数	7,525 (3,361)	7,846 (3,305)	12,507 (5,554)

③秋季特別展

「修羅」重要文化財指定記念

『応神大王の時代－河内政権の幕開け』

ア. 開催趣旨

古墳時代中期にあたる4世紀後葉から5世紀にかけて、倭の大王が河内に王墓群（古市古墳群）を形成する。一説にヤマト王権をになった、河内・和泉に基盤をおく新たな勢力の台頭を示すと考えられている。古市古墳群の中にある三ツ塚古墳から出土した修羅が重要文化財に指定されたことを記念して、応神陵古墳の出現を軸に河内政権の誕生を考えた。

イ. 開催期間 平成18年9月30日(土)～11月26日(日)

ウ. 場 所 特別展示室

エ. 内覧会の実施

9月29日(金) 14:00～	ホールおよび特別展示室	85人
-----------------	-------------	-----

オ. 歴史セミナーの実施

	日 程	講 師 ・ 演 題	参加者数
第1回	10月8日(日) 14時～	大阪大学 福永 伸哉 「考古学からみた河内政権論」	246人
第2回	10月22日(日) 14時～	大阪市立大学名誉教授 直木 孝次郎 「河内政権と応神天皇」	427人
第3回	11月5日(日) 14時～	大阪市立大学 岸本 直文 「墳丘企画からみた応神陵古墳とヤマト王権」	225人

カ. 特別講演会

日 程	講 師 ・ 演 題	参加者数
11月23日(木) 13時30分～	(財)大阪府文化財センター理事長 水野 正好 「大阪湾岸開発と応神天皇」 近つ飛鳥博物館 館長 白石 太一郎 「応神陵古墳の被葬者を考える」	480人

キ．関連発掘調査報告会 「発掘調査からみた河内政権と地域関係」

日 程	講 師 ・ 演 題	参加者数
11月11日(土) 13時30分～	羽曳野市教育委員会 河内 一浩 「羽曳野市庭島塚古墳の調査成果」 宮内庁書陵部 徳田 誠志 「奈良市佐紀古墳群の調査成果」 大谷大学 犬木 努 「宮崎県西都原 169・170・171 号墳の調査成果」	203 人

ク．展示解説

	日 程	内 容	参加者数
全4回	10月15・21日、 11月12・25日、	展示解説	134 人

ケ．入館者数 総入館者 21,303 人 (内展示室入館者 9,303 人)

	平成 17 年度	平成 16 年度	平成 15 年度
入場者数	19,701 (8,989)	21,227 (10,193)	16,384 (6,516)

④冬季特別展

文化庁巡回展『新発見考古速報展 発掘された日本列島 2006』

地域展「河内湖周辺に定着した渡来人－5世紀の渡来人の足跡－」

大阪府立弥生文化博物館実施の中核展と共催し、本館では地域展を開催した。

ア．開催趣旨

畿内には朝鮮半島南部の百済、伽耶地域からきた多くの渡来人の足跡が残されている。彼らは畿内の王権中枢部と深く関わりとともに、持ち込まれた技術や文物は、古墳時代の人々の生活にも大きな影響を与えた。近年、畿内各所で渡来人に関わる遺跡の発掘があいついでおり、渡来系文物を中心に畿内の古墳時代の調査成果を紹介した。

イ．開催期間 平成 18 年 12 月 23 日（土）～平成 19 年 2 月 12 日（月・祝）

ウ．場 所 特別展示室

エ．入館料

区 分	個 人	団 体
一 般	600 円	480 円
高・大生・65 才以上	400 円	320 円

入館料 （1月23日～2月12日）

区 分	個 人	団 体
一 般	400 円	320 円
高・大生・65 才以上	300 円	240 円

オ. 発掘調査発表会の実施

日 程		講 師 ・ 演 題	参加者数
第1回	1月14日(日) 13:30～ 16:00	「部屋北遺跡の発掘調査成果」 大阪府教育委員会 岩瀬 透 「宇治市街遺跡の発掘調査成果」 宇治市歴史資料館 浜中邦弘 「5・6世紀の百済と倭の交流」 韓国文化財庁 金 洛中	240人

カ. 特別講演会の実施

日 程		講 師 ・ 演 題	参加者数
第1回	1月28日(日) 14:00～ 16:00	「5世紀代の移民」 立命館大学名誉教授 山尾 幸久 「河内の初期渡来文化」 近つ飛鳥博物館 館長 白石太一郎	528人

キ. 展示解説

	日 程	内 容	参加者数
全5回	12月24日、 1月7・21日、 2月4・11日	展示解説	174人

ク. 入館者数 総入館者 11,281人(内展示室入館者 4,708人)

	平成17年度	平成16年度	平成15年度
入場者数	8,357(3,024)	9,929(3,028)	11,154(3,020)

⑤小テーマ展示『ここまでわかった考古学』(財)大阪府文化財センターと共催。

出土木器が語る考古学

ア. 開催趣旨

近年の発掘出土例から得られた情報をもとに、出土木製品の背景にある社会変化について考える。

イ. 開催期間 3月3日(土)～4月8日(日)

ウ. 開催場所 特別展示室

エ. 入館料

区 分	個 人	団 体
一 般	300円	240円
高・大生・65才以上	200円	160円

オ. シンポジウム(木器研究最前線)の実施

日 程		講 師 ・ 演 題	参加者数
第1回	3月4日(日) 11:00～ 16:30	特別講演「出土木器の見方」 京都大学教授 上原 真人 研究成果報告とディスカッション 山口 譲治 樋上 昇 飯塚 武司 コーディネーター 山田昌久・黒須亜希子 氏	180人

カ. 展示解説

	日 程	内 容	参加者数
全3回	3月25日、 4月1・8日	展示解説	15人 53人

キ. 入館者数 総入館者 7,990人(内展示室入館者 2,222人)

⑥スポット展示

発掘調査最新成果の展示公開を実施した。

第1回 8月15日(火)～20日(日)

大阪府教育委員会調査 部屋北遺跡の調査成果速報展示。

2. 講演会等事業

(1) 「関西文化の日」記念講演会

毎年11月に関西圏の各博物館・美術館が入館料を免除または割引する「関西文化の日」の催しを11月18(土)、19(日)に実施した。記念講演は、秋の特別展に関連したテーマで神戸商船大学名誉教授北野耕平先生におこなった。

日 程	講 師 ・ 演 題	参加者数
11月19日(日) 14時～	神戸商船大学名誉教授 北野 耕平 「誉田御廟山古墳―伝応神大王陵―の時代と 東アジア」	248人

(2) 府立三博物館館長リレー講演会

弥生文化博物館、狭山池博物館と本館の府立三博物館館長に(財)大阪府文化財センター理事長の四氏によるリレー講演会を実施した。本館は第3回目にあたり白石館長による講演会をおこなった。

	日 程	内 容	参加者数
第3回	3月21日、 14:00～16:00	「最初の倭国王は誰か」 近つ飛鳥博物館館長 白石太郎	500人

(3) 大阪府文化財センター・近つ飛鳥博物館共同研究発表会

テーマ 摂河泉古代寺院の総合的研究

日 程	内 容	参加者数
2月10日(土)	「摂河泉古代寺院の基壇化粧」 近つ飛鳥博物館 市本芳三	80人
	「和泉の古代寺院と氏族」 堺市教育委員会 近藤康司	
	「摂津と河内をつなぐもの ～軒瓦にみられる在地間寺院交流～」 京都大学 吉川真司	
	「行基寺院石凝寺と地域交通」 大阪府文化財センター 網 伸也	
	総合質疑 司会 市本芳三	

(4) 一須賀古墳群講座

近つ飛鳥風土記の丘の古墳群を教材に、実際の古墳を見ながら学習する講座を実施した。

実施日 3月11日(日) 参加者 13名

関連事業として、大阪大学考古学研究会による一須賀古墳群C支群7号墳の墳丘測量調査(3月1日～10日)に協力した。

3. 広報普及事業

(1) 古墳時代まつり「春の風土記の丘であそぼう」

風土記の丘でウォークラリー・古代衣裳体験・勾玉工作教室・森の工作教室等を実施した。

・日 時 5月5日(金・祝)

・参加者数 432人

	平成17年度	平成16年度	平成15年度
参加者数	353人	371人	316人

(2) 夏休み子供工作室

夏休み期間中に、親子でも楽しめる勾玉作りやペーパークラフト等の工作教室的なワークショップを実施した。

・日 時 7月23日(日)、8月5日・19日(土)

・参加者数 79人

	平成17年度	平成16年度	平成15年度
参加者数	156人	183人	275人

(3) 夏休みこども博物館探検ツアー

小中学生を対象に、博物館に対してより親しみが持てるよう博物館のしくみを説明し、収蔵庫などの博物館のバックヤードを観察する見学会を実施した。

・日 時 7月30日、8月13日・20日・27日(日)

・参加者数 101人

	平成17年度	平成16年度	平成15年度
参加者数	42人	66人	91人

(4) 古墳の森コンサート

博物館の特色を生かし、博物館の屋上階段広場を活用して音楽のコンサートを開催した。

日 程	タイトル・演奏者	参加者数
4月29日(土・祝)	「奏・so・爽2006」 大阪府立金剛高等学校 軽音楽部 大阪府立長野高等学校 軽音楽部	183人

	平成 17 年度	平成 16 年度	平成 15 年度
参加者数	210 人	278 人	235 人

(5) 体験型学習

中学生以下の子どもとその保護者を対象にして、修羅引きや博物館内の施設を見学することも博物館プチ探検ツアーなどを実施した。

実施日 10 月 14・28 日・11 月 18 日 修羅引き

1 月 20 日・2 月 3 日 こども博物館プチ探検ツアー

参加者合計 55 名

(6) カルチャー of アスカディア（学芸員が案内する遺跡見学会）

11 月 3 日（金） 13 時 30 分～16 時 30 分

「古市古墳群を歩く―修羅出土地と応神陵古墳―」

参加者 47 名

3 月 18 日 13 時 30 分～16 時 30 分

「近つ飛鳥を歩く―上ノ太子から近つ飛鳥博物館―」

参加者 27 名

	平成 17 年度	平成 16 年度	平成 15 年度
参加者数	68 人	59 人	81 人

機関紙「アスカディア・古墳の森」の発行

博物館活動の報告、タイムリーな話題や新収蔵品の紹介、利用者の声などを掲載して、博物館と府民のコミュニケーションを図る P R 誌を年 2 回発行した。

(7) 近つ飛鳥博物館要覧の作成

近つ飛鳥博物館の概要紹介として、指定管理者制度導入にともなう条例改正を記載した要覧を作成した。

(8) 常設展示図録の改訂

開館以来の常設展示図録の、全面的改訂に向けて素案を計画した。

(9) 催し物案内の作成

府民や各種団体に博物館行事の周知を図り、来館を促すためのチラシを作成する。とくに南河内周辺地域への配布を強化するため各戸配布のポスティングシステムを利用した。

(10) マスコミ・ミニコミ紙等への情報提供等

常設展・特別展・企画展や各種行事等を府民に周知するため、マスコミ等へ積極的に情報を提供する。鉄道機関や新聞・ミニコミ誌の広告欄などを利用し広く P R をおこなった。

(11) 博物館案内板の改良・設置

マイカー等での来館者及び最寄り駅からの来館者がスムーズに博物館に到着できるように、案内板を南阪奈道路太子インターと羽曳野東インター出口に設置し、葉室公園脇の案内標識の塗り替えたほか、近鉄古市駅と喜志駅に駅貼りの看板を設置し、風土記の丘の分岐路の展示案内板をわかりよく付け替えた。

(12) インターネットホームページ

常設展・特別展・企画展の情報・博物館催し物案内を、近つ飛鳥博物館ホームページに掲載した。また府民の意見・質問の対応のため意見交換コーナーを設置した。

(平成18年度のアクセス件数 144,918件)

ホームページ開設以来の累計アクセス件数 1,170,204件)

(13) 出版事業

展示資料の解説や展示内容等の理解を深めるため、特別展図録等を発行・配布した。

○春季特別展図録「古代の工房～豊かなる都・寺のきらめき」 (1,200部)

○秋季特別展図録「応神大王の時代―河内政権の幕開け」 (1,200部)

○発掘された日本列島 2006 地域展図録

「河内湖周辺に定着した渡来人」 (1,200部)

○近つ飛鳥博物館要覧 (1,000部)

4. 学校教育連携事業

(1) 大学生博物館実習

大学からの依頼に基づき、学芸員課程の博物館実習を行った。

期 間 8月2日(水)～8月6日(日)

受け入れ大学 大阪大学ほか 8大学

実習生受講生 16名

	平成17年度	平成16年度	平成15年度
参加校数	8校	9校	7校
参加者数	19人	19人	20人

(2) 大学生・高校生・中学生のインターンシップ受け入れ

大学生・高校生・高校生を受け入れて、博物館事業運営の体験学習を実施し、職業選択の参考とする体験の支援。

大学生 5大学5名 高校生 1校1名 中学生3校11名 計9校17名

	平成17年度	平成16年度	平成15年度
参加校数	8校	4校	5校
参加者数	29人	14人	10人

(3) 校外学習ワークショップ

小・中学校および高校生の校外学習に合わせて、工作教室的なワークショップおよび修羅引き体験を実施した。

・対象校 小・中学校 35校 2,073人

(4) アウトリーチ活動

小学校に学芸員が出向き、ワークショップを通じて博物館活動の理解などに努めた。

・対象校 4校 268人

	平成17年度	平成16年度	平成15年度
参加校数	6校	7校	9校
参加者数	343人	532人	408人

(5) 学校団体利用案内の作成

学校団体が来館する際の利用手引を作成し、利用を促した。

(6) 校外学習の案内の作成

小・中学校および高校の校外学習のワークショップの見本を作成し、下見の打ち合わせの際に利用を促した。

5. 研究事業

(1) 近つ飛鳥博物館館報の刊行

博物館事業についての提言や館のテーマに沿った研究報告、年間事業記録などを掲載する館報刊行の準備をおこなった。

(2) (財)大阪府文化財センター普及部・調査部との共同研究

本館学芸員とセンター普及・調査部および外部研究者を交えて「摂河泉古代寺院の総合的研究」のテーマに沿って研究会と発表会を行った。

場所 本館二階 会議室

日 程		発表者 ・ 主題
第1回	10月26日(木)	「摂河泉古代寺院の基壇化粧」 近つ飛鳥博物館 市本芳三 仮称『摂河泉古代寺院一覧』の作成に向けて 近畿大学 大脇 潔
第2回	11月16日(木)	「氏寺と同範瓦分布の意義についてー河内を中心にしてー」 藤井寺市教育委員会 上田 睦 「古代寺院における空間構成ー河内の場合ー」 枚方市教育委員会 竹原伸仁

第3回	12月7日(木)	「寺院造営氏族と古墳―南河内を中心に―」 近つ飛鳥博物館 小栗 梓 「摂河泉古代寺院考証二題」 京都大学 吉川真司 「摂津と河内をつなぐもの」 大阪府文化財センター 網 伸也
第4回	1月18日(水)	「河内の寺院造営工房について」 近つ飛鳥博物館 鹿野 塁 「四天王寺式伽藍配置の再検討 ―初期寺院にける伽藍配置変化の背景を探る―」 近つ飛鳥博物館 小浜 成 「和泉の古代寺院と氏族」 堺市教育委員会 近藤康司

6. 資料調査収集事業

(1) 実物資料購入、模型・レプリカの製作、写真資料作成、映像ソフトの充実

館のテーマに沿って、葺屋北遺跡出土の馬の骨格標本を作製した。新年度に機会をみて、展示する方針である。

(2) 図書購入

学術図書並びに普及啓発用図書を購入した。また、故田代克己先生ご遺族から平成17年度末に寄贈を受けた約9000冊の書籍の分類整理、登録をおこなった。19年度にも整理は継続する。

(3) 実物資料の移管・寄贈・寄託

古市古墳群を取りあげた秋の特別展に絡み、終戦直後頃の誉田御廟山古墳周辺の空中写真の寄贈を受ける段取りを進めた。

(4) 資料の修理・保存処理

修羅の国重要文化財指定を機に、注入樹脂の状態や経年変化による劣化等、有無観察計測記録を定期的におこなう業務委託を始めた。

7. サービス事業

ミュージアムスタッフのマナー研修等を実施した。

展示資料の理解をより深めもらうために、あらたに音声ガイドを購入し、新資料の紹介などの企画を手がけた。

また、石棺の細部文様や、特別展展示資料の細部を見やすくするため、スポットライトを購入した。

仁徳陵古墳模型の細部を観察できるように、故障していたタッチパネルモニターに換えて、望遠カメラ付きのモニターをあらたに設置した。

8. 自主事業

(1) ミュージアムショップの整備

販売コーナーを整備し、一筆箋やオリジナルキャラクターマグネット、手提げ紙袋などのミュージアムグッズを新たに加えた。また、秋の修羅重要文化財指定記念特別展に合わせて、修羅の文鎮をグッズに加えた。

9. 入館者数

区 分		入 館 者 数				入館料	備 考	
		展 示 室 入 館 者 数			普及ゾーン 利用者数			博物館 総入館者数
		有 料	無 料	合 計				
常 設 展		(61) 3,752	(63) 2,481	6,233	15,707	21,940	986,380	(日間) 96
		割合 %	21.0	14.2	17.6	25.8		
春 季 特 別 展		(197) 3,485	(142) 5,582	9,067	13,807	22,874	1,729,940	56
		割合 %	19.5	31.9	25.6	22.7		
夏 季 企 画 展 示		(57) 2,403	(82) 1,456	3,859	6,939	10,798	641,700	38
		割合 %	13.4	8.3	10.9	11.4		
秋 季 特 別 展		(352) 4,153	(112) 5,150	9,303	12,000	21,303	1,939,400	50
		割合 %	23.2	29.4	26.3	19.7		
発掘された日本 列島 2006		(328) 2,638	(55) 2,070	4,708	6,573	11,281	914,180	38
		割合 %	14.8	11.8	13.3	10.8		
小テーマ展示		(256) 1,451	(25) 771	2,222	5,768	7,990	364,680	25
		割合 %	8.1	4.4	6.3	9.5		
合 計		(1251) 17,882	(479) 17,510	35,392	60,794	96,186	6,576,280	303
		割合 %	100.0	100.0	100.0	100.0		
平成 17 年度実績				31,598	53,771	85,369	6,629,540	303
				112%	113%	113%	99%	
平成 16 年度実績				34,027	53,416	87,443	7,087,820	303
				104%	114%	110%	93%	
平成 15 年度実績				33,598	56,829	90,427	6,780,360	303
平成 14 年度実績				38,439	57,447	95,886	7,402,560	302

(金額は税込み額)

1. 秋季特別展の無料欄には、関西文化の日（11月19日、20日）の入館者

（一般531人、高大生13人、65歳以上85人）の入館者を含む。

2. 有料欄の（ ）は、共通入館券による入館者数。無料欄の（ ）は、ぐるっとパスによる入館者数。

V 日本民家集落博物館事業

1. 50 周年事業について

日本民家集落博物館は、昭和 31 年 (1956 年)10 月 6 日、飛騨白川の民家を移築して開館、平成 18 年に満 50 年を迎えたのを記念して以下の事業を行った。

- ・ 記念式典

平成 18 年 10 月 6 日 (金) 飛騨白川の民家前にて、府市代表者や関係団体代表、鳥越憲三郎名誉教授、林野全孝名誉教授、大井家の人々等を招いて記念式典を開催した。

- ・ 記念演奏会

平成 18 年 10 月 7 日 (土) 小豆島の農村歌舞伎舞台にて、大阪音楽大学大学生によるサクソフーン四重奏、金管楽器五重奏による記念演奏会を開催した。

- ・ 記念講演と座談会

平成 18 年 10 月 8 日 (日) 小豆島の農村歌舞伎舞台にて、第 1 部：杉本尚次教授による講演会、第 2 部：杉本教授・瀧端真理子助教授を助言者として当館ボランティア代表 5 名による座談会を行った。

- ・ 記念 椎葉神楽公演—山人の祈りの舞—

平成 18 年 10 月 14 日 (土)・15 日 (日) 日向椎葉の民家にて、宮崎県椎葉村大河内神楽保存会を招き地元伝わる代表的椎葉神楽の内、15 演目、計 6 時間の公演を行った。

- ・ 秋の企画展 (詳細：下記)

- ・ 記念 秋のお茶会

平成 18 年 10 月 21 日 (土)・22 日 (日) 飛騨白川の民家前にて、入館者を対象に、裏千家千草会によるお茶会を開催した。

- ・ 米蔵ミニギャラリー作品展示

平成 18 年 9 月 6 日 (水)～10 月 29 日 (日) 堂島の米蔵にて、過去 5 年間の「民家集落作品展」の優秀作品を展示した。

- ・ 刊行物の発行

当館の歩みをまとめた「開館 50 周年記念誌」、過去発行した「民俗」をまとめた「民俗復刻版」、館所蔵の 12 棟の民家を解説した「民家の案内」を刊行した。

2. 日向椎葉の民家の解体修理について

日向椎葉の民家 (宮崎県東臼杵郡椎葉村から昭和 34 年に移築) は、老朽化が進み地盤の沈下等が生じていたため、国庫補助金と大阪府の負担金、財界からの援助により平成 19 年 1 月に解体修理に着工、工事完了は平成 20 年 6 月の予定。

3. 展示事業について

(1) 常設展示

①第一ブロック：国指定文化財を中心とするコーナー

国指定文化財 ・ 摂津能勢の民家・日向椎葉の民家・信濃秋山の民家

国指定重要有形民俗文化財 ・ 飛騨白川の民家

大阪府指定有形文化財 ・ 奄美大島の高倉

未指定 ・ 河内布施の長屋門・堂島の米蔵

その他・戦国期の五輪塔・地蔵を展示公開している。

また、大阪府文化財センター展示室「カルチュアはっとり」を設置している。

②第二ブロック：府指定文化財を中心とするコーナー

府指定有形文化財 ・ 大和十津川の民家・越前敦賀の民家・南部の曲家

大阪府指定民俗文化財 ・ 小豆島の農村歌舞伎舞台

未指定・北河内の茶室・剝舟（奄美のサバニ・島根のソリコ）を展示公開している。

(2) 企画展

「信濃秋山郷の暮らしー北越雪譜の世界ー」

信濃秋山の民家の故郷である長野県栄村とその周辺の信越地方は、世界有数の豪雪地帯である。江戸後期、越後塩沢出身の文人商人、鈴木牧之が著し、当時のベストセラーとなった「北越雪譜」の中から、当時の雪国の暮らしについての記述を中心に紹介し、原画写真とともに秋山郷の民具資料を展示した。他に、(社)雪センター・相沢博文氏の協力により、雪の中の暮らしを撮影した写真の展示。鈴木牧之記念館の協力により、塩沢を拠点に戦後の鉄道除雪技術の発展に尽力した荘田幹夫博士の業績と、春先に山の残雪の形によってその年の気候や季節の移り変わりを知る「雪形」の写真の展示を行った。

・ 期間 平成 18 年 10 月 1 日（日）～ 11 月 26 日（日）

・ 場所 カルチュアはっとり

・ 期間中、「信濃秋山郷ー豪雪の暮らし今むかしー」と題する下記連続講座を開催した。

月 日	演 題	講 師	参加
10 月 28 日（土）	「秋山の民家の移築経緯について」	島田 竜雄 （元箕面市郷土資料館館長）	29 名
11 月 4 日（土）	「秋山郷の風土と民家」	杉本 尚次 （大阪人間科学大学教授）	31 名
11 月 11 日（土）	「秋山の民家と信仰」	森 隆男 （関西大学教授）	31 名
11 月 18 日（土）	「GO 雪共和国・秋山郷への誘い」	相沢 博文 （前秋山郷観光協会会長）	33 名

(3) 企画展示

展示室「カルチュアはっとり」及び越前敦賀の民家において、当館所蔵の民具や大阪府文化財センター保管の遺物の展示を通じて、日本の農作業を考える下記の企画展示を行った。

- ①「日本の暮らしー春の歳時記ー」平成 18 年 5 月 10 日(水)～6 月 25 日(日)
- ②「日本の暮らしー秋の歳時記ー」平成 18 年 9 月 3 日(日)～9 月 24 日(日)
- ③小学生向け特別展示「昔の暮らし」平成 19 年 1 月 16 日(火)～2 月 28 日(水)

(4) 大阪府文化財センター・カルチュアはっとり展示

- ①「むかしの道具(発掘民具) 2 漁具」

開催期間 平成 18 年 12 月 14 日(木)～12 月 23 日(土・祝)

期間内の 12 月 16 日(土)に大阪府文化財センター福岡澄男理事によるお話「大昔の漁具」を開催

- ②禁野火薬庫の調査

開催期間 平成 19 年 3 月 8 日(木)～3 月 21 日(水・祝)

期間内行事として、3 月 10 日(土)に下記の調査成果報告会を行った。

- ・「禁野火薬庫の調査成果」 大阪府文化財センター技師 駒井正明
- ・「近代建築・近代化遺産を取り巻く近年の状況についてー研究と保存・活用の視点からー」
大阪歴史博物館学芸員 酒井一光

(5) 民家解説等の開催

- ①民家解説

ア、内容 23 名の解説ボランティアが、館内いずれかの民家に常駐し、囲炉裏を焚きながらその民家について来館者に解説を行った。

イ、期間年間を通じ開館日毎日

ウ、研修解説ボランティアを対象に下記の研修会を実施した。

月 日	テーマ	講 師
6 月 17 日(土)	「大和十津川の民家・越前敦賀の民家について」	杉本尚次 (大阪人間科学大学教授)

※なお、連続講座「信濃秋山郷ー豪雪の暮らし今むかしー」と、民家集落公開講座も、解説ボランティア養成講座の機会とした。

- ②民家特別公開

ア、内容 安全面等の配慮が必要であるため、平常は公開できない場所に 6 名のボランティアが担当し、来館者への特別公開を行った。

イ、期間 年間を通じ土曜、日曜を中心に開催

エ、場所 飛騨白川の民家の 2 階、奄美大島の高倉の蔵収蔵部分、北河内の茶室

- ③「囲炉裏に火を入れて」

ア、内容 当館職員に加えて、8 名のボランティアが、囲炉裏に火を入れ来館者へのいろいろ体験サービスを行うとともに、民家の燻蒸に努めた。

イ、期間 年間を通じ開館日毎日

エ、場所 飛騨白川の民家、摂津能勢の民家、信濃秋山の民家、南部の曲家他

④「民家の囲炉裏で暖まろう」

ア、内容 当館スタッフにより、囲炉裏に火を入れ、来館者にお茶の無料サービスを行った。また、おしるこの販売を行った。

イ、期間 平成 18 年 10 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日の土・日曜と祝日

エ、場所 南部の曲家

(6) 季節行事の開催

来館者に、日本に伝わる四季折々の行事に親しんでいただくため、移築民家を活用して下記の催しを行った。

行事名	開催期間	開催場所	備 考
こいのぼりと 五月人形飾り	4 月 20 日 (木) ～ 5 月 7 日 (日)	日向椎葉の民家前庭 越前敦賀の民家	
ようか日	5 月 2 日 (火) ～ 5 月 7 日 (日)	摂津能勢の民家	
七夕かざり	体験：6 月 18 日 (日) かざり：6 月 20 日 (火) ～ 7 月 7 日 (金)	大和十津川の民家 縁側	体験参加 37 名
お盆飾り	8 月 5 日 (土) ～ 8 月 15 日 (火)	信濃秋山の民家	
芋名月	9 月 9 日 (土) ～ 9 月 18 日 (祝)	大和十津川の民家	
十五夜の供え物	9 月 14 日 (木) ～ 9 月 18 日 (祝)	日向椎葉の民家	
正月かざり	1 月 5 日 (金) ～ 1 月 31 日 (水)	館内各民家	
ふるさとのお雑煮会	1 月 7 日 (日) 8 日 (祝)	飛騨白川の民家 日向椎葉の民家	雑煮売上 533 食
桃の節句・雛飾り	2 月 6 日 (火) ～ 3 月 4 日 (日)	越前敦賀の民家	

(7) 各種行事の開催

①押し花作品展と押し花教室

ア、内容 和泉市で活躍している押し花作家グループの作品を展示し来館者に鑑賞していただいた。また、期間中に 2 日間、押し花教室 (コースター作り) を開催した。

イ、期間 平成 18 年 4 月 1 日 (土) ～ 4 月 30 日 (日)

ウ、場所 南部の曲家

・なお、11 月 25 日 (土)・26 日 (日) には押し花による年賀状作りの教室を開催した。

②春のお茶会

ア、内容 裏千家「千草会」の協力により春のお茶会を行った。

イ、期間 平成 19 年 3 月 25 日（日）

ウ、場所 北河内の茶室

③子どもアート＆クラフトまつり

ア、内容 当館の近隣に住む人々の指導により、館内の民家や広場において、子ども達が創作活動に親しむ活動を行った。

イ、期間 平成 18 年 5 月 4 日（休）・5 月 5 日（祝）及び 11 月 3 日（祝）・4 日（土）

ウ、場所 南部の曲家

エ、参加 379 名

④昔話と紙芝居に親しむ会

ア、内容 主に小学生を対象として、豊中子ども文庫、豊中紙芝居の会の協力により昔話と紙芝居に親しむ会を行った。

イ、期間 平成 18 年 6 月 17 日（土）＜2 回公演＞・10 月 29 日（日）・11 月 25 日（土）

平成 19 年 3 月 18 日（日）＜2 回公演＞計 4 日間、6 回公演

ウ、場所 大和十津川の民家

エ、参加 140 名

⑤民家集落作品展

ア、内容 当館を題材にした絵画や写真、模型、また、当館の開催行事での作品等を公募し南部の曲家で展示した。なお、優秀作品の表彰式を初日に行った。

イ、期間 平成 19 年 3 月 4 日（日）～3 月 21 日（祝）

ウ、場所 南部の曲家

⑥米蔵ミニギャラリー展示

展示内容	期 間
民家集落中国ツアー写真展	4 月 1 日（土）～ 4 月 13 日（木）
「梅の撮影会」写真展	4 月 15 日（土）～ 4 月 23 日（日）
民家集落作品展・優秀作品展示	4 月 29 日（祝）～ 6 月 30 日（金）
「故きを温ねて」写真展	7 月 1 日（土）～ 8 月 31 日（木）
民家ツアー写真展	11 月 1 日（水）～ 11 月 25 日（土）
トンボ玉・ガラスミニチュア展示	11 月 28 日（火）～ 1 月 14 日（日）
着物いろいろ展	1 月 17 日（水）～ 2 月 18 日（日）
写真展示「雲南省の建物」	2 月 20 日（火）～ 2 月 28 日（水）
歴史体験隊作品展示	3 月 2 日（金）～ 3 月 23 日（金）
金成幸一「飛騨路水彩画スケッチ展」	3 月 24 日（土）～ 3 月 31 日（土）

⑦その他、下記の取り組み及び行事を行った。

・金山の巨石群紹介

開催期間；平成 18 年 4 月 1 日（土）～4 月 13 日（木）

- ・ 中国の伝統的建造物群
開催期間；平成 18 年 4 月 16 日（日）～ 5 月 7 日（日）
- ・ 大西幸子正絹ちりめん細工作品展
4 月 15 日・16 日江戸時代から続くちりめん細工作品の小物を展示した。
- ・ 秋山の民家の神棚の復元
信濃秋山の民家において、移築前に祀られていた神棚を復元した。
- ・ お茶セミナー
「八十八夜お茶セミナー」（5 月 3 日～ 5 日）、「中国茶セミナー」（2 月 17 日）を北河内の茶室において開催した。
- ・ 「敬老の日」特別優待及び宮崎県物産販売
9 月 16 日～ 24 日、65 歳以上の入館料を特別料金 200 円とし、粗品をプレゼント、南部の曲家にてお茶をサービス行った。また、日向椎葉の民家にちなんだ椎葉村の品物を中心とした宮崎県の物産販売をした。特別優待者数は 254 名
- ・ 落語で笑うて民家―『百楽の会』民家集落口演―
11 月 3 日、大阪府老人大学上方演芸科 3 期終了生による落語発表会を開催した。
- ・ 民家ツアー「近江国の歴史と文化を旅する」
9 月 10 日、当館学芸員が同行し滋賀県湖北地方のツアーを募集し開催した。
- ・ 開運プレゼント
12 月 1 日～ 26 日、抽選で、来年の干支のカレンダーや置物をプレゼントした。
- ・ 菊炭復活！「池田炭展示と大茶会」・正月飾り炭制作
12 月 9 日・10 日、北河内の茶室、小豆島の農村歌舞伎舞台、南部の曲家を利用して茶会や池田炭の飾り制作及び関連商品の販売を行った。
- ・ 講演会「原田城と原田右衛門尉」
2 月 3 日、当館に移設されている供養塔に関して、古野貢（武庫川女子大講師）を講師として招き、講演会を開催した。
- ・ おはなしおはなし「民家集落四季だより」
2 月 12 日、当館の四季の様子について話者：当館副館長によるお話会を行った。
- ・ 募集朗読会
3 月 16 日、参加者を募集し、大和十津川の民家において朗読会を開催した。
- ・ 夜間特別開館
4 月 1 日・2 日 5 月 5 日・6 日 3 月 31 日には、館内要所に照明設備を設置し、開館時間を 19：00 まで延長して夜間特別開館を行った。

（８）体験教室の開催について

- ①民家等を利用し下記の体験教室を長期に亘って開催した。

体験教室名	開催期間	開催場所	体験参加者数
養蚕体験 糸紡ぎ体験	6月28日～7月30日 8月26日(土)・27日(日)	飛騨白川の民家	糸紡ぎ体験 16名
はたおり体験	4月29日・30日、5月16日～21日、9月21日 ～24日、10月4日～14日の水・土、11月11日 ～19日	摂津能勢の民家 南部の曲家	78名
石臼体験	4月2日～6月11日、9月10日～12月3日、2 月25日～3月25日の毎週日曜日 8月22日(火)～27日(日)	石臼体験コーナー	438名
ワラぞうり作り体験	6月3日～24日、3月3日～3月17日の毎週土曜日、 11月5日～12月3日の毎週日曜日	南部の曲家 土間	92名
コマ遊び体験	4月1日～7月8日、9月16日～12月2日、2月 17日～3月31日の毎週土曜日	日向椎葉の民家前	1200名

②また、季節に応じて、下記の体験教室も開催した。

体験教室名	開催期間	開催場所	指導・参加者数
昔の遊び体験	5月6日(土)・7日(日)	飛騨白川の民家 ・館内広場	久保田 栄他 220名
民家模型作り	7月28日(金)～30日(日)	カルチャアはっとり	寺本雅男 55名
寺子 屋塾	歴史新聞 7月23・27日・8月29日 いろはカルタ 8月22・23・25日 石に絵を描こう 8月24日	カルチャアはっとり	山藤 博他 97名
鉄道模型遊び	8月1日(火)～6日(日)	カルチャアはっとり	小畑克己 62名
竹細工教室	8月26日(土)・27日(日)	館内広場	江頭文雄他 25名
星の観察・虫の鳴声を聴く会	10月8日(日) (閉館時間20時まで延長)	飛騨白川の民家、他	南川充男他 20名
民家の「はんこ」づくり	12月2日(土)・3日(日)	カルチャアはっとり	山田洋子 47名
ガラスミニチュア制作体験	12月10日(日)	カルチャアはっとり	河原田忠信 44名
しめなわ作り教室	12月17日(日)	南部の曲家 大和十津川の民家	森川良一、 大元敦子他 40名
餅つき体験	2月3日(土)・4日(日)	日向椎葉の 民家前	佐藤文夫他 176名
箏演奏会 体験教室	3月3日(土)・4日(日)	大和十津川の民家	川島正子、柳友紀子 35名
すばらしい DVDを見よう	3月4日(日)	カルチャア はっとり	正木節治 22名
オカリナ作り	3月21日(祝)	小豆島の農村歌舞伎 舞台	津田幸男 61名

4. 普及啓発事業について

(1) 民家集落公開講座

3月17日（土）に「カルチュアはっとり」を会場に、以下の公開講座を開催した。

- ・演題「信越地方の雪の暮らしー昭和30年代の秋山郷と津南町ー」

講師桑原百合枝（津南町歴史民俗資料館）

- ・演題「焼畑農耕つづうらうらー椎葉村から秋山郷までー」

講師松本芳郎（雑穀研究会会員）

- ・講座受講34名

(2) 故きを温ねて

当館周辺に点在する史跡の見学会を開催した。当館館長が解説を行いながら案内、当館では開催中の企画展等を見学、その後、大和十津川の民家を利用して昼食休憩の場とした。平成18年度に実施した内容は以下の通り。

開催日	主な見学場所など	参加数
6月25日（日）	西国街道、萱野三平記念館、当館では「日本の暮らしー春の歳時記ー」の解説・見学	12名
3月11日（日）	誓願寺、お亀地藏、勝部遺跡、浄行寺、超光寺 当館ではカルチュアはっとりで開催中の「禁野火薬庫の調査」の解説・見学	12名

(3) 米蔵茶論

堂島の米蔵を会場に、当館館長を囲んで、文化財、民家、民具、その他について語り合う小さなサロンを開催した。

- ・5月7日（日）「招興の民家」
- ・12月16日（土）「千曲川沿いの民家」
- ・2月25日（日）「麗江・大理の建築」

(4) 子どもクラブ活動

子ども達が博物館に親しむとともに、当館が子ども達にとって安全で有意義な居場所となることを願って、下記のクラブを結成し様々な体験活動を行った。なお、活動の指導・支援は当館職員及びボランティアが担当し、子ども達と地域の人々との交流の場となった。

クラブ名	対 象	参加数
みんなクラブ	豊中市立泉丘小学校及び緑地小学校の児童とその保護者	23名
いろりクラブ	みんなクラブ以外の小学校の児童とその保護者で、主に土曜日を中心に活動	37名

かやぶき クラブ	みんかクラブ以外の小学校の児童とその保護者で、主に日 曜日を中心に活動	29 名
-------------	--	------

(5) こども茶道体験教室

北河内の茶室を利用して、小中学生とその保護者を対象に「こども茶道体験教室」を開催、指導は、裏千家の岡村矩巳子、山内美恵子、柳田順子、石田収二にお願いした。

こども茶道体験教室	6月4日(日)～3月25日(日) 日曜日を中心に18回活動	21 名
-----------	----------------------------------	------

(6) こども囲碁クラブ

小中学生を対象に大和十津川の民家を会場として「こども囲碁クラブ」を開催、指導は関西棋院の芦田磯子棋士を中心にボランティア9名が当たった。

こども囲碁クラブ	5月27日(日)～3月31日(日) 土曜日を中心に34回活動	23 名
----------	-----------------------------------	------

(7) 博物館実務実習

大学生に対し、下記のように学芸員の実務について指導した。

期 間	大学名	人 数
7月27日(木)～30日(日)	大阪国際大学	3 名
7月27日(木)～30日(日)	大谷大学	1 名
7月27日(木)～30日(日)	関西学院大学	5 名
8月2日(水)～3日(木)	奈良大学	18 名
8月23日(水)～27日(日)	追手門学院大学	5 名

(8) 職場体験学習

中学生の職場体験学習を受け入れ、民家の清掃や囲炉裏の世話、野外作業、窓口業務等の体験を行うとともに、昔の生活や民家について学習を深める機会とした。

期 間	中学校名	人 数
10月24日(火)～26日(木)	豊中市立第十七中学校	4 名

(9) その他

近隣の小学生を招待し、当館の畑でボランティアが栽培したサツマイモの芋掘り、民家の庭でセイロ蒸しと試食、併せて落葉、ドングリ集め等の体験学習を行った。

期 間	学校名・学年	人 数
10月19日(木)	豊中市立緑地小学校3年生	113 名

(10) 歴史体験隊

大阪府文化財センター主催により、歴史を体験的に学ぶことにより、歴史を理解することはもちろん、学ぶことの楽しさを知ってもらいたいと願って「歴史体験隊」を募集し、以下の活動を行っ

た。(参加は隊員 27 名と保護者)

- ・ 1 月 19 日 (日) 「縄文ポシェット」
- ・ 12 月 24 日 (日) 「はにわ作ろう」
- ・ 2 月 17 日 (土) 「はにわ焼こう」
- ・ 2 月 25 日 (日) 「ペーパークラフト」

5. 広報事業について

(1) 広報事業

①博物館の事業内容等を広く周知するため P R 紙等を作成・配布した。

項 目	発行月	発行部数
秋の催し案内	8 月	25,000
冬の催し案内	12 月	20,000
春の催し案内	3 月	20,000
ふるさとだより No. 28	12 月	3,000
ふるさとだより No. 29	3 月	3,000

②インターネットを活用し、ホームページに催し案内を掲載した。

URL <http://www.occh.or.jp/minka/>

③各事業の実施にあたって、府庁記者クラブ、豊中市記者クラブ、地域広報紙等に資料提供を行った。また、豊中市広報誌への掲載、豊中ケーブルテレビでの放送を依頼することによって、地域に密着した博物館となるよう努めた。

④来館者が当館紹介の DVD を視聴できるよう、堂島の米蔵内にコーナーを設けるとともに、希望者に無料で貸し出しを行い広報に努めた。

⑤豊中市民ギャラリー（阪急電車豊中駅に隣接）にて「日本民家集落博物館展」を開催、当館所蔵民具や民家集落作品展優秀作、子どもクラブの作品を展示し、広報を行った。＜7 月 4 日（火）～9 日（日）：期間中の入場者数は 433 名＞

6. 館内施設の整備について

(1) ボランティア活動による館内の整備

竹林や植栽の手入れ・花壇や畑の作物の栽培等をボランティア（参加 9 名）に依頼し、施設の整備や館内の景観保全に努めた。

(2) その他

業者委託により松枯木の伐採や高木の剪定等実施した。

7. 「移築民家を守る会」について

今後、当館の民家を計画的に修理を行う必要があることから広く支援を求めるため「移築民家を守る会」を結成し募金活動を行った。

8. 入館者数及び入館料一覧表

(平成 18 年度)

月	入館者数 (人)	入館料 (円)	開館日数 (日)
4 月	5,976	2,141,450	26
5 月	7,117	2,129,600	26
6 月	2,480	841,550	26
7 月	2,143	676,900	26
8 月	1,606	502,050	27
9 月	2,525	842,700	26
10 月	6,996	1,954,550	26
11 月	4,226	1,313,200	26
12 月	1,720	446,700	22
1 月	2,871	773,300	23
2 月	3,003	862,600	24
3 月	3,604	1,192,200	27
合 計	44,267	13,676,800	305
17 年度	45,520	14,015,100	306

※ 入館料については消費税込みで記入

消費税抜きの入館料収入は 13,025,525 円

	平成 18 年度	平成 17 年度	平成 16 年度
入館者数	44,267 人	45,520 人	44,463 人
入館料	13,676,800 円	14,015,100 円	14,409,750 円
開館日数	305 日	306 日	307 日

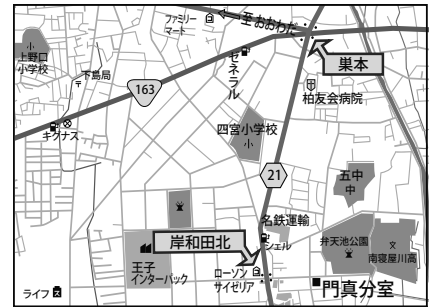
事務所・博物館所在地



京阪調査事務所
〒576-0022
交野市藤が尾1丁目2
TEL.072-895-1200 FAX.072-895-1201



寝屋川分室
〒572-0824
寝屋川市萱島東3丁目28-4
TEL.072-823-6831 FAX.072-823-6835



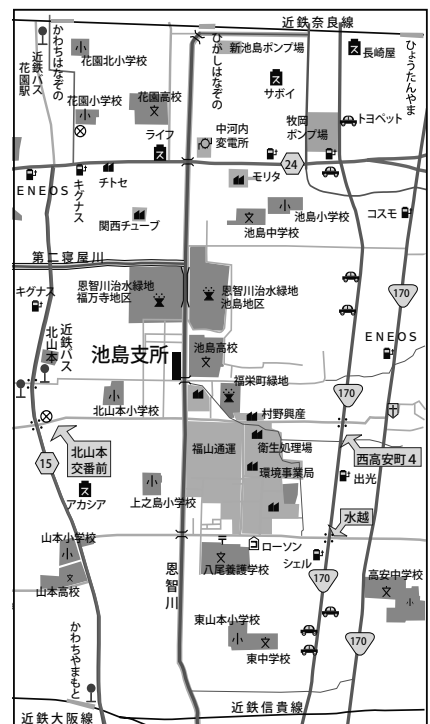
門真分室
〒571-0002
門真市岸和田2丁目5-32
TEL.072-881-2480 FAX.072-881-2481



本部事務所
〒590-0105
堺市南区竹城台3丁目21番4号
TEL.072-299-8791 FAX.072-299-8905
普及部
TEL.072-290-0491 FAX.072-290-2611



中部調査事務所
〒577-0012
東大阪市長田東1丁目9番16号
TEL.06-6785-3921 06-6785-3515
資料室
TEL.06-6785-4531 FAX.06-6785-5431



池島支所
〒581-0842
八尾市福万寺町8丁目地先
TEL.072-999-9890 FAX.072-990-5131



南部調査事務所
〒590-0015
堺市堺区南田出井町1丁目1-10
TEL.072-227-6001 FAX.072-227-6101



古市分室
〒583-0854
羽曳野市経里3丁目1-13
TEL.072-950-2080 FAX.072-958-5855

ホームページアドレス
<http://www.occh.or.jp>



大阪府立弥生文化博物館
〒594-0083
大阪府和泉市池上町443
TEL.0725-46-2162 FAX.0725-46-2165
URL <http://www.kanku-city.or.jp/yayoi/>



大阪府立近つ飛鳥博物館
〒585-0001
大阪府南河内郡南河内町大字東山299番地
TEL.0721-93-8321 FAX.0721-93-8325
URL <http://www.mediajoy.com/chikatsu/>



日本民家集落博物館
〒561-0873
大阪府豊中市服部緑地1-2
TEL.06-6862-3137 FAX.06-6862-3147
URL <http://www.occh.or.jp/minka/>

財団法人 大阪府文化財センター年報

平成18年度

平成19年12月31日 発行

発行 財団法人 大阪府文化財センター

〒590-0105 大阪府堺市南区竹城台3丁21-4

TEL072-299-8791 FAX072-299-8905

印刷 株式会社 中島弘文堂印刷所

表紙 シンボルマーク

八尾市美園遺跡出土 重要文化財 家形埴輪

